

監事長兼中佐 仙頭武央 監事大尉 鈴木豐吉

軍醫長 軍醫中監 岡文造 附 軍醫少監 根來祐春

附 大軍醫 鈴木貫之助 同 中軍醫 稻垣久逸

主計長 主計少監 川口秀武 同 大主計 蒔田惣次

砲術教員

兵曹長 藤井安之助

下士官十三名

水雷術教員

上等兵曹 內川伊太郎

下士官七名

運用術教員

上等兵曹 土田鐵治

同 松本仙二

下士官十二名

航海術教員

信號兵曹二名

機關術教員

機關兵曹長 石井惣之助

上等機關兵曹 大村房太郎

下士官六名

囑託教員

柔道 肝付宗次

柔道 狩野時三郎

同 森松度

劍術 猿田東之助

同 加藤新太郎

本校附

上等筆記 増田清之助

書記 內田良敬

書記 倉田龜三郎

同 田島幸太郎

同 國枝清吉

同 森脇熊次郎

同 大久保友市

技手 朝廣勇吉

技手 原田政吉

雇員傭人 百〇九人

雇員 二十四人

傭人 八十五人

明治三十五年

生徒總員 六〇一名

一號生徒 一九四名

二號生徒 二〇八名

三號生徒 一九九名

明治三十六年

一月十二日 本校教程ヲ改正ス

一月十四日 第三十三期生徒柏田一道疾病ニヨリ生徒ヲ免ス

一月三十日 有栖川宮裁仁王殿下御着校内御殿ニ御居住アラセラル

二月二日 入學志願者學術試驗及第規格訂正

二月五日 三十五年式海軍銃十挺受領ス

二月九日 端艇修理並ニ野砲置場二階模樣替ヲナス

二月十日 改正教程各學科試驗點數及時間表記事中追加訂正ス(略)

二月日不詳 練習艦鎮北横須賀鎮守府所管ヲ解カレ吳鎮守府所管トナル

三月四日 第三十期生徒津留雄三ニ卒業證書ヲ授與ス(疾病ニ依リ試驗未了ノ爲メ)

三月十日 生徒石黒榮治吳海軍病院ニ於テ死亡ス

三月十二日 生徒百八十名ヲ召募ス後百九十二名ニ増加セラル

體格及學術規格等總テ前年ニ同シ書式試驗場所又同シ

三月日不詳 水道鐵管一七七三間及端船要具格納所竣成ス

水道鐵管 射的場竣成ス

(按) 三十五年六月八日一部竣成使用中ノ處全部完成ス

四月一日 仙頭中佐東郷海軍兵學校長出張不在中同職代理兼務ヲ命ス

四月七日 江田島電信局閉鎖ニ付電信事業ハ江田島郵便局ニ移サル

四月二十一日 海軍大佐吉松茂太郎本校教頭兼監事長ニ補セラル

五月一日 第三十三期生徒本多純平疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

五月十三日 魚形水雷十四尹切斷面(個)十五拇藥莢製造順序(揃)十五拇鍛鋼榴彈製造順序(揃)吳式尾

栓模型(個)有坂式尾栓模型(個)各一備付方官房第一七〇七號ノ二ニテ認許

五月十八日 魚形水雷切斷雛形壹個受領

六月日不詳 生徒分隊編制單學年組織ナリシヲ學年混合組織ニ變更セラル

(接) 三十四年十二月前混合組織ナリシ

六月九日 三十五年式海軍銃七〇一挺ヲ受領ス

六月十日 伊豫道後杉浦敬孝本校水泳教員ヲ囑託ス 報酬月十五圓(九月二十一日解囑)

六月十五日 自今謹慎又ハ處罰中ニアルモノハ帽子ノ覆ヲ取除ク事ニ定ム

六月二十二日 第三十二期生徒藤井富一疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

六月二十七日 第三十七期生徒木村秀平疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

六月日不詳 練兵場水吐溝ノ改築ヲナス

七月五日 加藤正誼ニ水泳教員ヲ囑託ス 報酬月十五圓(九月二十一日解囑)

七月七日 守口福太郎ニ劍術教員ヲ囑託ス (報酬月十九圓)

七月十五日 自今生徒一人ニ付左記ノ彈藥ヲ年額トシテ消耗セシメラル小銃彈藥九十發同空包五十發
拳銃彈藥十二發以內

七月日不詳 東京外十八ヶ所ニ於テ生徒志願者ノ入校試験ヲ行フ

周圍土塀増築成ル (元南方正門撤去ノ爲)

八月十九日 吉松大佐海軍兵學校長東郷正路上京不在中同職代理兼務ヲ命ス

八月二十一日 軍艦鎮邊鎮北艦籍ヲ除カレ鎮邊ハ雜役船トシテ本校附屬ト定メラル九月一日受領

八月二十七日 第三十三期生徒國江儀平吳海軍病院ニ於テ死亡

八月三十一日 本校定員中改正 (機關兵十名増加)

九月一日 生徒岡本五九雄飯田ト改姓ス

九月二日 海軍生徒入校試験成績ハ自今部外ニ發表セス

九月二十二日 活版事業所入口及間内仕切模様替ヲナス

十月二日 海軍用地内樹木伐採ヲ要スルトキハ樹木ノ種類太サ本數及理由ヲ詳記シ位置圖ヲ添ヘ吳鎮

守府へ照會ヲ要スル旨通牒ニ接ス

第三十一期生徒倉谷箕藏本校條例第二十二條第一項ニヨリ生徒ヲ免ス

十月七日 本校第四十五號汽艇ニ水雷發射機据付工事竣成

十月十四日 ヨリ四日間本縣賀茂郡原村ニ於テ生徒野外演習ヲ施行ス

十一月二日 第三十一期生徒赤谷弘夫疾病ノ爲生徒ヲ免ス

十一月四日 第三十三期生徒村松純吉疾病ノ爲生徒ヲ免ス

十二月五日 第三十二期生徒田中保橋ハ北川ト永島初治郎ハ河野ト改姓ス

十二月七日 海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證書式改正 (達第一六五號)

十二月十一日 生徒ニ授與セラレタル品行善良章ハ剝奪セラルル迄ハ本校生徒タルノ間之カ品行善良

ヲ旌表スル徽章タルヘキモノニシテ學年毎ニ重テ同一人ニ授與セラル、ノ制ヲ廢ス

十二月十二日 生徒館附屬賄所増築成ル

第三十二期生徒淺田泰順小野信藏ハ本校條例第二十二條第一項及第二項ニ依リ同武田信彦石井博ハ

同條第三項ニヨリ三十三期生徒石川福三郎ハ同條第三項ニヨリ生徒ヲ免ス

(三十二年官房第五二四五號)ニテ海軍教育本部教育要旨ヲ廢セラレ候ニ付テハ追テ教育綱領ヲ定ム

ヘキニ付當分從來ノ例ニ依リ教育ヲ施行スヘシ。(教育本部長)

十二月十三日 及第證書授與式ヲ施行ス

十二月十四日 卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ 依仁親王殿下御臨場アラセラル又特ニ侍從武官大城源三郎ヲ差遣ハサレ學術優等者

三名ニ雙眼鏡ヲ下賜セラル

皇太子殿下ヨリ東宮武官中村靜嘉ヲ差遣ハサル

卒業者氏名

枝原百合一	山口	菊井信義	鳥取	鈴木重音	長野
寺島健	和歌山	船越隆義	廣島華	長谷川清	福井
古川六郎	佐賀	西崎勝之	岡山	松下元	福岡
植村茂夫	和歌山	畔柳三男	三神奈川	谷井德之助	和歌山
山本土岐彦	佐賀	河野董吾	山口	小島高彦	大阪
小倉泰造	岐阜	角田順	石川	和田實徳島	
加藤長太郎	東京	廣瀬豊	福島	大谷四郎	東京
瀧田吉郎	富山	井上四郎	福岡	隅田益吉	高知
關根繁男	佐賀	清遠光禮	高知	矢島健夫	茨城

平山 榮 鹿兒島	藤吉 峻 福岡	安藤 良治 岐阜
松村 和介 山口	桑原 岩次郎 福井	稻野 喜平治 静岡
岡島 轍 石川	今川 眞金 愛媛	河野 三吉 東京
安井 亮治 岐阜	近藤 謙吉 愛知	後藤 彌七郎 山形
小澤 潔 鳥取	山口 延一 佐賀	安野 康 和歌山
小栗 信一 鹿兒島	鈴木 又藏 神奈川	小森 吉助 巖手
神野 靜 和歌山	加島 次太郎 香川	中原 市介 山口
宮崎 敬次郎 福岡	松崎 直 熊本	志村 實 佐賀
上原 太一 山口	山本 和太郎 鳥取	古谷 又一 山口
福馬 熊雄 廣島	折田 一二 東京	吉川 眞清 高知
高木 平次 鹿兒島	松岡 雄 静岡	新久田 齋 佐賀
宮城 胖 岡山	市村 久雄 兵庫	森野 内富三 廣島
尾本 知 東京	青木 國太郎 群馬	松永 盛 福井
山崎 圭二 佐賀	長谷川 徹也 愛媛	太田 文次 東京
中村 英彦 三重	鈴木 秀次 愛媛	津田 靜枝 東京

堤 勳 大分	伊藤 完 三重	亥角 喜藏 京都
及川 古志郎 巖手	青木 貞之助 山口	南部 道二郎 東京
本内 達藏 鳥取	關谷 光平 愛知	中村 有年 福岡
青山 源吉 鹿兒島	岩淵 欽二 青森	迎 爲次郎 佐賀
福井 義房 和歌山	岡本 熊太 高知	竹内 康治 岡山
大谷 喜四郎 廣島	宮部 光利 愛媛	和島 能二郎 石川
久保 勉 愛媛	横井 要 東京	鹿野 弘 鳥根
小林 精之介 兵庫	後藤 章 宮崎	田中 恒藏 鳥取
佐々木 辰彦 鹿兒島	角 恒吉 大分	梅田 三良 茨城
坂本 須賀男 佐賀	河村 章二 廣島	飯田 五九雄 静岡
平田 象作 高知	儀 俄璋 助 東京	岩村 兼言 宮崎
村田 熊猪 高知	伊藤 長重 福井	古川 良一 佐賀
杉木 幸雄 群馬	三矢 四郎 山形	市來 崎慶一 鹿兒島
丸山 半三郎 愛媛	鶴田 鶴治郎 岡山	神本 國太郎 山口
御厨 豊 佐賀	X 市川 惠治 長野	渡邊 忍 愛媛

明治三十六年

市川 彈海

濱田豊太郎 高知	柴田七郎 佐賀	小早川隆次 香川
青山徳義 京都	須原庫次 兵庫	藤好鐵之助 愛媛
倉島 巽 長野	志岐重吉 東京	石城尙二 長野
田中千代太郎 佐賀	日平茂七 熊本	森下龜楠 和歌山
松山 爲麿 鹿兒島	重松義人 福岡	川田 功 高知
梶村文夫 福岡	後藤充藏 山口	小松三郎 東京
池中健一 鳥取	成田富三郎 愛知	奥田秋一郎 熊本
柳瀬新作 佐賀	丹下弘男 愛媛	園田仁六 佐賀
岩崎本彦 福岡	澤本 齊 高知	宮澤利男 福岡
秀島政一 佐賀	橘 春精 愛媛	村上 透 熊本
山縣柳助 山口	眞島孝松 山形	高橋爲次郎 石川
中岡俊三 山口	井上鐵彦 山口	和田愛三郎 島根
柏木辰生 熊本	菊地 博 茨城	佐久間直吉 福岡
田中 積 佐賀	大庭忠藏 佐賀	釣谷次三郎 石川
鈴木 勇 福井	多ヶ谷勝美 宮城	川本幸雄 熊本

西内熊意 高知	山川欽保 東京	早瀬佐十郎 愛媛
石原北夫 福井	田中幸郷 神奈川	林 新太 東京
内山義一 新潟	山崎 正 高知	南摩龍夫 東京
從五位 松平忠壽 東京華	河村梅丸 愛知	小林省三郎 新潟
森田寛一 廣島	原井雄一 廣島	則定嘉久治 兵庫
宮田源八 茨城	増田 薫 愛媛	寺田禮一 廣島
澁江良次郎 佐賀	村田英男 茨城	大蘆義宜 島根
高辻廣長 東京華	長命唯巳 長野	岩永角治 長崎
原田隼太郎 山口		

枝原百合一 以下六十三名 嚴島乗艦ヲ命セラル
 菊井信義 以下六十二名 橋立乗艦ヲ命セラル
 鈴木重音 以下六十二名 松島乗艦ヲ命セラル
 十二月十七日 新生徒入校

入校者氏名

佐古良一 山口 前田政一 鳥取 渡部 釧島根

栗田了三 佐賀 佐藤三郎 福島
 安藤隆 熊本 峯信夫 長崎
 園田實 鹿兒島華 名古屋十郎 山形
 河毛肇 京都 原 鵬二郎 石川
 吉川晃 宮城 山口長南 鹿兒島
 平井蓮九 鹿兒島 三井清三郎 和歌山
 久原福松 佐賀 宇野積藏 福岡
 和田專三 山口 中村忍 石川
 寺島啓三 香川 古賀峯一 佐賀
 香椎哲二郎 福岡 久保七次 富山
 山本清 東京華 南里俊秀 神奈川
 彭城昌國 東京 河原巽 福岡
 箕村登 愛知 太田垣富三郎 兵庫
 大西次郎 三重 山縣少介 山口
 蒲生武司 宮城 中島外喜男 石川
 北正一郎 和歌山 橋本彦七 愛知
 阿部泰男 愛知
 出羽重夫 東京
 安富正造 鳥取
 北岡春雄 高知
 岡田義一 山形
 菊野茂 鹿兒島
 染河啓三 鹿兒島
 牧田克己 鳥取
 高橋健二 茨城
 村上佐 愛媛
 遠山彦次 山形
 福島三木男 東京
 平野武雄 神奈川
 天野敏平 愛知
 赤間正助 宮城
 佐久間次郎 岡山

三浦正行 秋田 井止龍起 熊本
 小泉次雄 福井 武富邦茂 東京
 神山忠 東京 谷口位津美 熊本
 片桐昌 長野 江藤貞三 佐賀
 馬嶺篤治 三重 收兼幸 熊本
 今泉佐平 佐賀 堤佐一郎 福岡
 神通久次郎 富山 三宅巖五 兵庫
 松田昌正 静岡 藤木利三郎 佐賀
 真崎勝次 佐賀 澁谷莊司 新潟
 出淵松夫 鹿兒島 石井鉄之助 茨城
 中村虎猪 高知 信田新一 山口
 江副藤次 佐賀 栗野原謙三 長野
 長井清 鹿兒島 白石清 静岡
 横山馨 東京 松川晃 熊本
 柴田源一 愛媛 永井信太郎 東京
 伊藤貞一 福岡
 小山與四郎 埼玉
 合葉庄司 長野
 住山徳太郎 大阪
 小山泰治 熊本
 増山忠雄 東京
 村田章一 廣島
 田中政治 鳥取
 千谷定衛 高知
 田中正明 鳥取
 藥谷正治 福島
 日暮豊年 東京
 本川友治郎 富山
 片桐英吉 山形
 西尾四郎 東京

明治三十六年

○ 日比野正治 愛知
 白根貞介 山口
 野原伸治 山口
 今泉來藏 佐賀
 田伏亮 石川
 久保忠道 鳥取
 倉田七郎 福岡
 渡部威 福岡
 佐村義男 熊本
 中島直熊 鹿兒島
 中村秀吉 三重
 美添鉉二 東京
 隈部信夫 熊本
 松尾武彦 佐賀
 益田小太郎 佐賀

小澤覺輔 秋田
 中村寬 廣島
 柏木質 熊本
 高山貞三郎 群馬
 池上濟吾 福島
 齋藤直彦 宮城
 兵頭宗治郎 愛媛
 三由榮次郎 熊本
 岸川三平 佐賀
 小川重太郎 岡山
 中村研五 東京
 宇都宮小市 愛媛
 牧野廉一 岡山
 羽鳥幾之助 埼玉
 久野純吉 三重

湯野川忠一 山形
 野阪通俊 神奈川
 丸山聚見 長野
 和田秀穂 鹿兒島
 石井先知 東京
 三好七郎 香川
 松浦純 長崎
 岩崎素直 熊本
 松田鹿三 兵庫
 小川雄平 岡山
 西川速水 山形
 椎名直吉 千葉
 平田昇 山形
 瀧本章夫 和歌山
 早川信一 東京

菊山修五郎 愛媛
 寺島讓 靜岡
 石井三郎 新潟
 手島安太郎 福岡
 鈴木春五郎 福岡
 西村徳市 佐賀
 栗本三千之助 山形
 福井恒太郎 福岡
 木山孚 福岡
 大宅由耿 佐賀
 上田爲春 神奈川
 田上龍見 岡山
 澤野鉄郎 佐賀
 藤田寅治 石川
 島山義赴 鹿兒島

山崎彦次 三重
 波多野二郎 東京
 色川武夫 茨城
 池田敬之助 東京
 篠田賢則 東京
 北山靖治 兵庫
 南里忠三 佐賀
 上林潔 岡山
 小林静 山梨
 脇田玄尋 大阪
 和田省三 長崎
 山中順一 山口
 今泉三八郎 佐賀
 平尾重吉 靜岡
 松元榮七 鹿兒島

松田源次郎 熊本
 栗田稔 愛媛
 鈴木武平 群馬
 徳富元一 佐賀
 高木忠治 山口
 庄川忠雄 新潟
 太田増右衛門 愛知
 牧瀬忠三 佐賀
 丹羽口哲夫 石川
 山崎祐三郎 長野
 工藤健次郎 大分
 高橋真十郎 島根
 笠井功 滋賀
 和田百壽 群馬
 山本強介 愛知

藤田 正 朽木 秀 島良三 佐賀 榎 喜久太 佐賀

小森 幸一 佐賀 伊 佐 卓 彌 朽木 川 名 彪 雄 靜岡

(按) 百八十名久校ノ處十三名身體不合格ニ付補缺トシテ丹羽口哲夫以下十三名又別ニ藤田寅治以下十二名ヲ加ヘラル蓋シ本年中ニ生徒ヲ免セラレタルモノノ補員ノ意ナラン補缺者ハ十二月二十二日以後翌年一月三日迄ニ着校セリ

十二月十八日 第三十期生徒岩永角次原田隼太郎ノ兩名ニ卒業證書ヲ授與ス

十二月二十二日 御修業中ノ 裁仁王殿下ハ自今兵學校生徒ノ制服御着用被爲在候事 御沙汰相成候旨令示アリ

教本第一〇八九號ノ三其校外出ノ儀ハ上陸外出規則第三條ニ依リ該規則制定迄従前ノ例ニ依リ施行スヘシ (教育本部長)

十二月二十八日 海軍兵學校長東郷正路免本職補第三艦隊司令官 (内閣)

十二月三十日 若松大佐海軍兵學校長富岡定恭着任マテ同職代理兼務ヲ命ス

十二月三十一日 第三十二期生徒渡邊長三郎同隱岐鴻太郎同矢田滿丸ノ三名ハ第三十三期生徒ニ編入 (疾病ノ爲メ)

第三十三期生徒熊澤介同南季岳ノ兩名ハ第三十四期生徒ニ編入ス

十二月三十一日調 職員氏名左ノ如シ

校長 少 將 東郷 正路 副官兼 大 尉 小林 研藏

教頭 大 佐 吉松茂太郎

砲術教官兼監事 大 尉 村上 鑑吉 同 深柄 彦熊

同 糸川 成太郎

水雷術教官兼監事 少 佐 南里 團一 同 水登 銈男

大 尉 島内 桓太

航海術教官兼監事 少 佐 馬場 祐内 大 尉 富士川 一吾

同 大 尉 八戸 三輪次郎 同 田口 久盛

同 古川 弘

運用術教官兼監事 少 佐 鈴木 多吉 大 尉 小林 研藏

大尉 鎌田政猷 同 四元賢助

機關術教官 大機關士 田中安吉 同 藤江逸志

普通學教官 教授 松井喜三郎 同 服部正魁

同 保阪丑太郎 同 鹽冶應太郎

同 清水與三郎 同 內田雄太郎

同 田中西熊 同 安河内健次

同 西宗久壽馬 同 酒卷貞一郎

同 堀英四郎 同 細川源三郎

同 赤沼德郎 同 川野健作

同 原田竹二郎 同

監事長 大佐 吉松茂太郎 附 監事 大尉 原胤雄

軍醫長 軍醫中監 戸祭文造 附 軍醫少監 根來祐春

附 大軍醫 鈴木實之助 同 中軍醫 稻垣久逸

主計長 主計中監 川口秀武 附 大主計 朝比奈正一

砲術教員 兵曹長 藤井安之助 下士官 十六名

水雷術教員 上等兵曹 內川伊太郎 下士官 八名

運用術教員 上等兵曹 松永敏行 同 辻村米槌

下士官 十二名

航海術教員 信號兵曹 一名

機關術教員 機關兵曹長 石井惣之助 上等機關兵曹 大村房太郎

下士官 六名

本校 附 上等筆記 米倉順

書記 倉田龜三郎

明治三十六年

二二五

書記	田島幸太郎	同	森脇熊次郎
同	大久保友市	技手	中村宇太郎
技手	原田政吉		

囑託教員

擊劍	猿田東之助	同	守口福三郎
柔道	肝付宗次	同	森松度

十二月三十一日 現在生徒總數 五百八十四名

內 第三學年生徒	二百七名
第二學年生徒	百八十一名
第一學年生徒	百九十六名

明治三十七年

一月十日 第三十二期生徒石田寛同高橋元資ノ兩名ニ及第證書ヲ授與ス(前年疾病ニ罹リ試験未了ノ爲)

一月十一日 各學生、生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中改正セラル

一月十四日 第三十一期生徒緒方三郎ニ卒業證書ヲ授與ス(事故ノ爲メ試験未了)

一月十六日 第一學年生徒野坂通俊神奈川縣ヨリ廣島縣ニ轉籍ス

一月二十一日 此際特ニ各廳定員中筆記長上等筆記ニ代フルニ海軍書記ヲ以テスルコトヲ得(內令)

二月七日 生徒子林太郎本校條例第二十二條第四項ニヨリ生徒ヲ免ス

二月八日 第三學年生徒熊本縣士族森田良雄東京府ニ轉籍ス

二月十六日 監事部屬員事務室教務部屬員事務室ニ併置ス

三月九日 上原大佐海軍兵學校長富岡定恭不在中同職代理兼務ヲ命ス(教育本部)

三月十九日 勅令第七十號ニテ海軍兵學校條例中左ノ通改正セラル

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 品行又ハ家庭不良ナルカ爲將來將校タルノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

三月二十二日 海軍兵學校規則中左ノ通改正セラル

第三條 「大試験」ヲ「大試験及卒業試験」ニ改ム

第四條 校長ハ毎年一月以降十二月末日マテノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ翌年一月末日マテニ海軍

教育本部長ニ進達スヘシ

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ検査ヲ行ヒ其成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍教育本部

長ニ提出シ其ノ指定ニ依リ豫定ノ人員ニ入校ヲ命ヌ但入校ヲ命スルニ先チ更ニ體格ノ検査ヲ行フ

二二八ヘシ

校長ハ前項但書ニ依リ施行スル體格検査ニ合格セサル者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海

軍教育本部長ノ認可ヲ經テ其ノ入校ヲ止メ前ト同一ノ手續ニ依リ之レニ對スル人員ヲ採用ス但止

ムヲ得サル事情ニ依リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用ス

ルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 大試験又ハ卒業試験ニ落第シタル者ニシテ前試験ノ成績ヲ考査シ卒業ノ目途アル者ニハ

一學年ヲ延期修學セシム但卒業試験ニ在テハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ一學年ヲ延期修業セシ

又ハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ校長ハ海軍教育本部長ニ報告シ海軍教育本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十六條ヲ削ル

三月二十三日 海軍省告示第十三號ニテ海軍兵學校生徒百五十名召募セラル (抜萃)

試験場所 東京 仙臺 弘前 金澤 長野 名古屋 京都 廣島 鳥取 高知 熊本 鹿兒島

以上十二個所

志願者心得第二條ニ第四項品行又ハ家庭不良ナルカ爲メ將來將校タルノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者ヲ追加ス

體格試験規格ハ全ク前年ニ同シ

學術試験課目 英學中文法ノミナリシヲ文法書取トス

書式 願書 履歷書 承認書 身元明細書 戶籍謄本 學力品行證明書ヲ要ス

(按) 前年ト變リタルハ

一 試験場所ヲ減シタルコト

二 品行又ハ家庭不良ナルモノヲ採用セサルコト

三 文法ニ書取ヲ加ヘタルコト

四 父母又ハ後見人ノ承認書ヲ差出スコト

五 身元明細書ニ所得財産等ヲ明記セシムルコト

四月十六日 海 圖 一葉

是ハ明治三十七年三月二十七日旅順港口閉塞ノ際海軍中佐廣瀬武夫ノ使用セルモノニシテ該閉塞事業ヲ終リ端艇ニ引揚ノトキ同中佐自ラ携帶シアリタルナリ而シテ圖中肉片及腦血ノ散點シアルハ同中佐カ敵彈ノ爲メ戰死ヲ遂クルノ際注カレタルモノナリ
右下附候條海軍兵學校ニ交付シテ永久ニ保管セシムル様取計フヘシ

海 軍 大 臣

海軍教育本部長宛

四月二十九日 曩ニ教育本部第八六號ノ三ヲ以テ通牒及置候第二次旅順口閉塞隊勇士ノ使用セシ端艇一隻竝ニ別紙經歷書共其校ニ於テ保存セシムヘク更メテ大臣ヨリ下附相成候條此旨心得ヘシ

教 育 本 部 長

端 舟 一 隻

右ハ明治三十七年三月二十七日第二次旅順口閉塞ノ際閉塞用ニ充テタル汽船千代丸ノ附屬ニ係ルモノニシテ同船ノ港口ニ達シ自ラ爆發沈没シタル後乗組勇士一同之ニ乘艇シテ港外ニ漕出テ水雷艇燕

ニ到達シタルモノナリ

明治三十七年四月

聯合艦隊

五月三日 日露戰役ノ爲本校ヲ戰時繁劇ノ慮ト定メラル

五月九日 生徒松本榮七萩原ト改姓ス

五月十六日 例年六月ヨリ午後ノ授業ナキモ已往ノ經驗ニ依リ支障ヲ生スル程ノ暑氣ニモ無之ニ付本年ハ試ニ六月中ハ午後一時間授業ヲ爲スルコトニ定ム

六月十日 教育本部辭令 竹内博文 加藤正誼

海軍兵學校水泳教員ヲ囑託ス 但シ報酬月額金二十五圓ヲ贈與ス

防火部署ヲ改正シ本日ヨリ施行ス

七月九日 其校生徒ハ本年七月二十一日ヨリ八月三十一マテ休業セシメ差支ナキ義ト心得ヘシ

(教育本部長)

七月十一日 東京外十一ヶ所ニ於テ生徒志願者ノ入校試験ヲ施行シ八月七日終了ス

八月五日附 水泳教員囑託ヲ解ク 加藤正誼

同 囑託ス 西田正親 月額二十五圓ヲ贈與ス

八月二十九日 第三十二期生徒山口龜太郎疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

明治三十七年

八月日不詳 門番所出入口ヲ新設ス

九月六日 水泳神傳流參考書成リ生徒ニ配布ス

九月七日 上原大佐海軍兵學校長富岡定恭上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

九月十二日 本年三月海軍省告示第十三號中海軍兵學校生徒百五十名召募ヲ海軍兵學校生徒百八十名

召募ニ改ム

九月十六日 第三十二期生徒河野直喜通德ト改名ス

十月四日 露國機械水雷罐附屬品共二個軍艦扶桑ヨリ寄贈 (大連灣特別掃海隊ノ發見採取ノモノニ係

ル)

十月八日 第三十二期生徒小野江秋成吉田ト改姓ス

十月十二日 第三十二期生徒磯村寛太大野ト改姓ス

第三十三期生徒毛内効佐々木ト改姓ス

十月十九日 第三十三期生徒三浦半兵衛本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

十月二十五日 第三十二期生徒水谷豊一和波ト改姓ス

十月二十七日 軍艦朝日前部構造模型吳海軍工廠ヨリ受領ス

十一月四日 有栖川若宮裁仁王殿下ハ本日ヨリ海軍兵學校生徒タラシメラル、旨 御沙汰有之來ル明

治三十八十一月ヲ以テ兵學校教程學年ニ入ラセラル、筈ニ付此旨心得ヘシ 大臣

有栖川若宮裁仁王殿下御入校アラセラル

十一月六日 有栖川若宮裁仁王殿下明治三十八年十一月兵學校教程學年ニ入ラセラル、迄ノ間ハ從來

ノ通私費御支辨ニ付此旨心得ヘシ (教育本部長)

十一月十四日 卒業證書授與式ヲ舉行ス (雨天ノタメ重砲臺ニ於テ)

御沙汰ニ依リ威仁親王殿下御臨場アラセラル又特ニ侍從武官大城源三郎ヲ差遣サレ成績優等者二名

ニ雙眼鏡ヲ下賜セラル

皇太子殿下ヨリ東宮武官黒水公三郎ヲ差遣ハサル

成績優等ニシテ御物ヲ拜受セシモノ

堀 梯 吉 鹽 澤 幸 一

卒業者 氏名

堀 梯 吉 大分 鹽 澤 幸 一 長野 松 下 薰 茨 城

藪 正 毅 福岡 田 中 正 德 東京 長 井 實 神 奈 川

田 子 島 茂 利 石 川 井 上 繼 松 福 井 大 關 鷹 磨 東 京

竹 中 德 太 郎 東 京 高 野 五 十 六 新 潟 吉 田 善 吾 佐 賀

明治三十七年

太田質平	新潟	前原謙治	山口	鈴木義一	兵庫
和田信房	大分	増田乙三郎	神奈川	廣田穰	新潟
梶川新一	鳥取	富岡愛次郎	東京	水城圭次	長野
海野榮一	群馬	大野寛	愛知	松枝秀夫	東京
井上繁則	香川	田村重彦	福岡	島田繁太郎	東京
山内豊中	高知	鎮目静	東京	玉木信助	新潟
八木卓爾	愛知	山縣武夫	東京	山本公春	滋賀
鳥野團一	山口	福島貫三	岐阜	木田新平	香川
生田矢一	香川	梅田文鹿	兵庫	片山登	石川
高原半	東京	三戸基介	山口	柴山司馬	愛知
石田正一	兵庫	立川七郎	新潟	間宮愛	鳥取
山口清七	石川	加藤雅一	廣島	福井愛助	神奈川
伊藤三藏	山口	和波豊一	三重	御堀傳造	東京
重松良一	佐賀	吉武純藏	東京	武田維幸	愛媛
野邊田重興	東京	土田數雄	福井	若山昇	廣島

太野大熊	東京	後藤誠雄	愛知	河村儀一郎	廣島
白濱清	廣島	清家岳三郎	愛媛	磯部三男	吉山形
吉山百重	熊本	新山良幸	和歌山	初田甚三郎	京都
瀬崎仁平	岡山	相良達夫	佐賀	松木一郎	福島
恐神治七	福井	福岡吾太夫	佐賀	福本百太郎	廣島
沖村孟	山口	加藤完	千葉	出淵潔	香川
須田由松	福島	柳澤恭亮	群馬	小泉才助	山形
内山邦彦	東京	廣瀬彦太	岡山	永井房夫	廣島
安田貫	東京	國分勝彦	廣島	岡木勇	山口
山田松次郎	神奈川	森庫二	青森	鶴田文八	佐賀
阿武信一	山口	山崎嚴龜	高知	梅鉢義三	大阪
玉木豊之助	島根	池田光一	群馬	山口一郎	東京
是恒隆	大分	鳥居村治	愛知	檜柴重治	鳥取
村原彪一	鹿兒島	村上正之助	東京	丸井又三郎	熊本
山角真一郎	高知	平松駒太郎	石川	山本吉德	山口

權藤刀彌熊 福岡	糟谷季之助 東京	鈴木莊作 長野
石田 寛 山形	松井利三郎 愛知	赤座 剛 大分
香取末吉 茨城	牧 瑛 東京	上田秀男 石川
大塚由男 東京	友貞俊太郎 山口	末岡久雄 山口
日高正治 東京	藤岡政次郎 富山	田邊謙吉 山形
吉田秋成 愛媛	高橋雄三郎 長野	小林 晋 千葉
緒方末記 熊本	青山信行 鳥根	櫻井三郎 山形
井上桓征 山口	今村久茂 大分	永野廉三 愛知
大窪 隆 石川	高橋善四郎 巖手	戸田貞一郎 愛知
濱田 幸 鹿兒島	菊地 豊吉 福島	江口毅次 大分
伊藤源太郎 北海道	河野初次郎 熊本	前田安貞 東京
木村由之助 茨城	北川保橘 高知	佐藤六平 新潟
黒羽根秀雄 山形	濱田 清 高知	松本忠左 佐賀
原園八左衛門 鹿兒島	目黒孫四郎 新潟	浦壁 保 山形
德廣佐吉 佐賀	香月澄夫 佐賀	小川子郎 長野

池由武義 高知	望月鹿太郎 鳥取	吉田玄徳 長崎
細谷松太郎 東京	大澤玄養 山形	尾崎貴信 茨城
森田彌五郎 和歌山	杉田一朗 廣島	首藤 茂 大分
岡部龜藏 北海道	真木重愛 新潟	深澤秀吉 神奈川
高橋元資 宮城	田川 薫 東京	岸本孝太郎 廣島
橋本嘉一 佐賀	矢部八郎 富山	島田直記 熊本
野口 厚 山口	邊見辰彦 鹿兒島	森田良雄 東京
高橋 清 茨城	林 圓 鹿兒島	廣田猶吉 長野
大中熊雄 佐賀	大衛正雄 宮城	生島賢二 愛媛
覺張榮三郎 東京	皆川廣之 愛媛	倉田三雄 廣島
長谷川 彊 東京	肥後豊二 鹿兒島	村島 昇 佐賀
河野通徳 高知	三浦誠輔 山口	坂井芳太郎 大阪
芦川三千雄 三重	小川又喜 石川	河村辰雄 和歌山
青木秀利 静岡	猪股繁正 青森	渡邊鉄男 東京
青山 淳 鹿兒島	水町又三郎 佐賀	

即日少尉候補生ヲ命セラレ韓崎丸ニ乗艦ス

明治三十七年

十一月十五日 第三十三期生徒松本清北川ト改姓ス
十一月十六日 第三十三期生徒和田壽夫本校條例第二十二條第四項ニヨリ生徒ヲ免ス
十一月十八日 本年召募生徒古川修以下百八十三名入校ス

入校生徒氏名 (第三十五期) 不合格者三名

古川 修 青森	小林宗之助 長野	岡田清行 岡山
田代瑞穂 佐賀	島津忠重 東京華	逢坂梅松 新潟
中村吾一 福岡	大橋平三 長野	竹内範治 山口
品川春治 東京	酒井甚之助 島根	難波常三郎 新潟
井澤春馬 高知	大山 高 東京華	吉田 潔 福岡
古藤金次郎 島根	下村正助 北海道	北條蓋三郎 東京華
川瀬義重 岐阜	高橋勝次郎 愛知	竹原九一郎 静岡
大場嘉藤 福岡	佐藤瑞雄 東京	田坂準輔 山口
糟谷宗一 福井	吉成格四郎 福島	大崎義雄 和歌山
加來博胤 大分	町田進一郎 埼玉	愛澤 武 福島
井上汲水 岡山	大澤一介 愛知	山下新一 香川

菅沼恕人 愛知	杉本嘉多雄 高知	曾根初太郎 山梨
原 五郎 東京	赤堀英吉 兵庫	小林廉也 佐賀
松崎伊藏 兵庫	吉村卯八 佐賀	後藤輝道 石川
曾我清市郎 富山	柴山昌生 東京	森本 亟 島根
高田 眞 鳥取	山内裳吉 島根	高須四郎 茨城
小林 止 福岡	氏家 一 香川	岩水宗彦 岐阜
山本政平 愛知	蛭子文三郎 徳島	佐々木得定 山形
武藤 浩 佐賀	竹下志計里 島根	大立 勝 東京
佐田健一 山口	横尾正夫 佐賀	青柳 肇 兵庫
石原戒造 熊本	高橋誠一郎 廣島	太田信吉 徳島
松原雅太 岡山	山之内種助 鹿兒島	清水清一 大分
野村正光 愛知	籠田信一郎 石川	杉本直利 高知
阿部謙一 愛媛	郷田喜一郎 山梨	小林哲一 佐賀
中島隆吉 福岡	足立 淵 大阪	原田文一 佐賀
今泉周逸 佐賀	野口幸一 佐賀	高野例三 埼玉

安福留吉	兵庫	本田善一郎	熊本	北村清	佐賀
谷本馬太郎	廣島	磯谷外作	福島	渡邊彝治	福島
石橋當二	東京	澤野源四郎	神奈川	三矢五郎	山形
折笠文二	新潟	近重範夫	山口	深海健吉	和歌山
鎌田喜志衛	高知	篠塚知記	東京	瀬戸重雄	神奈川
松尾彌右工門	佐賀	降幡敏	長野	山村伴三	東京
武川雄一	宮城	伊藤利三郎	東京	南部博	高知
村島健三	佐賀	是川寛治	兵庫	折井亮	長野
高本數四郎	岡山	辻時男	兵庫	出井多嘉治	岡山
高山忠三	栃木	野田清	北海道	珍田垂穂	青森
神田嘉穂	埼玉	松岡弘人	福岡	菱輪誠二	鹿兒島
矢持輝治	兵庫	小澤松三	福島	近藤信竹	大阪
原田留吉	大分	原精太郎	愛媛	森次郎	佐賀
三木太市	山口	佐藤康造	福島	藤堂功	千葉
狩野三作	群馬	青野武右工門	愛媛	野村仁藏	鹿兒島

松浦神次	兵庫	星野守一	廣島	副田三郎	石川
水野雅一	愛媛	藤井真七	佐賀	吉見勇助	宮城
林善宏	東京	坂本正	東京	辻村亮三	東京
大越於菟男	埼玉	一ノ瀬英太	佐賀	仁禮景雄	東京
宮崎學而郎	東京	藤澤孝政	石川	穴澤房吉	福島
池田信愛	鹿兒島	等力利明	石川	宮崎英	長野
下口清壽	鳥取	蟻坂誠	宮城	黒部昇	福岡
日高堅助	鹿兒島	池澤守	千葉	吉岡輝行	奈良
増田修一	鹿兒島	曾我部魁	山形	森下與一郎	和歌山
山本彌七	熊本	田畑耕作	群馬	小菅靈	大阪
久保田久晴	東京	田中泰吉	佐賀	杉山俊亮	山口
兒井勳	石川	岡田圭二	栃木	淺井次郎	東京
長谷部運三	山形	向坂清助	愛知	塚孝作	石川
小倉萬次郎	福井	白石邦夫	福島	木村正治	鳥取
黒岡忠雄	鹿兒島	堤政夫	兵庫	五百藏	建喜高知

松原三四次 兵庫 須藤平三郎 群馬 川田政耕 高知
 本橋政光 埼玉 一色建之介 愛知 岡田倅一 廣島
 楠元 秀 鹿兒島 秋庭義次 埼玉 宮地光胤 香川
 平林宜躬 鳥取 荒木貞亮 東京 次木龜作 静岡
 大和田芳之助 茨城 鈴木清 愛知 宮永義永 茨城
 體格不合格ノタメ入校ヲ許サレザリシモノ 佐野連 南雲親一郎 福島源四郎
 後レテ入校セルモノ

十一月十九日 生徒心得ヲ改正シ本日ヨリ實行ス
 十一月二十四日 松原三四次 小林廉也 高野例三
 十一月二十五日 事務所附屬使丁詰所増築竝ニ同所ニ電話室新設工事竣成ス
 十一月三十日 山之内種助
 十二月二十八日 第三十五期生徒辻村亮三愛知縣ヨリ東京府ニ轉籍ス
 十二月二十九日 現在ノ編舟數左ノ如シ
 「カッター」 四五 五一 五二 五七 一七〇 二七一 一九〇 二二六 二二七 二二八
 三二九 三三〇 三三一 三三四 三三七 三〇八 三〇九 三二〇 十八隻

「ランチ」 四〇 一八七 二隻
 「ギグ」 五五 二一八 二二三 三一一 四隻
 「ベンチイス」 一八九 二二六 二隻
 計 二十六隻

十二月二十九日 第三十二期生徒門屋正信相馬清次郎ノ兩名第三十三期ニ編入ス
 十二月一日 山内雲吉入校
 十二月十六日 第三十三期生徒洪泰夫長崎縣ヨリ福岡縣ニ轉籍ス
 十二月十八日 第三十三期第三十四期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス
 十二月十九日 新分隊編成ヲナス一號生徒ノ各分隊配分ヲ全ク以前ト異ナル方法ニテ行フ即チ各分隊
 十二各部ノ者ヲ平均ニ含有スル様ニシタルハ一號生徒ノ或部カ見學ノタメ他出シタリトスルモ尙各分
 隊平均ニ一號生徒ノ殘留者アル様配分シタルナリ
 二號、三號生徒ハ成績順序ニ各分隊ニ配分シ全分隊ハ同一部ニ在ラシム (在來ノ法)
 此冬期休業ヨリ休暇者ノ爲吳及宮島ニ汽艇ヲ出スコトセリ (按)以前ハ門司神戸等ニ船ヲ出セリ
 十二月二十日 第三十二期生徒西村七三郎ニ卒業證書ヲ授與ス (再試験ニ及第セシニ依リ)
 十二月二十三日 理化學講堂煉化二階建築成ル

十二月二十八日 第三十四期生徒和田省三ニ及出證書ヲ授與ス (疾病ノ爲試験未了ニ付)

十二月二十九日 第三十二期生徒落合落第二十四期生徒瀧本章夫同々泉來藏ノ三名本校條例第二十二

條第二項及第三項ニ依リ生徒ヲ免ス

第三十三期生徒嘉悦龍人第三十四期生徒澤野欽郎ノ二名本校條例第二十二條第三項ニ依リ生徒ヲ免

ス

十二月日不詳 電燈線一、八七〇間電話線二、四一一四間架設成ル

十二月三十一日調 現在職員氏名

校長 少 將 富岡定恭 副官兼大 尉 小林研藏

教頭 大 佐 上原伸次郎

砲術教官兼監事

少 佐 朝倉耕一郎 同 齋藤七五郎

大 尉 正木義太 同 大石正吉

水雷術教官兼監事

少 佐 西尾雄次郎 同 水登銚男

大 尉 寺岡平吾 同 島田初藏

航海術教官兼監事

少 佐 堀内權三郎 同 馬場祐内

大 尉 富士川一吾 同 古川 弘

同 菅沼周次郎

運用術教官兼監事

少 佐 鈴木多吉 同 大山鷹之助

同 本田親民 大 尉 小林研藏

大 尉 四元賢助

機關術教官

機關少監 南澤安雄 大機關士 關 重光

普通學教官

教 授 松井喜三郎 同 服部正魁

同 保坂丑太郎 同 鹽治應太郎

同 清水與三郎 同 内田雄太郎

同 田中西熊 同 安河内健次

同	山川弘毅	同	酒卷貞一郎
同	堀英四郎	同	細川源三郎
同	酒井小太郎	同	川野健作
同	原田竹二郎	同	
監事兼大佐	上原伸次郎	監事大尉	原胤雄
軍醫長	戸祭文造	附 軍醫少監	岡部千之
大軍醫	古谷晋次郎		
主計長	主計中監 川口秀武		
砲術教員		下士官	十一名
水雷術教員	大隅爲吉郎	下士官	七名
運用術教員	上等兵曹 内川伊太郎	下士官	七名
	上等兵曹 辻村米穂		
	下士官 十名		
			谷本藤藏

航海術教員

下士官 一名

機關術教員

機關兵曹長 大月仙彌

下士官 四名

本校附

書記 内田良敬

同 田島幸太郎

同 大久保友市

同 原田政吉

囑託教員

擊劍 猿田東之助

柔道 肝付宗次

同 森松度

生徒總數 五百五十四人

明治三十七年

上等機關兵曹 鈴木米吉

同 倉田龜三郎

同 森脇熊次郎

同 中村宇太郎

同 原田政吉

同 守口福三郎

同 平田仲次郎

同 森松度

内	第三十三期	百七十五名
	第三十四期	百九十三名
	第三十五期	百八十六名

明治三十八年

- 一月十日 始業式九時二十五分觀兵式ヲ施行ス
- 一月十七日 第三十三期生徒佐久間實疾病ニ依リ生徒ヲ免ス
- 一月二十六日 第三十三期生徒近藤文夫及第三十五期生徒藁谷正治ノ兩名疾病ニ依リ生徒ヲ免ス
- 一月二十八日 達第六號ニテ海軍給與令施行細則中改正追加セララル
- 第二十表備考ノ欄ニ左ノ一號ヲ加フ
- 第二十二 生徒ニハ生麵麩十五匁骨付獸魚肉各十匁ヲ增加スルコトヲ得但シ第九第十第十二ノ場合ニ於テハ各其比例ニ依ル
- 一月日不詳 水道鐵管七十間竣成ス
- 一月日不詳 瀘過池貯水池竣成ス
- 二月二十六日 本校教育綱領ヲ定メララル
- 二月二十八日 第三十三期生徒矢川求馬本校條例第二十二條第一項第二項ニヨリ生徒ヲ免ス
- 三月二日 達第三十號ニテ海軍兵學校規則中左ノ通改正セララル
- 第一條中 「教務及服務」ヲ「教程其他教務」ニ改ム
- 第十八條中 「軍服」ヲ「通常禮服」ニ改ム

三月十四日 海軍省告示第八號ニヨリ生徒百五十名ヲ招募ス

検査場試験規格書式等總テ前年ニ同シ

(按) 後一五〇名ヲ二〇〇名ニ増加セラル

三月十七日 野外演習ノ爲メ生徒五百四十二名(八名在校)新湊ニ向ケ出發(二十日午後三時歸校)

三月二十二日 本校教務規程認可ニ付本日ヨリ實施ス

三月二十四日 監事部事務室ヲ生徒館當直將校寢室へ同寢室ヲ給與室ヲ東階上ニ移ス

三月三十日 官房第一一五九號ノ二ニテ戦利品露式時限信管外六十九點兵器トシテ備付方認許セラル

三月三十一日 内令第一八一號ヲ以テ本校教授定員十五ヲ十六ト改正セラル

三月日不詳 水道鐵管六百七十間竣成ス

四月一日 達第四十九號ヲ以テ本校ニ剃夫ノ定員ヲ置カル

六月二日 震災ノ爲生徒館屋上破壊ス生徒ノ寢室ヲ柔道場運用術講堂兵舍及劍術道場ニ移シ兵員ノ起

臥ハ鎮邊及江田島丸ニ於テナサシム又當直將校及其他ノ室ヲ新講堂階上ノ一室ニ移シ生徒温習所ハ

講堂ニ於テ兼ネシム監事部ヲ事務所ニ移シ製圖室ヲ事務所展覽室ニ移ス

六月二十七日附 竹 田 博文 井 上 精

海軍兵學校水泳術教員ヲ囑託ス 但シ報酬トシテ月額金貳拾五圓ヲ贈與ス

七月一日 本校内則ヲ改正シ本日ヨリ實施ス

七月五日 戦利艦石見搭載ノ水雷艇一隻教育材料トシテ備付ラル

七月九日 第二學年生徒木山孚吳海軍病院ニ於テ死亡ス吳ニ於テ海軍葬式生徒一同會葬

七月二十八日 第三十四期生徒山崎祐三郎疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

七月日不詳 東京外十一ヶ所ニ於テ生徒志願者入校試験ヲ行フ

八月二十一日 第三十三期生徒北村秀實田代香苗第三十四期生徒中村研吾鈴木武平久野純吉第三十五

期生徒田代瑞穂ノ六名疾病ニ依リ生徒ヲ免ス

九月九日 吉見大佐富岡海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

九月二十七日 校長歸校

九月日不詳 第三十四期生徒今泉佐平美啓ト改名ス

十月八日 本校生徒外出規則及下士卒外出規則ヲ制定ス (教育本部)

十月十六日 日露戰役ノ爲本校戰時繁劇應ト定メラレタル處本日ヨリ平時ニ復ス

十月十八日 吉見大佐富岡海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

十月三十一日 校長歸校

十一月十一日 本校定員表中「少將」ヲ「中少將」ト改正セラル

十一月十八日 第二學年生徒藤田正吳海軍病院ニ於テ死亡ス
十一月二十七日 第三十四期及第三十五期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス

學術優等章受領者 第三十四期

- | | | | |
|----------------|-------|-------|-------|
| 佐古良一 | 園田 實 | 佐藤三郎 | 三井清三郎 |
| 前田政一 | 椎名直吉 | 宇都宮小市 | 天野敏平 |
| 栗田了三 | 菊野 茂 | 丸山聚見 | 日比野正治 |
| 古賀峯一 | 安富正造 | 高橋健二 | 和田秀穂 |
| 吉川 晃 | 庄川忠雄 | 宇野積藏 | 北 正一郎 |
| 久保忠道 | 倉田七郎 | 和田專三 | 井上龍記 |
| 住山德太郎 | 中村 忍 | 片桐英吉 | 益田小太郎 |
| 中村秀吉 | 小川雄平 | | |
| 同 第三十五期 | | | |
| 岡田清行 | 小林宗之助 | 原 五郎 | 難波常三郎 |
| 竹原九一郎 | 近藤信竹 | 井澤春馬 | |
| 品行善良章受領者 第三十四期 | | | |

- | | | | |
|---------|-------|------|------|
| 佐古良一 | 園田 實 | 佐藤三郎 | 前田政一 |
| 古賀峯一 | 住山德太郎 | | |
| 同 第三十五期 | | | |
| 岡田清行 | 小林宗之助 | 原 五郎 | |

十一月二十八日 第三十三期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ 威仁親王殿下御臨場アラセラル又特ニ侍從武官大城源三郎ヲ差遣ハサレ成績優等者

三名ニ雙眼鏡ヲ下賜セラル

皇太子殿下ヨリ東宮武官尾藤知勝ヲ差遣ハサル

成績優等ニシテ御物ヲ拜受セン者

- | | | |
|-------|------------|---------|
| 卒業生氏名 | 長谷川芳太郎 | 阿武 清 |
| 豐田貞次郎 | 和歌山 長谷川芳太郎 | 宮崎 阿武 |
| 有馬 寛 | 和歌山 義原信壯 | 兵庫 瓜生武雄 |
| 青木宗作 | 新潟 出光萬兵衛 | 福岡 吉澤忠吉 |
| 濱田吉次郎 | 愛媛 藤田春一郎 | 長崎 二宮 備 |
| | | 大分 廣島 |

秋山虎六 佐賀	津留信人 熊本	有馬成甫 熊本
小棋庄之助 和歌山	小野彌一 山口	岩松丈雄 福岡
井上肇治 東京	黒川 魁 廣島	水落高五郎 石川
坂野常善 岡山	佐藤英夫 宮城	佃 糸太郎 香川
土屋幸作 静岡	豊田副武 大分	北川 清 香川
倉賀野 明 福井	齋藤正雄 島根	杉本美海 高知
林 義寛 富山	難波勝一 廣島	渡邊長三郎 北海道
原 敬太郎 高知	寺本武治 島根	坪井丈左衛門 山口
佐々木 効 青森	中村龜三郎 高知	兒山 八郎 福岡
洪 泰夫 福岡	松宮龍太郎 東京	植松練麿 福岡
村中又一 山口	山下兼滿 鹿兒島	石田孝平 群馬
富井鶴三 兵庫	貝沼門次郎 福岡	藤澤宅雄 長野
鹽島美雄 東京	禿 謙只 岐阜	奥名清信 島根
伊藤滿喜多 山口	小田康一 鳥取	服部豊彦 和歌山
羽仁六郎 山口	關口 剛 長野	石井二郎 宮崎

雨宮厚作 山梨	山脇信顯 東京	石川真吾 福岡
江原收治 群馬	津田威彦 兵庫	吉岡 清 東京
岩城茂身 高知	吉田健介 福岡	杉坂悌二郎 富山
藏田 直 和歌山	渡邊康治 兵庫	速水善氏 愛知
田中茂友 石川	高原昌平 福岡	尼子晴兄 鳥取
市川大治郎 三重	有地十五郎 東京	石川光儀 東京
丹治四郎 福岡	山田忠治 愛知	公家種次 高知
猪原薫一 廣島	渡邊三郎 愛知	青山兼次郎 愛知
福原六郎 廣島	務川三千松 福岡	大串諄藏 佐賀
吉田繼輔 福岡	相浦誠一 東京	池田喜藏 兵庫
間崎 霞 高知	増田重義 三重	谷井末吉 宮城
齋藤忠治郎 山形	赤澤堅三郎 香川	川瀬三郎 三重
廣岡玉治 兵庫	園 周次 東京華	粒良条藏 千葉
猪瀬乙彦 福岡	山本松四 山口	小檜山真二 福岡
末岡武俊 東京	清宮善高 千葉	服部正計 廣島

伴次郎	高知	森繁二	熊本	小簇	巍	福岡
岡内彌三郎	香川	渡邊	汀	東京華	高鍋三吉	兵庫
熊谷秀夫	山口	立花	一	廣島	萬代納次郎	島根
押村美孝	鳥取	井上真吾	廣島	荒	糺	福島
江口喜八	佐賀	山本典夫	石川	一戸	順三	巖手
楠松秀茂	千葉	安藤諡次郎	宮崎	井口	正男	廣島
大窪博	石川	寺田英之丞	鹿兒島	上妻	敬三郎	鹿兒島
柘植慶太郎	香川	矢田滿丸	兵庫	藤岡	晴次	岡山
入江淵平	福岡	篠原國彦	鹿兒島	小貫	木平	栃木
羽仁潔	山口	國枝三郎	長野	長井	實養	鹿兒島
井上二三	群馬	田尻敏郎	鹿兒島	力石	敏三郎	愛媛
平山筑熊	福岡	石川哲四郎	茨城	河村	重幹	大分
大久保義雄	愛知	森田重房	高知	執行	鼎藏	佐賀
木村政吉	佐賀	青木敬十	山形	瀧川	方助	長崎
隱岐鴻太郎	愛知	河田群喜	熊本	海老澤	忠藏	栃木

野澤龍太郎	長野	篠原家叶	山梨	鈴木卓郎	鳥取
勝見貞幹	石川	川越忠光	宮崎	米山順吾	熊本
安井寛	東京	内藤義治	福島	門屋正信	愛媛
伴静三	青森	梶原五郎	佐賀	守武幾雄	香川
青木秋太郎	長野	脇田四郎	鹿兒島	金田光太郎	東京
森清亮	佐賀	櫻井繁	東京	林勘三郎	佐賀
相馬清次郎	山形	星静一	新潟	湯田有義	鹿兒島
飯田干城	神奈川				

十一月二十九日 分隊編制換ヲナス 昨年ノ例ニ同シ

第三學年ハ各分隊ニ各部ノモノヲ平均ニ配布シ第二、第一學年ハ成績順序ニ一分隊ヨリ十二分隊ニ配布ス

十一月日不詳 生徒館附屬浴室増築成ル

十一月日不詳 番人ノ詰所木造平家竣成 (射的場)

十一月日不詳 生徒山脇信顯高知縣ヨリ東京府ニ轉籍ス

生徒増田修一龍波見ト改姓ス

十二月二日 有栖川宮裁仁王殿下第三十六期生徒トシテ御入校アラセラル
生徒志願者佐藤市郎以下百九十二名入校ス

新入校生徒氏名

佐藤市郎	山口	菊地	清巖手	坪井正吉	静岡
北島儀一郎	秋田	高橋伊望	福島	古賀七三郎	佐賀
星野倉吉	東京	保村禎一	山口	三浦省三	東京
飯島弘之	千葉	雪下勝美	福島	廣瀬正經	福岡
山内大藏	福井	岡野一幹	宮城	横山市治	廣島
木村茂	神奈川	吉田四郎	岐阜	栗村今朝吉	長野
澤本頼雄	山口	水戸春造	廣島	河合蕃	長崎
堀江六郎	福岡	松岡知治	福岡	竹田六吉	福岡
平山源内	宮城	杉浦長三郎	愛知	川村久右工門	青森
永峯專治	東京	堀田二郎	熊本	横田輝雄	香川
佐久間敬太郎	和歌山	塚原二四三	山梨	石谷喜佐藏	大分
角田貞雄	東京	新見政一	廣島	薄葉西藏	秋田

明治三十八年

根岸清八	群馬	山田定男	三重	安達東三郎	愛媛
千田修二	和歌山	鈴木嘉助	青森	山本弘毅	和歌山
新渡戸常利	青森	中島喜代宣	茨城	安東順三	秋田
柏木英	廣島	祝原不知名	島根	細葦戊子郎	長野
西田利三郎	滋賀	蜂谷信太郎	岡山	作間應雄	山口
加藤三郎	兵庫	寺垣孝三	東京	笠忠雄	熊本
中杉久治郎	奈良	福永恭助	東京	田中恒太郎	滋賀
熊岡讓	静岡	今泉利清	佐賀	清水光美	長野
吉田庸光	埼玉	本田源三	鹿兒島	小篠宣秀	長崎
染河彌市	鹿兒島	江上章吾	徳島	岡野俊孝	宮崎
田村能介	山口	有馬直	鹿兒島	大場富吉	佐賀
南雲忠一	山形	奥野晃	東京	江森大六	福島
山口實	東京	藤永三郎	山口	野田謙三	佐賀
三宅季一	岡山	斑目健介	宮城	小杉務	静岡
杉浦信平	神奈川	谷田武夫	三重	中込育三	山梨

石田直行	兵庫	能美留壽	山口	小柳喜三郎	佐賀
磯部秀亮	山口	伊集院俊男	鹿兒島	外賀良三郎	京都
谷池三郎	愛媛	宇田川英庸	神奈川	成田二郎	三重
土屋忠正	廣島	野澤錦二	東京	町田	豊崎玉
大越英吾	宮城	飯倉克己	大分	塚部忠三	神奈川
水野孝吉	東京	高橋榮吉	栃木	堀	輝雄
大島四郎	佐賀	後藤晴善	島根	甘利恒雄	長野
國生行孝	鹿兒島	土井卓三	廣島	峰木	茂新
永田良三	千葉	羽山良次郎	東京	中圓尾義三	兵庫
德重佐一郎	鹿兒島	島崎竹吉	高知	戸須賀千之	佐賀
石戸勇三	青森	久我徳一	佐賀	坂本伊久	熊本
伊藤公男	東京	蜂屋義尾	宮城	北川茂春	高知
荻野直壽	東京	福間信吉	廣島	鈴木義雄	神奈川
近藤英次郎	山形	淺野千之介	茨城	福澤哲四郎	長野
糸川季忠	神奈川	松本善治	山梨	柳原信夫	高知

及川鐵五郎	東京	高木資雄	福井	茂原銳一	岐阜
恩地貞市	廣島	島村綱雄	熊本	鈴木幸三	福島
岩原盛惠	高知	庄司彌一	宮城	古田中博	東京
松野省三	山口	土屋甫	千葉	長尾惣助	青森
清水柳太郎	群馬	千葉成男	東京	阿部眞藏	山形
米田重利	廣島	十川仁八	山口	丸山良雄	長野
澤田七之助	福井	有常參三	廣島	長田弘善	山梨
砂川兼雄	鳥取	二川政彦	鹿兒島	中村申吉	宮城
穂本繁治	福岡	高橋顯雄	廣島	楠岡準一	愛媛
弓削末藏	熊本	丹下薫二	廣島	佐藤文吉	山形
永田重忠	鳥取	横山菅雄	高知	栗屋俊三	東京
鬼俊民	福岡	小池三夫	佐賀	川合信	岡山
渥美龜太郎	東京	細谷義男	東京	大野厚行	東京
高橋隆吉	愛媛	大野三良	東京	小島謙太郎	東京
宮田義一	東京	佐野哲	静岡	横山德治郎	香川

小瀧 德治 兵庫	相浦 小七 佐賀	山下 深志 鹿兒島
寺田 幸吉 山口	加藤 清一郎 新潟	玉城 利治 鳥取
澁谷 週作 東京	河村 源一郎 三重	丸山 一雄 岐阜
石橋 福次郎 茨城	脇 鼎 大分	鍋島 貞次郎 東京華
犬塚 藝 佐賀	石橋 三郎 福岡	福地 勝 佐賀
土居 政道 高知	高井 元三郎 岐阜	茗荷 秀雄 鳥取
齋藤 二朗 東京	阿部 政夫 大分	佐藤 正四郎 新潟

本日午後一時右生徒ノ入校式ヲ舉行ス

生徒採用豫定者入校時再検査ノ上不合格トナリ其補缺トシテ入校セルモノ左ノ如シ

十二月五日入校 井上 貞一 静岡

十二月六日同 川田 健吉 東京華 田尻 旭一 佐賀

十二月七日同 中村 辰次郎 宮城 中村 藤藏 茨城 關 禎 千葉

若木 元次 山形 大崎 敦信 新潟

十二月六日 第三十四期生徒山口四郎疾病ノ爲生徒ヲ免ス

十二月十二日 本校定員表改正セラル

十二月十三日 皇太子殿下本校へ行啓校内各部及操練等御巡覽ノ後還啓

當日左ノ御言葉ヲ賜フ

本校生徒ハ將來ニ於ケル海軍ノ楨幹國家ノ干城タラサルヘ
 カラス今日親シク茲ニ臨ミ學術ノ進修良好ナルヲ見ル而シ
 テ今回ノ戰役ニ從ヘル將校ノ多數ハ本校出身ニシテ其行動
 軍人ノ龜鑑タルヘキモノ鮮カラサルハ校長始メ校員等ノ教
 育其ノ宜キヲ得ルノ致ス所卿等益獎勵以テ忠良ノ養成ニ最
 メヨ

右御言葉ニ對シ校長ハ左ノ如ク奉答セリ

本日御親閱ノ榮ヲ蒙リ特ニ優渥ナル御言葉ヲ賜リ恐惶感激
 ノ至ニ堪ヘス 臣等益拮据奮勵以テ御言葉ニ副ヒ奉ランコ
 トヲ期ス 臣定恭謹テ奉答ス

十二月十五日 第二學年生徒池上濟吾、寺島讓、今泉三八郎、上田爲春、第一學年生徒平林宣躬ノ五名ハ
 本校條例第二十二條第三項ニ第二學年生徒美添鑛三ハ同條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

十二月二十五日 第三十三期生徒高木嘉藏、村岡公平ニ卒業證書ヲ授與ス (前試験ニ於テ得點半數ニ

達セサルニ依リ再試験ノ結果

十二月三十一日 現在職員氏名

校長 少 將 富岡定恭 副官少 佐 吉川安平

教頭兼 少 將 富岡定恭 副官兼 大 尉 川上正一

砲術教官兼監事 中 佐 朝倉耕一郎 少 佐 正木義太

大 尉 大石正吉 大 尉 上田吉次

同 小山田繁藏

水雷術教官兼監事 中 佐 西尾雄次郎 少 佐 久保來復

少 佐 水登鈔男

航海術教官兼監事 中 佐 金子滿喜 少 佐 勝木源次郎

少 佐 内田虎三郎 同 磯貝正吉

大 尉 大角岑生 大 尉 花房太郎

同 野村吉三郎

運用術教官兼監事

中 佐 荒川仲吾 少 佐 大山鷹之介

少 佐 石川長恒 同 本田親民

大 尉 川上正一 大 尉 原田正作

同 田尻唯二

機關術教官

機關少監 南澤安雄 大機關士 關 重光

大機關士 八田重次郎

普通學教官

教 授 松井喜三郎 同 服部正魁

同 保坂丑太郎 同 鹽冶應太郎

同 清水與三郎 同 内田雄太郎

同 田中西熊 同 山川弘毅

同 酒卷貞一郎 同 堀 英四郎

明治三十八年

同	細川源三郎	同	酒井小太郎
同	內藤信夫	同	山本他家松
同	川野健作	同	原田竹二郎
監事長	大佐 吉見乾海	監事	大尉 南郷二郎
軍醫長	軍醫大監 戸祭文造	附	軍醫少監 美濃部錄治
大軍醫	爾見淳太郎		
主計長	主計中監 堀口正重		
砲術教員			
兵曹長	黑屋勇三郎	下士官	十三名
水雷術教員			
上等兵曹	築地捨松	下士官	八名
運用術教員			
上等兵曹	谷本藤藏	同	丸田吉彦
下士官	十一名		
航海術教員			

下士官 二名

機關術教員

機關兵曹長 柏田良照

下士官 五名

本校附

上等筆記 米倉順

書記 田島幸太郎

同 大久保友市

同 原田政吉

嚙託 英語教授 福田淺造

嚙託教員 擊劍 猿田東之助

柔道 肝付宗次

生徒總員 五百五十六名

內譯 第三學年(三十四期) 一七六名

第二學年(三十五期) 一七八名

第一學年(三十六期) 二〇二名

上等機關兵曹 坂元 敦

書記 倉田龜三郎

同 森脇熊次郎

同 中村宇太郎

齒科醫 矢田部藤吉

同 守口福三郎

同 森 松度

明治三十九年

一月十一日 午前十時始業式並觀兵式ヲ行フ

一月十五日 本校ト吳鎮守府ノ往復文

第三學年生徒約百八十名

右ハ艦砲射擊見學爲致度候處將來御所轄艦並在港艦ニシテ右御施行相成候場合ニハ便乘ノ上見學セシメ度候ニ付御施行ノ都度前以テ艦名月日等御報知相成様致度此段及御照會候也
兵學第二一號ヲ以テ所轄艦並在港艦ニ於テ艦砲射擊施行ノ都度通知方ノ件御照會ノ趣了承右ハ在港各艦へ別紙ノ通夫々通知致置候條御了知相成度及御通知候也

(別紙略)

一月廿四日 第三學年生徒 南里忠三 第一學年生徒 吉田 潔 小林 止 森 次郎

右者本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

一月廿五日 本校内則第百九十八條表中「毎月第一木曜生徒總員大隊操練施行」ヲ毎月「第一金曜」ニ改ム

一月廿六日 海軍武官々階中改正セラル

海軍服制中改正セラル(生徒服制表備考中「劍」ヲ「短劍」ニ)

明治三十九年

一月廿九日 本校生徒懲戒規則改正認許濟ニ付實施ス

二月一日 内則第二百七十八條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但海軍敬禮式第六十條ノ遙拜式ハ監事長ヲシテ之ヲ行ハシム

二月日附不詳 消毒所竣成 水溜 水道(鐵管)竣成

三月六日 英皇甥「コンノート」親王殿下御來校正午御退校(英國軍艦「ダイヤデム」號ニテ)

三月七日 教育本部長巡視トシテ來校翌日出發

三月十日 生徒百八十名召募ス

検査場所東京外十二箇所(大分ヲ加フ)

試験規格書式等前年ニ同シ

三月十七日 明治三十七八年戰役海軍記念日ヲ定メラル其ノ全文左ノ通り

明治三十七八年戰役海軍記念日ヲ五月廿七日ト定ム

明治三十七八年海軍記念日撰定覺書

夫レ戰勝ヲ記念スルハ雷ニ士氣ヲ振作シ軍容ヲ整齊スルノ道タルノミナラス邦家ヲ永遠ニ祝福シ其發達ヲ無窮ニ期待スル所以ナリ

惟フニ明治三十七八年ノ戰役ハ千古ヲ曠フシ宇内ヲ震撼セルノ偉績タリ而シテ作戰ノ經過ヲ觀ルニ我軍ノ連勝ヲ以テ終始ヲ貫ク故ニ各部各隊ノ記念ニ存スヘキノ日亦僕指スルニ遑アラ

スト雖中ニ就キ主要ナルモノヲ撰ヒ以テ全般ニ通シテ遵行セシムルヲ最モ允當ナリト信ス

案スルニ明治三十七年八月十日黃海々戰ノ如キハ旅順敵艦隊ノ主力ヲ摧破シテ制海ノ權ヲ我

ニ收メ據テ以テ局面ニ展開ヲ促進シタルモノニシテ實ニ本戰役ニ於ケル一大關鍵ト謂フヘキ

ナリ夫レ然リ而レトモ尙一層緊切ナル交戰ヲ舉クレハ蓋シ明治三十八年五月二十七日ニ於

ケル日本海ノ海戰ヲ推サ、ルヲ得ス此戰ハ我艦隊ノ全部之ニ參與シ敵亦最後ノ運命ヲ賭シ死

力ヲ竭クシテ來リ抗シ空前ノ激闘ニ入り我遂ニ彼ヲ殲滅シテ愈々制海權ヲ確把シ以テ這般戰

局ノ大勢ヲ決シタルモノナリ

乃チ吾人ハ日本海ノ海戰日中重要ナル第一日ヲ取り五月二十七日ヲ以テ帝國海軍ノ記念日

ト定メ永遠ニ之ヲ保ツヘキコトヲ茲ニ宣明ス

三月十九日 吉見海軍大佐富岡海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

吉見海軍大佐富岡海軍兵學校長上京不在中委任仕拂命令官ノ職務ヲ執行スヘシ (大臣訓令)

三月二十八日 其校生徒小銃彈藥年額増加ノ件別紙ノ通上申候處本年三月二十六日官房第一〇六五號

ノ二ヲ以テ右上申ノ通認許相成候條此旨心得ヘシ

教本第一四七號ノ三上申

兵學校 小銃空包現在定額五十發ニ三十發ヲ増シ八十發トナスコト

明治三十九年

右教育上必要ニ付改定相成度上申候也

明治三十八年三月二十五日

大臣宛

教育本部長

三月二十九日 來ル四月一日ヨリ天氣豫報信號ヲ海岸暴風警報旗竿ニ掲揚セシム

天氣豫報信號掲揚手續左ノ通り定ム

天氣豫報ハ吳測器庫ヨリ電話ヲ以テ副官部ニ通知ス

副官部ハ之ヲ當直監事ニ報ス

當直監事ハ海岸見張信號兵ヲシテ信號セシム

教本第一五九號ノ二教育本部長傳達

官房第一一三五號ノ三

旅順口海軍工廠ヨリ發送戰利兵器ノ内教育資料トシテ海軍兵學校へ供給方吳鎮守府司令長官上申ニ對シ左記ノモノハ通常物品トシテ同校ニ於テ元受ニ立ヘキ旨指令候條此旨心得ヘシ

一 防禦網「コム」製 拾個 此見積價格金十圓(壹個ニ付金壹圓)

三月三十一日 明治三十七年内令第三十四號ヲ廢ス(各廳病院船等ニ於テ看護手、筆記ノ位置ニ雇員、傭人使用方ノ件)

四月一日 第一學年生徒菊地清本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

四月十四日 教本第二〇一號ノ二

教育用砲楯ハ兵器簿ヨリ除却ノ事ニ決裁ヲ經候旨艦政本部長ヨリ通牒越候條適宜ノ時機ニ於テ除却ノ事ニ取計フヘシ (教育本部長)

四月廿四日 生徒江副藤次「平」ト改名ス

四月卅日 伊國皇族「ウヂテ」殿下御來校(宮島ヨリ驅逐艦ニテ午前九時御着)生徒館各講堂等御巡覽ノ後午前十一時五十分御退校

五月一日 教本第二四一號ノ二

今般官房第一五二八號ヲ以テ私立攻玉社中學校全科卒業ノ者ニシテ成績善良品行端正ナル者ハ其校生徒入學試験ノ際特別學科試験ヲ受クヘキ資格アル者ト認定相成候條此旨心得ヘシ (教育本部長)

教本第三一九號

官房第二〇九號ヲ以テ私立正則中學校前同 (六月五日附)

教本第四二四號

官房第二〇五五號ノ三ヲ以テ私立東北中學校前同 (八月三日附)

教本第四二四號

官房第三三〇八號ノ四ヲ以テ私立曉星中學校前同

海軍兵學校生徒志願者心得第十三條ニ依リ特別受験者詮衡規格ヲ定メ從來此ニ依リ處分致來候處自
今右規格ヲ廢シ必要ニ際シ隨時詮衡致候事ニ相定候此段御届仕候也(教育本部宛)

五月三日 本日ヨリ六日迄第三學年生徒ヲシテ早瀬々戸、倉橋島、大島瀬戸、小松及宮島へ端舟巡航セ
シム

五月廿二日 左ノ通り訓令發布相成候ニ付心得ヘシ

教本第二八一號 (教育本部長)

訓令 寫

汽船二河川丸ヲ海軍兵學校附屬ト定ム (五月卅一日受領)

但同校附屬鎮邊ハ還納セシムヘシ (大臣ヨリ吳鎮守府司令長官ニ)

六月廿三日 教本第二七二號ノ二 (教育本部長)

嚮ニ教本第二七二號ヲ以テ 輝久王殿下其校へ御入學ノ件ニ付内報置候處右ハ彌々來ル七月學習院
御卒業後入學御修業ノ事ニ 御沙汰爲被在候旨其筋ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

教本第二六二號 (教育本部長)

亞爾然丁練習艦「プレシデント、サルミエント」來月五日頃廣島灣へ寄港ノ節其校參觀ノ儀許可相成
候ニ付テハ相當ノ便宜ヲ與フル様取計フヘシ

(七月七日練習艦長、領事、士官十名、候補生十六名來校)

六月二十五日 愛媛縣 井上 精 同 奥村 敬孝

水泳教員ヲ囑託ス 月額二十五圓 (九月二十五日解囑)

六月廿八日 第三學年生徒天野敏平本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

六月卅日 鎮邊ヲ還納ス

七月四日 専務監事事務室ハ監事長ト同室ノ處生徒館監事部屬員室ニ合併セラル

七月九日 自今拳銃射擊施行ノ際ハ海上「スケレトン」及防波堤ニモ赤旗ヲ掲揚セシム

七月十一日 生徒和田秀穂井上ト改姓ス

七月十九日 教本第四〇一號 (教育本部長)

本年貴校へ御入學ノ 御沙汰アリタル北白川宮殿下ニ關シ左ノ通決裁相成候ニ付及通知候也

一 殿下ハ本年七月學習院御卒業ノ後海軍兵學校へ御入學ノ旨 御沙汰アリタル上ハ本年兵學校生
徒召募員數百八十人ノ外トス

二 御入學ニ關シ御學力檢定ノ方法程度ハ兵學校長ニ一任ス

七月廿一日 本日ヨリ九月十日迄生徒ニ休業外出ヲ許ス

教本第四一八號 (教育本部長)

毎年海軍兵學校へ入學ヲ命スヘキ者入學試験成績表ニ依リ本職之ヲ案定シ始メテ公表スヘキモノニ有之候處往々其ノ以前ニ試験成績點數等海軍部内外ニ漏ルルノ實例モ有之哉ニ聞及ヒ官規上不穩當ノ次第ト存候ニ付爾今試験官ハ勿論貴校職員一同ヲ深ク戒飾セラレ海軍部内外ニ對シ何等ノ關係タルヲ問ハス右公表以前ニハ一切試験成績等ヲ漏泄セサル様特ニ注意ヲ與ヘラレ度爲念此段内訓候也
七月三十日 教本第四二三號ノ二 (教育本部長)

其校へ入學志願者中官公立中學校卒業者ノ體格檢査及入學試験ノ結果又ハ入學後教育上ノ關係等ニ於テ中學校ノ教授訓練ニ對スル意見爲參考承知シタキ旨文部次官ヨリ照會越候條數年以來ノ成果ニ鑑ミ本年入學試験ノ結果ヲモ考査シ何分ノ意見具申スヘシ

七月日不詳 東京外十二ヶ所ニ於テ生徒志願者入校試験ヲ行フ (體格檢査ハ場所ニヨリ時日ノ相違アリ)

九月三日 本日ヨリ同九日マテ第三學年生徒實務練習ノ爲メ二河川丸ニ乘組近海ヲ航行セシム (若松、別府、宇和島、三津濱、多度津)

九月八日 吉見海軍大佐富岡海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

九月十二日 吉見海軍大佐富岡海軍兵學校長上京不在中委任仕拂命令官ノ職務ヲ執行スヘシ (大臣)

九月十三日 同一人ニシテ陸海軍ヲ志願シ雙方合格採用ノ場合取扱方ニ關シ陸海兩省副官往復左ノ

通

陸軍士官候補生採用者人名ハ八月十四日ノ官報ニ掲記シアリ然ルニ其採否未定前七月ニ於テ海軍兵學校ノ入學試験ヲ受ケ不日發表セラルヘキ海軍生徒採用豫定者ニシテ陸軍士官候補生採用者ノ一人ナリシ場合ニハ本人ノ希望ニ依リ一方志願ヲ取消スコトハ差支ナキモノト認メラレ候且又若シ志願ヲ取消サスシテ自己ノ便宜ニ任セ陸軍ニ入營スルモ海軍兵學校ニ入學スルモ一方ニ於テ指定期日ニ入營(校)セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトシテ取扱ヘハ差支ナキモノト認メラレ候得共貴省御意見承リ度候也 (九月三日海軍省副官ヨリ陸軍省副官宛)

官房第三四六五號ヲ以テ同一人ニシテ陸軍及海軍ノ兩學校へ入學ヲ許可セラル、モノ、取扱方ニ關シ照會ノ趣右ハ前段意見ノ通り本人ノ希望ニ依リ一方ノ志願ヲ取消サシメ可然此段及回答候也

九月十四日 第三學年生徒河毛肇京都府ヨリ石川縣へ轉籍ス

九月十五日 明治三十二年海軍省告示第三號ハ三十九年十二月三十一日限り廢セララル (認定ヲ受ケントスル學校出願ノ件)

其校へ入學ヲ志願スル者ノ學術試験ニ關シ從來官立道府縣立中學校及海軍大臣ノ認定シタル公私立學校ノ卒業者ニ對シ特別試験ヲ行フノ例ナリシカ明治四十年以後ハ此例ニ依ラサルコトトセラレ候條此旨心得ヘシ (教育本部長)

九月十八日 第三學年生徒庄川忠雄増島ト改姓ス

九月日附不詳 旅順港務部ヨリ左ノ三汽艇ヲ受領ス

公稱第二八一 公稱第二八二 公稱第二八三

十月十五日 教本第五七九號ノ二 (教育本部長)

自今卒業證書授與式ニ方リ證書受領者多數ナルトキハ適宜總代者ヲシテ證書受領ノ手續ヲナサシム
ヘシ

第二學年生徒澤野源四郎神奈川縣ヨリ東京府ニ轉籍ス

十月廿五日 事務所増築竣成ニ付受領ス (建坪四十坪 東西(二十坪宛))

十月廿六日 本校内則第二百十七條中左ノ通リ改正ス

第二百十七條 病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ小試験ニ缺席シタルモノ、點數ハ其小試験ノ全點

ニ大試験或ハ臨時大試験得點ノ百分比ノ十分ノ九ヲ乘シタルモノヲ以テス

但大試験ヲ行ハサル科目ニ在テハ臨時試験ヲ行ヒ其得點十分ノ九ヲ以テ之ヲ得點トス

十月廿九日 第三十五期生徒宮本義永本校條例第二十二條第一項第二項ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月一日 第三學年生徒久保七次岩城ト改姓ス

十一月五日 第三學年生徒渡邊劍日高ト改姓ス

十一月八日 第三十六期生徒磯部秀亮本校條例第二十二條第一項第二項ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月十四日 第三學年生徒三好七郎香川縣ヨリ三重縣ニ轉籍ス

十一月十七日 第三十五期及第三十六期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス

成績優等ニシテ學術優等章ヲ受ケタル者左ノ如シ

第三十五期生徒 近藤 信竹 川瀬 義重 原 五郎

竹原 九一郎 町田 信一郎 藤井 眞七

第三十六期生徒 佐藤 市郎 小柳 喜三郎 雪下 勝美

坪井 正吉 澤本 頼雄 高橋 伊望

三浦 省三 南雲 忠一 吉田 四郎

中杉 久治郎 新見 政一 塚原 二四三

砂川 兼雄 鈴木 嘉助 安東 順三

江森 大六 廣瀬 正經

品行善良章ヲ受ケタル者左ノ如シ

第三十五期生徒 近藤 信竹 原 五郎

第三十六期生徒 裁 仁 王 佐藤 市郎 小柳 喜三郎

第三十五期生徒岡田圭三本校條例第二十二條第一項及第三項ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月十九日 第三十四期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス 御沙汰ニ依リ威仁親王殿下御臨場

侍從武官大城源三郎ヲ差遣ハサレ成績優等者三名ニ御物ヲ賜フ

皇太子殿下ヨリ東宮武官黒水公三郎ヲ差遣サル

御物拜受者 佐古良一 佐藤三郎 三井清三郎

卒業者氏名

佐古良一	山口	佐藤三郎	福島	三井清三郎	和歌山
園田實	鹿兒島華	椎名直吉	千葉	柿田政一	鳥取
栗田了三	佐賀	菊野茂	鹿兒島	吉川晃	宮城
安富正造	鳥取	高橋健二	茨城	宇都宮小市	愛媛
宇野積藏	福岡	古賀峯一	佐賀	日比野正治	愛知
中村忍	石川	井上秀穂	鹿兒島	丸山聚見	長野
北正一郎	和歌山	久保忠道	鳥取	片桐英吉	山形
倉田七郎	福岡	和田專三	山口	住山徳太郎	東京
原 鵬二郎	石川	山口長南	鹿兒島	今泉美啓	佐賀

益田小太郎	佐賀	河原巽	福岡	中村秀吉	三重
久原福松	佐賀	伊藤貞一	福岡	田伏亮	石川
日暮豊年	東京	北山靖治	兵庫	井上龍起	熊本
中村寛	廣島	岡田義一	山形	馬瀬篤治	三重
河毛肇	石川	北岡春雄	高知	栗野原謙三	長野
安藤隆	熊本	三田榮次郎	熊本	南里俊秀	神奈川
小川雄平	岡山	名古屋十郎	山形	村田章一	廣島
齋藤直彦	宮城	日高 釗	鹿兒島	上林 潔	岡山
片桐昌	長野	寺島啓三	香川	野原伸治	山口
三浦正行	秋田	西尾四郎	東京	小山與四郎	埼玉
小山泰治	熊本	平田昇	東京華	牧 兼幸	熊本
色川武夫	茨城	手島安太郎	福岡	千谷定衛	高知
岩城七次	富山	信田新一	山口	出羽重夫	東京
池田敬之助	東京	大西次郎	三重	白根貞介	山口
合葉庄司	長野	松田昌正	静岡	本川友治郎	富山

小泉久雄 福井	赤間正助 宮城	笠井功 滋賀	中村虎猪 高知	牧野廉一 岡山	岩崎素直 熊本	眞崎勝次 佐賀	石井先知 東京	篠田賢則 東京	山縣少介 山口	栗田稔 愛媛	和田百壽 群馬	波多野二郎 東京	南季岳 大分	柴田源一 愛媛
松上 佐 愛媛	太田垣富三郎 兵庫	兵頭宗次郎 愛媛	石井三郎 新潟	太田増右衛門 愛知	川名彪雄 静岡	澁谷莊司 新潟	染川敬三 鹿兒島	熊澤午介 長崎	佐村義男 熊本	峯 信夫 長崎	佐久間次郎 岡山	白石 清 静岡	隈部信夫 熊本	田中政治 鳥取
伊佐卓彌 栃木	山淵松夫 廣島	三宅駿五 兵庫	増島忠雄 東京	三好七郎 香川	菊山修五郎 愛媛	福井恒太郎 福岡	高山貞三郎 群馬	彭城昌國 東京	松浦 純 長崎華	羽鳥幾之助 埼玉	堀 安尚 岐阜	田中正明 鳥取	江頭貞三 佐賀	西川速水 山形

高橋真十郎 島根	谷口位津美 熊本	神山 忠 東京	小林 靜 山梨	島山義 越 鹿兒島	岸川三平 佐賀	横山 馨 東京	蒲生武司 宮城	藤田寅次 石川	栗本三千之助 山形	野阪通俊 廣島	小澤覺輔 秋田	平尾重吉 静岡	榎 喜久太 佐賀	江副 平 佐賀
松尾武彦 佐賀	堤 佐一郎 福岡	渡邊彦次 山形	萩原榮七 鹿兒島	脇田玄尋 大阪	徳富元一 佐賀	長井 清 鹿兒島	牧田克己 鳥取	山本 清 東京華	箕村 登 愛知	鈴木春五郎 福島	永井信太郎 東京	湯野川忠一 山形	田上龍見 岡山	柏木 質 熊本
松田鹿三 兵庫	平野武雄 神奈川	遠山彦次 山形	武富邦茂 東京	松川 晃 熊本	中島直熊 鹿兒島	工藤健次郎 大分	増山忠雄 東京	山崎彦次 長野	中島外喜男 石川	山本強助 愛知	松田源次郎 熊本	平井蓮丸 鹿兒島	西尾三郎 東京	山本卯八 熊本

和田省三 長崎 秀島良三 佐賀 香椎哲二郎 福岡
 早川信一 東京 山中順一 山口 阿部泰男 愛知
 牧瀬忠三 佐賀 大宅由耽 佐賀 橋本彦七 愛知
 小森幸一 佐賀 西村德市 佐賀 石井鉄之介 茨城
 同日少尉候補生ヲ命セラレ左ノ如ク分乘

佐古良一 以下五十九名 嚴島
 佐藤三郎 以下五十八名 松島
 三井清三郎 以下五十八名 橋立

十一月十九日 海軍兵學校長兼教頭海軍少將富岡定恭免本職並兼職補練習艦隊司令官

練習艦隊司令官海軍少將島村速雄免本職補海軍兵學校長兼教頭 (内閣)

十一月二十日 分隊編制替フナス

第三學年配布前年ニ同シ(分隊ニ各部員ヲ含マシム)

第二、第一學年ハ成績順ニ配布ス

十一月二十一日 第三學年生徒渡輪誠二井口ト改姓ス

第三十五期生徒加來博胤、清水清一、高田眞ノ三名ニ及第證書ヲ授與ス(疾病ノ爲臨時試驗施行ノ結

果ニ由ル)

十一月二十二日 北白川輝久王殿下御着校本日午後ヨリ生徒館内ニ起臥遊ハサル

十一月二十四日 新募生徒原清以下百八十名入校ス

午後一時入校式ヲ施行ス

北白川輝久王殿下第三十七期生徒トシテ御入校

入校者氏名

原 清 佐賀	鈴木繁彌 山形	草鹿任一 石川
大熊政吉 愛知	福原一郎 栃木	小池四郎 茨城
柿田孝二 鳥取	井上成美 宮城	高須三二郎 東京
中村一夫 千葉	松木益吉 高知	柳川敦茂 三重
本田忠雄 熊本	矢部 勇 愛媛	木下五郎 佐賀
園田 滋 鹿兒島華	岩下保太郎 大分	大川内傳七 佐賀
小林萬一郎 三重	富田賢四郎 福岡	小橋義亮 鳥取
戸 蒔隆 始 愛知	宍戸好信 山口	桑折英三郎 愛媛
三村親比 長野	松本青二 兵庫	高崎武雄 鹿兒島

熊澤舛藏	高知	片原常次郎	東京	桃島節雄	福岡
桑原虎雄	静岡	清水長吉	茨城	上村真琴	東京
村田茂男	茨城	岩上維精	栃木	帖佐敬吉	東京
千知波長次	熊本	加藤仁太郎	山形	伊藤長福	井
淺田準一	大阪	關根郡平	埼玉	石黒虎雄	高知
山田梅藏	京都	菱妻準二	山口	中山道源	廣島
葉若秀雄	東京	村上象次郎	愛媛	荻野仲一郎	佐賀
田鎖恭一郎	巖手	原顯三郎	東京	遠藤昌	大阪
中村重一	愛媛	飯倉貞造	千葉	岩村清一	東京
清原清	大分	小熊文雄	新潟	八田耕造	熊本
鈴木新治	新潟	龜井主計	香川	小槻貞三	京都
窪德次郎	福井	小林利三郎	茨城	菊地省吾	北海道
田中幸造	青森	松本康生	愛知	大島信哉	栃木
竹崎武雄	福島	山口利隆	鳥取	辻香治郎	奈良
佐倉武夫	静岡	大橋五郎	茨城	寺澤市太郎	愛知

小松壽雄	高知	田中正英	愛知	宮崎平	新潟
土本峻一	愛知	五日市規矩司	巖手	尾崎剛	千葉
藤森清一郎	長野	矢野隼士	大分	武田哲郎	長野
三並貞三	大分	元泉威	神奈川	河村文平	静岡
大久保一櫻	高知	川上壯雄	山形	吉田福藏	静岡
久保田利平	兵庫	佐藤立一	群馬	加藤泰平	愛媛
加藤正	和歌山	一法師喜雄	大分	後藤英次	秋田
大堀庫次	福井	上村貞太	熊本	深川勝夫	佐賀
難波正	神奈川	佐藤繼人	山形	渡邊徳四郎	山形
黒崎林藏	新潟	久我安市	佐賀	境澄信	山口
石川定雄	茨城	阪本敏	埼玉	堀江吉正	長野
岩崎大助	茨城	小出桂	愛知	宮崎忠一	山口
青柳宗重	長野	井上幸吉	滋賀	實吉敏郎	東京華
尾崎篤郎	鳥取	横山茂	廣島	岩倉具重	東京華
武部鷹雄	鳥取	太田泰治	岡山	岡本絢	和歌山

宇佐美治作	長野	工藤泉介	愛媛	長谷川貞平	群馬
塹江乙矢	高知	浮田秀彦	熊本	福田均三	栃木
大槻秀雄	熊本	野元光康	鹿兒島	人見駿一	兵庫
樋口修一郎	長野	中野郡次	兵庫	木幡行	福島
中村進	長野	山田省三	廣島	雉本了介	愛知
日臺虎治	長野	鋤柄玉造	愛知	鈴木貫	静岡
春日末章	熊本	宮島良澄	佐賀	稻川與三郎	岐阜
茂泉慎一	宮城	春日篤	長野	生方乙彦	神奈川
利根川忠三	埼玉	關野明	東京	馬越喜七	愛媛
本間清	新潟	前田藤三郎	香川	最上修兒	兵庫
山村實	大分	小澤治三郎	宮城	早川定三	新潟
赤穴敏一	山口	山田滿	熊本	野村經德	兵庫
渡邊録一	愛知	谷山國彦	東京	松川彦太郎	三重
水野準一	石川	田中重正	鳥取	前澤弼治	新潟
坂部省三	茨城	伊藤儀三郎	千葉	米田重治	鳥取

有本明	大阪	寺田祐次	長野	難波暉雄	岡山
勝部得	島根	山本重雄	福岡	武村盛	長崎
井奥深	兵庫	中田操	東京	堀江亥之吉	山形
喜多山省三	大阪	千藤茂美	岐阜	山中孝次郎	熊本
岸本鹿子治	岡山	諸岡修一	三重	阿部新治	宮城
久保傳治	兵庫	高橋爲樹	鹿兒島	山本友一	山口

十二月五日 本校内則第二百六十七條ノ次ニ左ノ通追加ス

第二百六十七條ノ一 校長分隊點檢ノトキハ武官ハ總テ登校スヘシ

十二月六日 吉見海軍大佐島村海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

十二月十九日 第二學年生徒德重佐一郎東京府ヨリ鹿兒島縣ニ轉籍ス

十二月廿一日 本日ヨリ來ル四十年一月九日マテ生徒ニ休業外出ヲ許ス 但第一學年生徒ヲ除ク

本校規則中改正

第九條 學年ハ三學年ニ分テ毎年九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

本達施行ノ際現在ノ生徒ニ限リ其ノ學年ハ從前ノ通トス

十二月廿四日 島村海軍少將兼職(教頭)ヲ免セラル

石橋海軍大佐本校教頭兼監事長ニ補セラレ

十二月廿七日 本日ヨリ同廿九日マテ在校ノ第三學年生徒百八十二人艦内生活ノ一般ヲ會得セシム

ル爲ニ河川丸ニ乗組マセ三津ヶ濱及新港へ航行セシム

十二月卅一日調現在職員氏名

校長 少 將 島村速雄 副官少 佐 吉川安平
 教頭兼 大 佐 石橋 甫 同兼大 尉 江口金馬
 監事長 砲術教官兼監事

中 佐 山岡豊一 少 佐 伊集院兼誠
 少 佐 大石正吉 大 尉 樺山可也
 大 尉 丸橋清一郎 同 小山田繁藏
 同 高倉正治

水雷術教官兼監事
 中 佐 久保來復 少 佐 足立六藏
 少 佐 新納 司 大 尉 寺岡平吾
 大 尉 島田初藏

航海術教官兼監事

中 佐 金子滿喜 少 佐 保坂彦太郎
 少 佐 山川有典 同 大瀧新藏
 大 尉 花房太郎 大 尉 松岡靜雄
 同 岡村秀二郎 同 橋本虎六
 同 菅沼周次郎

運用術教官兼監事

中 佐 大山鷹之介 少 佐 田尻唯二
 少 佐 和田博愛 同 原田正作
 大 尉 山口傳一 大 尉 中原彌平
 同 江口金馬

機關術教官

機關少佐 南澤安雄 機關大尉 關 重光
 機關大尉 八田重次郎 同 秋元猛四郎

普通學教官

明治三十九年

教授	松井喜三郎	同	服部正魁
同	保坂丑太郎	同	鹽治應太郎
同	清水與三郎	同	内田雄太郎
同	田中西熊	同	山川弘毅
同	堀英四郎	同	細川源三郎
同	酒卷貞一郎	同	酒井小太郎
同	山本他家松	同	内藤信夫
同	原田竹二郎		
監事	大尉 松山廉介		
軍醫長	軍醫中 白井宏	附	軍醫少監 白井官太郎
大軍醫	爾見淳太郎		
主計長	主計中 堀口正重		
砲術教員			
兵曹長	黒屋勇三郎	下士官	十六名
水雷術教員			

上等兵曹	築地捨松	下士官	八名
運用術教員			
上等兵曹	濱崎竹藏	同	森茂
下士官	十名		
機關術教員			
機關兵曹長	柏田良照	上等機關兵曹	坂元敦
下士官	五名		
航海術教員			
下士官	二名		
本校附			
書記	倉田龜三郎	同	田島幸太郎
同	森脇熊次郎	同	大久保友市
技手	原田政吉	同	福中松太郎
英語教授	川井田藤助		
齒科醫	矢田部藤吉		

囑託教員

柔道	平田仲次郎	同	松田謙三
同	森松度	同	同
擊劍	猿田東之助	同	加藤新太郎
同	守口福三郎	同	同

生徒總員 五六一人

内 第三學年 (三十五期) 一七五人
 第二學年 (三十六期) 二〇四人
 第一學年 (三十七期) 一八二人

明治四十年

一月七日 來ル四月ヨリ十月迄能美島及江田島海岸及山上ニ本校生徒海岸測量稽古ノタメ(白赤)旗樹立ノ件承認方廣島灣要塞司令部ニ照會シ同日附差支ナキ旨回答アリ

一月十日 午前九時始業式(生徒分列式終テ校長 勅諭奉讀) 乃木陸軍大將參觀

一月十四日 海軍省告示第一號ニテ本校生徒百五十名召募(拔萃)出願期日五月一日

試驗場所 前年ニ同シ 東京外十二ヶ所

書式 志願書、履歷書、承認書、身元明細書、戶籍謄本、所見表(中學校長)

學術試驗 課目英語ノ内書取ヲ除ク

前年ト異ナル點ヲ舉クレハ其程度雜科ニ就テハ中學教授要目ニ準據スルコトトス

英語以外ノ外國語ノ試驗ヲ廢シ又中學優等生ニ與ヘタル特點ヲ除キ皆一樣ニ各科ノ試驗ヲ行フコトナル

海軍省ニテ特ニ認メタル中學校ノ卒業生ニ對シ雜科試驗ヲ省略スルコトヲ已ム隨テ學力品行證明書ヲ廢シ一樣ニ中學校長ノ所見表ヲ附スルコトナレリ

一月二十一日 今回下瀬火藥ハ備品ノ外供給セラレサル事ニ改正セラレタル結果本校ニテハ供給ヲ得サル事トナリ從來該火藥ノ効用爆發力ノ比較其他ヲ實地見學セシメツ、アリシモ爾後能ハサル狀況

トナレリ依テ水雷長主管兵器簿中導火藥罐八個ノ中其半數丈下瀨火藥裝填ノモノヲ供給サレ度旨申
請ニ對シ適宜供給差支ナキニ付會計官吏ヘ請求相成度旨回答ニ接セリ

二月七日 當分ノ間内則第四十七條ノ敬禮ハ本職ニ限リ之ヲ適用セス(講堂ニ於ケル敬禮)

二月十八日 出羽教育本部長來校翌十九日出發

三月十日 第三學年生徒五百藏健喜吳海軍病院ニ於テ死亡ス

三月十六日 第二學年生徒仁禮景雄病氣ノ爲メ生徒ヲ免セラレ

三月十九日 本日ヨリ五日間佐伯郡五日市附近ニ於テ生徒ノ野外演習ヲ施行ス

四月九日 裁仁王、輝久王兩殿下御學友ヲ定メラル

裁仁王殿下

三學年 大山 高 柴山昌生

二學年 佐藤市郎 今泉利清 鍋島貞次郎

寺垣孝三

輝久王殿下

三學年 島津忠重 二學年 小柳喜三郎

一學年 鈴木繁彌 大熊政吉 高崎武雄

岩倉具重

(按) 御學友中三學年生徒卒業ノ上ハ同數丈次ノ學年ヨリ補充ヲナサレタリ

四月十二日 (内令第六十四號)自今部内ニ於テ印刷頒布ス可キ圖書類ノ表紙色別左ノ通り定ム

但已ヲ得サルモノハ此限リニアラス

一 極秘 赤色

二 部外秘 桃色

三 教範操典類 (極秘部外秘ノ外) 紺色

四 普通 其他ノ色

四月十五日 軍艦安藝進水式ニ付生徒總員見學出張

四月二十七日 本校定員表ヲ改正セラル

五月四日 第二學年生徒池田信愛病氣ノ爲メ生徒ヲ免セラレ

五月十一日 本校内則第六十九條八十條百九十四條ヲ改ム(略ス)

五月十八日 「モーゼル」拳銃彈藥外一廉消耗品トシテ定額増加上申ノ義認許セラレ

五月二十日 達第五十九號海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式左ノ通り改ム(沿革)

第 號
卒業證書
海軍兵學校生徒
氏 名
海軍兵學校 教程
卒業ヲ證ス
年 月 日
海軍兵學校長官位勳功爵 氏名印

第 號
及第證書
海軍兵學校生徒
氏 名
海軍兵學校 第何
學年及第ヲ證ス
年 月 日
海軍兵學校長官位勳功爵 氏名印

五月二十一日 貴校入學志願者ニ對シ検査試験ノタメ教官ヲ出張セシメラル、ニハ各地毎ニ將校ヲ主務者トシ必要ニ應シ將校相當官若ハ文官ヲ從務者トシ御指定相成度依命此段申進候(教本一部長)

五月二十三日 内令第九十九號特科兵配置表改正 (沿革)

海軍兵學校
掌砲兵 掌水雷 掌信兵 掌機兵 掌電機兵 掌工兵
高 普 高 普 高 普 高 普 高 普
二六 四一〇 五二〇 五八一 〇〇

五月二十五日 明治三十七八年海軍記念日ニハ各學校ニ於テ夫々適當ノ精神的教訓ヲ施行セラル、事ト存候得共左記諸號ノ實行ハ自今毎年同日ノ行事ニ差加ヘラレ度本部長閣下ノ御希望ニ候條此段申進候

(教本一部長)

- 一 明治三十八年五月三十日東郷聯合艦隊司令長官ニ賜ハリタル 勅語ノ奉讀
- 二 同年十月十六日陸海軍ニ賜ハリタル 勅語ノ奉讀
- 三 明治三十八年十二月二十一日聯合艦隊ノ解散ニ當リ東郷司令長官ノ訓示講讀
- 五月三十一日 本校所屬船艦營需品定額表別冊ノ通り制定ノ旨吳工廠長ヨリ通牒ニ接ス(略)
- 六月三十日 水泳教員ヲ囑託ス 村上正義 井上 精
- 七月三日 海軍一般ニ水泳獎勵ノ達示アリ教育本部長ヨリ生徒モ亦水泳練習ヲ勵行ス可ク要スルトキハ適當ト認ムル土地ニ出張セシメ差支ナキ旨達セラル同時ニ水泳練習成績表調製報告ノ件附記セラレタリ
- 七月十三日 東京外十二ヶ所ニ於テ生徒志願者ノ身體検査ヲ施行シ同二十七日ヨリ學術試験ヲ開始シ
- 八月五日結了ス

七月二十一日 夏期休業中(自二十一日至三十日)第三學年生徒運用術航海術ニ於テ學習ノ科目實驗及
艦務練習ノ爲メニ河川丸ニ乗組ヲ命シ近海ヲ巡航セシム
生徒ニ夏期休業外出ヲ許ス

第三學年生徒 ハ七月三十日ヨリ九月十日迄

第二學年生徒 ハ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

第一學年生徒 ハ七月二十一日ヨリ九月十日迄

七月三十日 魚形水雷機關部切斷離型一個ヲ領收ス

八月二十一日 唧筒置場竣成吳海軍經理部ヨリ受領 (木造平家十五坪)

九月一日 第二學年生徒(自九月一日至同十日)運用術、航海術ニ於テ學習セル科目ノ實驗及艦務練習
ノ爲メニ河川丸ニ乗組ヲ命シ近海ヲ航行セシム

九月十日 本校教育綱領改正セラル

九月十一日 活版事業所増築竣成吳海軍經理部ヨリ受領ス

九月二十一日 梅田芳男以下百五十名入校生徒ヲ命ス(第三十八期生徒)

入校生徒 氏名

梅田芳男 熊本 田村直文 高知 伍賀啓次郎 岡山

須賀彦次郎	三重	井上保雄	京都	増田 實	愛媛
海谷 優	北海道	池田七郎	愛媛	樋口通達	徳島
柏原静登	廣島	小林徹理	新潟	戸塚道太郎	東京
中村季雄	滋賀	布施公平	千葉	松岡静雄	佐賀
山本正夫	高知	居谷吉春	和歌山	倉員仁一郎	福岡
太田謙次郎	京都	難波祐之	岡山	金子豊吉	長野
渡瀬甚二	鳥取	佐藤唯二	徳島	岡村政夫	廣島
別府明朋	山口	小林 仁	山形	上野治作	北海道
武田喜代吾	福島	杉山六藏	鳥取	藤原和兵衛	廣島
平岡 貞	東京	越智孝平	愛媛	武田盛治	山形
副島大助	佐賀	松永次郎	佐賀	井上達六	東京
末宗重雄	大分	竹内武直	新潟	石隈武房	佐賀
横山彌太郎	北海道	和才 齊	大分	奥本武夫	兵庫
白瀬 知	秋田	中原達平	岡山	鈴木春松	秋田
池上高嶺	長野	岩越寒季	熊本	湯本延藏	鳥取

後藤權造 廣島	中村貫一 山口	岡田顯郎 山形
栗田健男 茨城	三川軍一 廣島	三浦友三郎 山形
山本順平 石川	神山德平 熊本	片岡太司郎 石川
藤田類太郎 愛媛	高橋爲親 鹿兒島	中村珍次 山口
山上誠一 石川	厚東芳介 山口	原小隼人 長野
岩本喜一 鳥取	毛利良島根	加治木智種 宮崎
市原近作 佐賀	中山敦 東京	後藤傳治郎 山形
脇坂乘平 富山	三神仲次郎 愛媛	內田幾雄 東京
宮坂義平 長野	森口重市 三重	佐藤慶藏 秋田
古橋龜一 埼玉	高塚省吾 岡山	伊藤禎二 和歌山
井澤徹 山口	熊野鉄雄 山口	村上頼治 岐阜
日野昇一 廣島	大井吉郎 山形	濱田義一 東京
龜井勝二 埼玉	宮崎清 鹿兒島	仲田賢 千葉
野村英策 岐阜	稻垣生起 和歌山	河瀬四郎 鳥取
本間清巖手	原田龜山口	松浦永次郎 静岡

香宗我部讓 高知	後藤鐵五郎 宮城	相馬清春 青森
田中廣吉 和歌山	大塚敏雄 香川	久保九次 佐賀
酒井一郎 山形	池田久雄 神奈川	關本織之助 和歌山
富田貴一 兵庫	兒島昇 愛媛	五藤存知 茨城
岡野俊吉 兵庫	矢部茂吉 静岡	柴田善治郎 愛媛
澤田嘉瑞穂 新潟	板垣行一 新潟	水崎正次郎 和歌山
梅津忠良 秋田	渡部清重 福島	鶴池六郎 佐賀
園二郎 滋賀	古瀬倉藏 山形	大道寺邁 愛媛
澤田實岡山	大島良之助 大阪	中島慎一 愛知
青野寛治 愛媛	福田良三 熊本	莪輪中五 鹿兒島
大野一郎 愛知	兵頭隆良 愛媛	草川淳 三重
伊藤喜市 三重	辻田正一 愛知	中庭祐諦 茨城
武知彦榮 茨城	井上繁里 高知	內藤淳 熊本
池田晋長崎	三塚俊男 宮城	穂積龍雄 福島
武石秀登 大分	奥信一 大阪	牧田覺三郎 静岡

千葉慶藏	宮城	直塚八郎	佐賀	青木節二	香川
野末信次郎	三重	津田源助	岡山	坂野民部	山形
藍原有孝	大分	大石五郎	京都	佐藤邦彦	茨城
杉本宇市	廣島	中川順吉	滋賀	友成佐市郎	徳島

(按) 事故ニヨリ後レテ入校セルモノ九名アリタリ

十月七日 海軍部内ニ於ケル往復文書様式ヲ定メラル

十月十四日 出羽教育本部長來校翌日出發

十月日附不詳 第二學年生徒三宅季一(坪田)ト第二學年生徒福地勝(藤波)ト第二學年生徒新渡戸常利(太田)ト第三學年生徒安藤清重(渡部)ト各改姓第一學年生徒中村力(一夫)ト第三學年中村力(進)ト改名ス

十月二十二日 現役下士卒ハ海軍生徒ニ採用シ得ルヤノ件(人事局長、教本一部長宛)

從來現役海軍下士卒ハ兵學校、機關學校生徒ニ採用セラレサルコトニ承知致居ルモ未タ確實ナル法規ノ據ルヘキモノヲ發見シ得ス候處海軍下士卒服役條例第七條ニ「現役下士卒ハ鎮守府ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツルマテ服務セシム」トアルハ現役下士卒ノ當然生徒ニ採用スヘカラサル如ク見ユレトモ其主旨ノ存スル所ハ同シク海軍々人ノ上位ニアル生徒ニ全然採用スルコト能ハストモ解釋致シ難ク候様被存候此點疑義相生シ候間至急何分ノ御回示相煩度及御問合候也

付箋 供覽 大臣 副官

海軍卒ヲ海軍生徒ニ採用ノ件ハ現行法規ニ抵觸スル條項ナキヲ以テ採用シ得ヘキモノト解釋ス故ニ人格學力優等ニシテ所轄長ニ於テ適當ト認ムルモノアラハ相當ノ受験手續ヲ定メ出願セシムルコトヲ得

十月二十六日 人事局長 教育本部長 軍務局長

十月三十日 生徒ニ腸室扶斯患者三名發生ニ付大消毒ヲ施行ス兩殿下ニハ五日間御殿及集會所ニ起臥アラセラル

十一月五日 生徒糧食給與ニ關スル件

生徒ハ身體發育旺盛ノ時期ニアリテ且腦力ヲ勞スルコト多ク下士卒ト異リ一週一回外出ヲ許スノ規定ナルカ故ニ糧食不味ナルモ之ヲ補足スル手段ナキ等相當ノ理由アリテ既ニ下士卒トハ特殊ノ糧食規程ノ下ニ置カレタル次第ト存候處本年六月六日官房第二三七五號ヲ以テ一週四回宛貯藏獸魚肉給與ノコトニ規定セラレ以來生徒ハ貯藏肉ノ不味ナルト其給與回数ノ多キタメ食慾アルモ全部之ヲ食セシテ寧ロ飢餓ヲ忍フノ狀アリ殊ニ貯藏魚肉ヲ然リトス其結果トシテ一般生徒ノ營養上懸念ナキ能ハサル等ノ次第モ有之候間自今官房第二三七五號ノ御規定ヲ生徒ニ對シ除外例トシ貯藏獸肉ノミ一週二回給與シ貯藏魚肉ヲ骨付魚肉ニ換給方御認許相成度

右上申ス

十一月二十五日

教本第六〇八號ノ四

其校生徒ニ給スル糧食ハ本年官房第二三七五號ヲ適用セシ海軍給與令施行細則第二十表備考第九ニ依リ給與スヘキ官房四五八八號ノ二ヲ以テ訓令相成候條此旨心得ヘシ
右通知ス

十一月九日 裁仁王殿下勳章御佩用ノ件 (教育本部長宛)

裁仁王殿下今般御叙勳アラセラレ候ニ就テハ分隊點檢其他勳章佩用ヲ規定セラレアル場合ニハ佩用至當ト存候處 裁仁王殿下ヨリ直接 威仁親王殿下ニ御伺ノ御回答トシテ「生徒トシテハ御佩用ニ及ハス」トノ御事ナリシ旨承知致候條如何取計可然哉 右仰指令

十二月十二日

本校 校長ニ

裁仁王殿下勳章御佩用ノ儀ハ指令スヘキ限リニアラス 威仁親王殿下ノ御主意ニ從ハレテ差支ナカルヘシト考ヘラル

十一月十二日 本校教務規程改正認許ニ付實施

十一月十三日 第三十五期生徒古川修(佐藤)ト改姓ス

十一月十六日 (達第一二六號)學術卒業證書等授與式施行手續ヲ改正セラル

十一月十八日 第三十六期、第三十七期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス
學術優等章ヲ受ケタルモノ左ノ如シ

第三十六期生徒

佐藤市郎

坪井正吉

澤本頼雄

小柳喜三郎

雪下勝美

南雲忠一

細萱戊子郎

高橋伊望

三浦省三

塚原二四三

鈴木嘉助

第三十七期生徒

原 清

小池四郎

宍戸好信

柿田孝二

北川茂春

鈴木繁彌

關根郡平

草鹿任一

小林萬一郎

久我安市

岩下保太郎

大熊政吉

品行善良章ヲ受ケタルモノ左ノ如シ

第三十六期生徒

佐藤市郎

小柳喜三郎

裁 仁 王

第三十七期生徒

原 清

小池四郎

輝 久 王

十一月十九日 分隊ノ編制換ヲナス各學年共成績ノ順序ニヨリ一分隊ヨリ十二分隊ニ配布ス
第三十六期生徒羽山良次郎第三十七期生徒深川勝夫成績不良ノ爲メ生徒ヲ免ス

十一月二十日 第三十五期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ東伏見宮依仁親王殿下御臨場アラセラル

又特ニ侍從武官關野謙吉ヲ差遣ハサレ成績優等者三名ニ雙眼鏡ヲ下賜セララル

皇太子殿下ヨリ東宮武官黒水公三郎ヲ差遣ハサル

御物拜受者氏名 近藤信竹 川瀬義重

小林宗之助

卒業者氏名

近藤	信竹	大阪	川瀬	義重	岐阜	小林	宗之助	長野
原	五郎	東京	町田	進一郎	埼玉	塚	孝作	石川
森	本丞	島根	竹原	九一郎	静岡	藤井	真七	佐賀
高須	四郎	茨城	大橋	平三	長野	松浦	神次	兵庫
佐田	健一	山口	難波	常三郎	新潟	井上	汲水	岡山
井澤	春馬	高知	松崎	伊織	兵庫	岡田	清行	岡山
精谷	宗一	福井	阿部	謙一	愛知	菅沼	怒人	愛知
田畑	耕作	群馬	楠元	秀	鹿兒島	酒井	甚之助	島根
岡田	倭一	廣島	佐藤	修	神奈川	大山	高	東京華

矢持	輝治	兵庫	下村	正助	北海道	品川	春治	東京
後藤	輝道	石川	松原	雅太	岡山	木村	正治	鳥取
星野	守一	廣島	松尾	彌右衛門	佐賀	宮崎	學而郎	東京
谷本	馬太郎	廣島	本田	喜一郎	熊本	田坂	準輔	山口
野田	清	北海道	竹内	範治	山口	小菅	靈躍	大阪
野村	仁藏	鹿兒島	大崎	義雄	和歌山	石原	戒造	熊本
堤	政夫	兵庫	佐藤	康逸	徳島	三木	太市	山口
高柳	勝次郎	愛知	原田	文一	佐賀	磯谷	外吉	福井
赤堀	英吉	兵庫	北條	釐三郎	東京華	高木	忠治	山口
篠塚	知記	東京	神田	嘉穂	埼玉	中島	隆吉	福岡
曾我	清市郎	富山	岩水	宗彦	岐阜	曾根	初太郎	山梨
蛭子	文三郎	徳島	山本	政平	愛知	出井	多嘉治	岡山
降幡	敏	長野	三矢	五郎	山形	蟻坂	誠	宮城
鎌田	喜志衛	高知	佐々木	得定	山形	清水	清一	大分
大場	嘉藤	福岡	竹下	志計理	島根	珍田	垂穂	青森

吉岡輝行 奈良	坂本 正 東京	古藤金次郎 島根
野村正光 愛知	黒部 昇 福岡	深海健吉 和歌山
公爵島津忠重 東京華	原 精太郎 愛媛	水野雅一 愛知
横尾正夫 佐賀	杉山俊亮 山口	長谷部運三 山形
一色建之介 愛知	渡邊葬治 福島	龍波見修一 鹿兒島
藤木利三郎 佐賀	曾我部 魁 山形	安福留吉 兵庫
加來博胤 大分	吉見勇助 宮城	吉村卯八 佐賀
荒木貞亮 東京	小林廉也 佐賀	山内裳吉 廣島
大和田芳之介 茨城	池澤 守 千葉	日高堅助 鹿兒島
鈴木 清 愛知	澤野源四郎 東京	武藤 浩 佐賀
丹羽口哲夫 石川	野口幸一 佐賀	兒井 勳 石川
川田政耕 高知	是川寛治 兵庫	折笠文二 新潟
宮地光胤 香川	近重範夫 山口	折井 亮 長野
大澤一介 愛知	白石邦夫 福島	籠田信一郎 石川
逢坂梅松 新潟	高山忠三 栃木	等力利明 石川

大立 勝 東京	本橋政光 埼玉	佐藤瑞雄 東京
藤澤孝政 石川	今泉周逸 佐賀	穴澤房吉 福島
愛澤 武 福島	青野武左衛門 愛媛	瀬戸重雄 神奈川
宮崎 英 長野	南部 博 高知	山村伴三 東京
副田三郎 石川	向坂清助 愛知	小林哲一 佐賀
下口清壽 鳥取	井口誠二 鹿兒島	大越於兔男 埼玉
一ノ瀬英太 佐賀	小倉萬次郎 福井	松原三四治 兵庫
伊藤利三郎 東京	次木龜作 静岡	吉成格四郎 福島
松岡弘人 福岡	足立 潤 大阪	林 善宏 東京
神通久次郎 富山	柴山昌生 東京華	藤堂 功 千葉
狩野三作 群馬	村島健三 佐賀	北村 清 佐賀
郷田喜一郎 山梨	秋庭義次 埼玉	中村吾一 福岡
辻 時男 兵庫	原田留吉 大分	氏家 一 香川
太田信吉 徳島	山之内種助 鹿兒島	高田 真 鳥取
武川雄一 宮城	高橋誠一郎 廣島	田中泰吉 佐賀

明治四十年

小澤松三 福島 青柳 肇 千葉 辻村亮三 東京
 淺井次郎 東京 山本彌七 熊本 森下與一郎 和歌山
 須藤平三郎 群馬 杉本嘉多雄 高知 杉本直利 高知
 即日少尉候補生ヲ命セラレ左ノ通り配乗セラレタリ

近藤 信竹 以下五十七名 殿 島
 川瀬 義重 以下五十七名 橋 立
 小林宗之助 以下五十七名 松 島

十一月廿六日 第三十七期生徒松木益吉同慥江乙矢ノ兩名ニ及第證書ヲ授與ス疾病ノ爲臨時試験施行ノ結果ニ由ル

十一月二十八日 第三十五期生徒高木數四郎同高野例三ノ兩名ハ疾病ニ依リ第三十六期ニ編入セラル

第三十六期生徒國生行孝伊藤公男水野孝吉ノ三名ハ疾病ニ依リ第三十七期ニ編入セラル

第三十七期生徒關野明同武林盛ノ兩名ハ疾病ニ依リ第三十八期ニ編入セラル

十二月七日 第三十六期生徒大野三郎疾病ニ依リ第三十七期ニ編入

十二月十七日 第三十七期生徒河合蕃病氣ノタメ生徒ヲ免ス

十二月二十一日 各學年生徒七十五名(有志者)ニ河川丸ニ乗組ヲ命シ近海ヲ巡航セシム(冬期休業中)

二十一日ヨリ二十八日迄)

本日ヨリ一月九日迄生徒冬季休業外出ヲ許ス

十二月三十一日 現在職員氏名

校長 少 將 島村 速雄 副官 少 佐 山内 四郎
 教頭 大 佐 石橋 甫 同兼 大 尉 江口 金馬
 砲術教官兼監事

中 佐 山岡 豊一 少 佐 巖崎 茂四郎
 大 尉 樺山 可也 大 尉 高倉 正治
 同 黒田 瀧二郎 同 松本 匠
 兼 同 石丸 藤太

水雷術教官兼監事
 中 佐 久保 來復 少 佐 新納 司
 少 佐 今泉 哲太郎 大 尉 川合 退藏
 航海術教官兼監事
 少 佐 保坂 彦太郎 少 佐 犬塚 助次郎

同	花房太郎	同	岡村秀二郎
大尉	迎邦一	大尉	漢那憲和
同	富岡金太郎		

運用術教官兼監事

中佐	岸久太郎	少佐	和田博愛
少佐	原田正作	大尉	山口傳一
大尉	中牟田武正	兼	大尉
同	日高寛		大尉
			江口金馬

機關術教官

機關中佐	葉谷年實	機關大尉	八田重次郎
同	秋元猛四郎	同	山下巍八郎
同	豐田稔		

普通學教官

教授	松井喜三郎	教授	服部正魁
同	保坂丑太郎	同	鹽谷應太郎

同	清水興三郎	同	内田雄太郎
---	-------	---	-------

同	田中酉熊	同	山川弘毅
---	------	---	------

同	堀英四郎	同	細川源三郎
---	------	---	-------

同	酒卷貞一郎	同	酒井小太郎
---	-------	---	-------

同	山本他家松	同	内藤信夫
---	-------	---	------

同	原田竹二郎	同	川井田藤助
---	-------	---	-------

兼監事長	大佐	石橋甫	
------	----	-----	--

監事	大尉	日高寛	大尉	石九藤太
----	----	-----	----	------

軍醫長	軍醫大監	白井宏	附	同	少監	秋本孝之助
-----	------	-----	---	---	----	-------

大軍醫	栗田得三					
-----	------	--	--	--	--	--

主計長	主計中監	町田金次郎	附	大主計	柏原知格
-----	------	-------	---	-----	------

砲術	兵曹長	田中盛綱	外下士官	十七名
----	-----	------	------	-----

水雷術	上等兵曹	岩元周作	外下士官	七名
-----	------	------	------	----

運用術	上等兵曹	金川菊松	同	田中近次	外下士官	十一名
-----	------	------	---	------	------	-----

機關術 機關兵曹長 柏田良照 上等機關兵曹 坂元 敦 外下士官 五名
航海術 下士官 二名

本校附

上等筆記	三村十彦	
書記	倉田龜三郎	同 田島幸太郎
同	森脇熊次郎	同 大久保友市
技手	原田政吉	同 福中松太郎
囑託教員	柔道 平田仲次郎	同 松田謙三
同	森松度	
劍術	猿田東之助	同 守口福三郎
同	加藤新太郎	

生徒總員 五百十五名

第三學年生徒 (三十六期) 百八十六名
 第二學年生徒 (三十七期) 百七十七名
 第一學年生徒 (三十八期) 百五十二名

明治四十一年

一月四日 生徒百五十名ヲ召募セラル (試験場所、書式、規格等前年ニ同シ)

一月十日 始業式トシテ生徒ノ分列式 勅諭奉讀終テ總員運動ヲ行フ

第三十五期生徒福島三木男ニ卒業證書ヲ授與ス (前年卒業試験ノ際疾病ノ爲試験未了ノ處臨時試験施行ニ依ル)

二月十八日 分隊點檢ニ於テ 御勅諭ノ奉讀ナキ時ハ生徒各自ニ於テ潛心默讀シ 聖意ヲ浸徹スルコトニ努ムヘシ其ノ拜讀時間ヲ左ノ通相定メ號音ヲ用ヒテ其ノ始終ヲ指示ス

拜讀始メ 分隊點檢時刻前四十五分 氣ヲ付ケ G一

拜讀止メ 同 十五分 同 G二

第三十六期生徒加藤清一郎同高木數四郎ノ兩名本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス
三月四日 内令第四十二號 縮射彈藥包年額ハ當分ノ内左ノ標準ニ據ル

縮射彈藥消耗年額表

兵學校生徒 一人割當數 一〇〇、

生徒考課表及生徒考課表調製心得別紙ノ通改正ス (別紙略)

三月十日 裁仁王殿下本月二日ヨリ御病氣ニ付御見舞トシテ 威仁親王殿下姬宮殿下御別邸ニ成ラセラル

三月二十日 威仁親王及姫宮ノ兩殿下御發程御歸京アラセラル

四月三日 兩殿下再ヒ御別邸ニ成ラセラル(實ハ本日午後四時十分裁仁王殿下薨去アラセラル)

四月四日 裁仁王殿下大勳位ニ叙シ菊花大綬章ヲ授賜フ

四月五日 裁仁王殿下昨四日御危篤ニ陥ラセラル、ニ付本日午後零時三十分大宮殿下姫宮殿下

御一行ト共ニ御出發御歸京アラセラル

四月六日 裁仁王殿下海軍少尉ニ御任官アラセラル

四月七日 有栖川宮裁仁王殿下薨去アラセラル

四月九日 明日故裁仁王殿下東京ニテ御埋棺ニ付當日弔意ヲ表スル爲メ左ノ通心得ヘシ

一 當日午砲及時鐘ヲ取止ム

一 生徒、下士卒ハ外業ヲ取止メ生徒ハ座學ヲ以テ之ニ代フ

一 高等武官、准士官、生徒、下士、卒ハ式以外軍服ヲ着用ノコト

一 高等官、准士官、判任官、囑託教員、生徒、下士卒、雇員、傭人ハ終日喪章ヲ附スルコト

一 午後三時高等官、准士官、判任官、囑託教員、生徒、下士卒整列遙拜式ヲ施行「哀ノ極」ノ

喇叭ヲ吹奏ス

但服裝通常禮服文官之ニ準ス

三月十一日 本校下士卒外出規則改定セラル

八月二十五日 右規則中一部改正

三月十二日 編舟外四廉各見積價格ヲ以テ通常物品ニ組入度

右土申ス

一 編舟壹隻 見積價格金五拾圓

右ハ明治三十七年三月二十七日第二次閉塞ニ充テラレタル汽船千代丸ニ附屬セシモノニシテ精

神教育ノ資料トシテ明治三十七年四月二十九日教本第八六號ノ六ヲ以テ下附セラレタルモノ

一 小蒸氣船々體 壹個 見積價格金參百圓

一 右同汽機 壹臺 同 金貳百圓

一 右同汽機 壹臺 同 金五拾圓

右三廉ハ戰利艦石見ニ搭載セシモノニシテ明治三十八年七月五日教本第三四七號ヲ以テ原形ノ

儘下附セラレタリ教育上ノ都合ニ依リ分離セシモノ

一 帆布艇 壹隻 見積價格金貳拾圓

右明治三十八年二月二十日戰利品ノ寄贈ニ係ルモノ

以上四月十一日附ヲ以テ認許セラル

三月二十七日 本日ヨリ四日間賀茂郡原村附近ニ於テ生徒野外演習ヲ施行ス
三月三十一日 本校定員表ヲ改正セラル

表中「大主計」ヲ「主計」ニ二三等機關兵曹ノ下「八」ヲ「十一」ニ一等水兵ノ下「二十五」ヲ「二十八」ニ
二三等水兵ノ下「三十七」ヲ「四十」ニ一等機關兵ノ下「九」ヲ「十一」ニ欄内「六十」ヲ「六十三」ニ
「六十七人」ヲ「七十人」ニ「百七人」ヲ「百十六人」ニ

四月十四日 軍艦富士當灣ニ廻航ノ件

本校生徒修學上軍艦ノ實物ニ就キ實地ノ動作ヲ見學セシムルノ必要アルニ依リ時々生徒ヲ吳へ遣ハ
シ候得共時間ヲ徒費スルコト多ク課業ニ差支ヲ生シ候ニ付成ルヘク吳所轄ノ豫備艦中訓練出航ノ途
次來泊ノコトニ致度存シ已ニ富士艦長ト内議ヲ遂ケ申度然ルニ同艦ハ三箇月ニ十五日間ノ規定巡航
日數内ニテ此希望ニ應スルハ困難ナル由ニ付五月ニ於テ別ニ二日間來泊スル様其筋ヨリ同艦へ御下
命相成様致度

追テ同艦ハ石炭ニ關シテハ別ニ願慮ヲ要セラル趣ニ有之候

四月二十三日 別紙ノ通富士艦長ニ訓令候條御承知相成度 (吳鎮長官ヨリ)

(別紙) 江田島灣ニ廻航ノ件

三十一其艦ハ便宜江田島灣ニ廻航二日間同灣ニ滞在シ海軍兵學校生徒ヲシテ見學セシムヘシ

二 右廻航時日及見學ニ關シテハ直接兵學校ト協議シ其時日ヲ報告スヘシ

三 本出動ニ要スル行動費ハ配賦豫算内ニテ支辨シ其ノ日數ハ豫備艦規則第九條ノ巡航日數以外ト

ス

右訓令ス

四月二十二日 別紙寫ノ通大臣ヨリ吳鎮守府司令長官へ訓令アリタル旨通達セラル

四月二十一日 軍艦富士廻航ニ關スル件 (大臣ヨリ吳鎮長官ニ訓令)

海軍兵學校生徒ヲシテ見學セシムル爲其府麾下軍艦富士ヲ豫備艦規則第九條ノ巡航日數以外ニ此
際一回限リ二日間江田島灣内ニ滯泊セシムル様取計フヘシ

但行動費ハ配賦豫算内ニテ支辨スル儀ト心得ヘシ

四月三十日 加藤海軍次官來校

獨大使館附武官海軍少佐「ラング」廣島師團留學獨逸陸軍歩兵大尉「フォン、トロシユケ」氏來校

五月六日 第三學年生徒(六日ヨリ九日マテ)津和地島、室津、新湊へ端舟巡航セシム

五月十五日 姉川艦長海軍大佐花房祐四郎免本職補海軍兵學校教頭兼監事長

五月二十一日 佛國東洋艦隊旗艦「ダントル、カストル」入港二十二日出港長官「ペラン」少將艦長「シ

トポトル」大佐參謀「シヨバン」大尉大使館附武官「マルチオン」大尉校長訪問續テ校内巡覽

六月六日 内令第九號軍機兵器取扱規則ヲ定メラル

六月七日 海軍大臣來校巡視

六月十一日 六月六日附内令第九號及百十號ヲ以テ軍機兵器取扱規則及部外秘密兵器ニ關スル心得發布セラレ候ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

- 一 軍機兵器ニ關シテハ一切教科書ニ登載スヘカラス
- 二 軍機兵器ニ關スル事項ヲ登載セル教科書ニシテ現ニ生徒ニ交付中ノモノハ擔任教官ニ於テ一旦返納セシメ軍機ニ關スル部ヲ振キ取り焼却ノ上更ニ交付スヘシ
- 三 校員ニシテ前項ノ教科書ヲ所持セル者ハ之ヲ該教科書ノ屬スル科ノ首席教官ニ托シ前項ニ準シ振取焼却ノ處分ヲ受クヘシ
- 四 前項ノ教科書ニシテ參考用トシテ各部科ニ保存ノ必要アルモノハ全部副官ノ保管ニ移シ更ニ借入ノ手續ヲ爲スヘシ(副官ハ此ノ種教科書ヲ極秘ノ取扱トナス)
- 五 前項ノ教科書ニシテ卒業生徒及候補生以下ニ交付又ハ讓與シタルモノハ教務部ニ於テ其ノ書名員數及受領者官氏名ヲ取調報告スヘシ
- 六 前項ノ教科書ハ下士卒ニ交付スヘカラスト雖モ擔任教員ニハ在校中ニ限り貸與スルコトヲ得
- 七 部外ニ對シ嚴ニ秘密ヲ保ツヘキ兵器ニ關スル事項ヲ記載セル教科書ハ生徒下士卒ヲシテ校外ニ

持出テシムヘカラス

- 八 前項ノ教科書ハ教務部ニ於テ圖書番號ヲ附シ受領者ヨリ一々受領證ヲ徴スヘシ
- 九 軍機兵器ハ特別ノ鎖鑰ヲ施セル室内ニ格納シ又部外秘密ノ兵器ハ右ニ準スルカ若シクハ適當ノ包覆ヲ爲シ置クヘシ
- 一〇 當分ノ間軍機兵器ハ單術所視發弧器及網切器ノ外生徒ニ教授スヘカラス
- 一一 第二第三項ノ手續ヲ了シタルトキハ第二項ハ擔任教官第三項ハ教科書所有者各順序ヲ經テ其ノ旨報告スヘシ
- 一二 本心得ハ内令第十號ノ兵器以外ニ於テ一般ニ部外ニ對シ嚴ニ秘密ヲ保ツヘキ總テノ事項ニ適用ス

六月十三日 軍機兵器ニ關スル件 (教本第一部長ヨリ校長ニ)

本年内令第九號制定ノ軍機兵器八種ノ内教育綱領ノ規定ニ從ヒ貴校ニ於テ生徒ニ教授スヘキモノニ就キ何種ヲ如何ナル程度マテ教授スヘキヤヲ案定シ回送アリタシ

右ニ對スル回答 (六月十七日)

本月十三日附教本第七五二號御照會ニ對シ教授兵器及其ノ程度左記ノ通案定致候

一 伊集院信管

外形ヲ示シ其ノ取扱心得ヲ教授スルヲ以テ足レリトス

二 下瀬火藥

(A) 左ノ件ニ關シ綿火藥トノ比較

(イ) 燃燒及爆發

乾綿火藥ニ點火媒介トシテ「マッチ」ノ火ヲ用フレハ單ニ燃燒シ雷汞ヲ用フレハ爆發ス
今下瀬火藥ニ之ト同一ノ點火法ヲ用フルトキ燃燒爆發等ノ點ニ於テ同一ナリ等ノコト
ヲ教授ス

(ロ) 衝擊ノ結果

(ハ) 爆發ノ効力

(ニ) 比重

(ホ) 貯藏及取扱ノ難易

(ヘ) 爆發ノ難易

(B) 徹甲榴彈、鍛鋼榴彈ノ炸藥ニ使用セラル、コト及下瀬火藥填充彈取扱ノ大要ヲ教授スルヲ

要ス

三 特種水雷及其ノ附屬具

四 電氣機械水雷及其附屬具

右ニ廉ハ教授セス

五 單衛所視發弧器

(イ) 構造 大要

(ロ) 使用法 大要

(ハ) 標高修正法 大要

六 海防水雷發射機

七 網切器

八 牧村水雷

右ニ廉ハ教授セス

六月二十五日 智利練習艦「ゼテラル、バケダノ」艦長以下候補生三十餘名吳ヨリ來校

六月二十七日 平松末五郎吉永鐵治水泳教員ヲ囑託ス 報酬月額三十五圓

七月十一日 東京外十二ヶ所ニ於テ生徒志願者身體検査ヲ施行シ同二十五日ヨリ學術試驗開始八月三

日結了ス

第三學年生徒江上章吾轉地療養先ニ於テ死亡(德島縣板野郡川内村大字椋瀬村自宅ニ於テ)

七月十八日 第三十八期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス
品行善良章ヲ受ケルモノ左ノ二名

布施 公平 澤田 嘉瑞穂

七月二十一日 第三學年生徒(二十一日ヨリ三十日マテ)實地練習ノ爲ニ河川丸ニ乘組近海ヲ航行セシム
生徒休業外出ヲ許ス

第三學年生徒 七月三十日ヨリ九月十日マテ

第二學年生徒 七月二十一日ヨリ八月三十一日マテ

第一學年生徒 七月二十一日ヨリ九月十日マテ

八月十一日 故有栖川若宮殿下御殿(木造二階家一棟外一式)有栖川宮殿下ヨリ御寄贈相成タルニヨリ
書籍保管文庫附屬屋トシテ吳鎮守府ヨリ受領ス

八月二十四日 學校ニ於テ教授スヘキ軍機兵器ノ種類及其ノ程度ヲ左ノ通トス

一 兵學校

生徒ニ左ノ如ク教授ス

(1) 伊集院信管

性能大意及取扱法

(何) 下瀨火藥

燃燒爆發ノ狀況、性能、保存取扱法、用途及下瀨火藥填充ノ取扱法

(イ) 軍術所視發弧器

構造使用法、調整法ノ大意

八月二十八日 海軍少將正五位勳二等功二級島村速雄任海軍中將

練習艦隊司令官海軍少將吉村茂太郎免本職補海軍兵學校長

海軍兵學校長海軍中將島村速雄免本職補海軍大學校長兼海軍將官會議々員 (内閣)

九月一日 第二學年生徒(一日ヨリ十日マテ)實地練習ノ爲メ河川丸ニ乘組近海ヲ航行セシム

九月十一日 第三十七期生徒田中重正同小林利三郎ノ兩名ハ疾病缺席日數多キ爲メ第三十八期ニ編入ス

九月十四日 第三十八期生徒渡瀨甚二同伊藤喜市ノ兩名疾病缺席日數多キ爲メ第三十九期ニ編入ス
岡山縣平民中島寅三郎以下百五十名入校ス之ヲ第三十九期生徒ト稱ス 午後一時入校式ヲ施行ス

入校生徒氏名

中島寅三郎 岡山 川島義之 高知 多賀高秀 東京
尾崎主税 東京 橋本愛次 和歌山 廣瀬末人 大分

大島乾四郎	長野	和田	操三重	霜上正太郎	富山
清宮	弘千葉	田結	穰岐阜	神保勉一	廣島
檜橋憲基	福岡	齋藤昌二	山形	阿部嘉輔	山口
吉富說三	山口	相馬六郎	栃木	神谷健一	愛知
酒井武雄	長崎	島山耕一郎	巖手	丹生	秀鹿兒島
山口三郎	京都	百濟正夫	山口	加賀屋要吉	秋田
佐藤浩造	山形	德永貨市	長野	中島寅彦	佐賀
村上	勇大阪	鎌田道章	愛知	野明松治	長野
後藤直太	山形	太原	進兵庫	清水他喜雄	石川
宇垣完爾	岡山	野中善雄	佐賀	大塚	幹東京
齊藤彌綠	岡山	遠藤喜一	東京	揃田秀雄	熊本
五十嵐	惠新潟	若林清作	石川	橋本清一	三重
小山竹治郎	長野	中邑元司	廣島	今井田菊男	三重
大野善隆	東京	河原金之輔	神奈川	小林秀雄	福岡
中里隆治	埼玉	福田	拓宮崎	根本正清	鹿兒島

辻	榮作	石川	原	忠一	島根	河口嘉勝	熊本
河野	靜雄	大分	大藤	正直	山口	堀内茂禮	山梨
石井	藝江	東京	石井	龍夫	千葉	高木伴治郎	高知
日下部	鐵四郎	愛知	松本壽一	郎	德島	新井	清東京
草深	幸太郎	三重	木村	一郎	東京	犬塚	惟重佐賀
工藤	久八	巖手	倉持	孫一	茨城	田内	真隆愛媛
中村	久之助	神奈川	宮原	陽一	佐賀	原	龍朔石川
山口	常太郎	佐賀	志摩	清英	宮崎	赤荻	仁青森
安藤	龜治郎	大分	千代倉	五郎	茨城	高木	武雄福岡
阿部	弘毅	愛媛	山縣	武	山口	新葉	亭造大阪
梅田	長十	福岡	平田	三吾	廣島	中村	正雄長野
菊地	邦二郎	栃木	西村	祥治	秋田	床井	春吉福岡
平岡	条一	廣島	竹内	牧人	愛媛	田村	榮作大阪
鬼	憲治	福岡	林	蓉齋	福岡	靜永	德堯三重
中村	慶次郎	鳥取	森	良造	和歌山	室井	留雄新潟

明治四十一年

佐藤波藏	岐阜	飯島	清千葉	大崎安兒	和歌山
清水巖	茨城	山田敏	世長野	角田覺治	新潟
奥山麓	岡山	村尾二	郎長崎	篠崎眞正	鹿兒島
小島常次郎	長崎	森田一	男福井	伊藤	岐廣島
小林淑人	兵庫	安住義一	佐賀	八島俊一	愛媛
塚原胤一	大阪	岡敬純	東京	仲村保造	千葉
加茂亭佐	佐賀	山本勝美	山口	宮武重敏	香川
入船直三郎	香川	小林嘉憲	鹿兒島	安田啓二	山口
伊藤整一	福岡	石橋正三	東京	板垣盛	巖手
大森良三	東京	濱屋七平	山口	西本鈴次郎	東京
市來政章	鹿兒島	上條深志	長野	藤井寛三	山口
村上房三	香川	鈴木三雄	鹿兒島	淺田滿	嵯留茨城
山田義一	静岡	村山俊	巖愛媛	梶岡定	道愛媛
下坊定吉	福井	高橋政一	石川	吉田孝	東京
野村亮吉	京都	竹中龍造	和歌山	戸上虎次	福岡

松本 健香川 田尻種彦 佐賀 塚越彦太郎 山梨

八島元 徳宮城 津田耕作 東京 柴田力 静岡

山崎助一 佐賀 宮本定知 岐阜 佐伯孝二 東京

九月二十一日 第二學年生徒松岡靜雄ハ龍雄ト改名ス
 九月二十三日 瑞典公使館附武官來校

第三十九期生徒飯島清吳海軍病院ニ於テ死亡ス(二十五日午後三時吳海軍練兵場ニテ海軍葬儀教官ハ過半生徒ハ特種ノ代表者五十四名會葬)

九月二十六日 第三學年生徒山口實第一學年生徒山口三郎ノ兩名ハ京都府ヨリ神奈川縣ニ轉籍ス

九月二十七日 飯島清死亡ニ付其ノ補缺トシテ愛知縣平民三輪茂義入校ス

十月六日 花房大佐海軍兵學校長吉松茂太郎海軍大演習審判官トシテ出張不在中同職代理兼務ヲ命ス

(教育本部)

十月二十六日 第二學年生徒本間清ハ清恭ト改名ス

十月二十九日 教本第一二一九號管下諸學校間ニ於ケル通報規程ヲ左ノ如ク定ム

右心得ヘシ (左記略)

十一月五日 第三十六期生徒澤田七之助本校條例第二十二條第一項及第二項ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月九日 第三十七期生徒木下五郎疾病缺席多キ爲メ第三十八期ニ編入ス
十一月十日 第三十六期生徒石田直行疾病缺席多キ爲メ第三十七期ニ編入ス
十一月十七日 第三十七期生徒及第證書授與式ヲ舉行ス

成績優等ニシテ學術優等章ヲ受ケタル者

小林萬一郎 井上成美 戸苅隆始 岩下保太郎
柿田孝二 小池四郎 河村文平 井奥深
本田忠雄 岩村清一 宍戸好信 關根郡平
品行善良章ヲ受ケタル者

勳一等 輝 久 王

井上成美 小池四郎 關根郡平

十一月二十一日 第三十六期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス 御沙汰ニ依リ東伏見宮依仁親王殿下御臨
式場アラセラル又特ニ侍從武官關野謙吉ヲ差遣ハサレ成績優等者三名ニ雙眼鏡ヲ下賜ハル

皇太子殿下ヨリ東宮武官秋澤芳馬ヲ差遣ハサル

御物拜受者 佐藤市郎 澤本頼雄

坪井正吉

卒業者氏名

佐藤市郎	山口	澤本頼雄	山口	坪井正吉	静岡
小柳喜三郎	佐賀	雪下勝美	福島	三浦省三	東京
南雲忠一	山形	吉田四郎	岐阜	高橋伊望	福島
廣瀬正經	福島	町田豊	埼玉	松岡知治	福島
中杉久治郎	奈良	新見政一	廣島	細萱戊子郎	長野
鈴木嘉助	青森	安東順三	秋田	横山市治	廣島
塚原二四三	山梨	染河彌市	鹿兒島	水戸春造	廣島
蜂屋義尾	宮城	清水光美	長野	永田重忠	鳥取
砂川愛雄	鳥取	江森大六	福島	山口實	神奈川
西田利三郎	滋賀	中村由吉	宮城	成田二郎	三重
祝原不知名	島根	小島謙太郎	東京	田中恒太郎	滋賀
星野倉吉	東京	作間應雄	山口	保村禎一	山口
甘利恒雄	長野	丹下薫二	廣島	福永恭助	東京
平山源内	宮城	庄司彌一	宮城	茗荷秀雄	鳥取
古賀七三郎	佐賀	徳重佐一郎	鹿兒島	島村綱雄	熊本

熊岡 讓 靜岡	楠岡 準一 愛媛	堀 輝 雄 熊本
宮田 義一 東京	渥美 龜太郎 東京	根岸 清八 群馬
高井 元三郎 岐阜	十川 仁八 山口	小杉 務 靜岡
岡野 一幹 宮城	佐藤 文吉 山形	堀江 六郎 東京
薄葉 酉藏 秋田	斑目 健介 宮城	細谷 義男 東京
中村 藤藏 茨城	谷池 三郎 愛媛	坂本 伊久 熊本
飲島 弘之 千葉	松野 省三 山口	高橋 穎雄 廣島
安達 東三郎 愛媛	山田 定男 三重	石谷 喜佐藏 大分
栗林 今朝吉 長野	玉城 利治 鳥取	杉浦 信平 神奈川
太田 常利 巖手	石戸 勇三 青森	近藤 英次郎 山形
後藤 晴善 島根	北島 儀一郎 秋田	高橋 隆吉 愛媛
久保田 久晴 東京	野澤 錦二 東京	藤永 三郎 山口
島崎 竹吉 高知	土屋 忠正 廣島	福間 信吉 廣島
穂本 繁治 福岡	蜂谷 信太郎 岡山	角田 貞雄 東京
柏木 英 廣島	佐久間 敬太郎 和歌山	松本 善治 山梨

奥野 晃 東京	山内 大藏 福井	米田 重利 廣島
吉田 庸光 埼玉	脇 鼎 大分	川村 久右工門 青森
伊集院 俊男 鹿兒島	石橋 福次郎 茨城	山本 弘毅 和歌山
横山 德治郎 香川	大崎 敦信 新潟	鬼 俊民 福岡
木村 茂 神奈川	齋藤 二朗 東京	谷田 武夫 三重
外賀 良三郎 京都	加藤 三郎 兵庫	今泉 利清 佐賀
川合 信 岡山	竹田 六吉 福岡	横山 菅雄 高知
宇田川 英庸 神奈川	鈴木 幸三 福島	笠 忠雄 熊本
寺垣 孝三 東京	久我 徳一 佐賀	土居 政道 高知
塚部 忠三 神奈川	飯倉 克己 大分	坪田 季一 岡山
鍋島 貞次郎 東京華	堀田 二郎 熊本	栗屋 俊三 東京
本田 源三 鹿兒島	福澤 哲四郎 長野	田村 能介 山口
大野 厚行 東京	丸山 良雄 長野	佐野 哲 靜岡
有馬 直 鹿兒島	横田 輝雄 香川	土井 卓三 廣島
中島 喜代宣 茨城	寺田 幸吉 山口	川田 健吉 東京華

大島四郎佐賀	阿部真藏山形	關	禎千葉
丸山一雄岐阜	柳原信男高知	高木資雄福井	
岩原盛惠高知	大越英五宮城	土屋甫千葉	
大場寅吉佐賀	高野例三埼玉	河村源一郎三重	
弓削末藏熊本	永峰專治東京	恩地貞市廣島	
能美留壽山口	相浦小七佐賀	小瀧德治兵庫	
糸川季忠神奈川	千葉成男東京	高橋榮吉栃木	
石橋三郎福岡	藤瀬勝佐賀	小篠宣秀長崎	
井上貞一静岡	峯木茂新潟	荻野直壽東京	
小池三夫佐賀	古田中博東京	阿部政夫大分	
杉浦朝三郎愛知	若木元治山形	山下深志鹿兒島	
長田弘善山梨	岡野俊孝宮崎	鈴木義雄神奈川	
戸須賀千之佐賀	石橋當二東京	千田修二和歌山	
山下新一香川	中込育三山梨	淺野千之介茨城	
中村辰治郎宮城	中圓尾義三兵庫	犬塚 藏佐賀	

二川政彦鹿兒島

永田良三千葉

清水柳太郎群馬

有常參三廣島

茂原銳一岐阜

長尾惣助青森

189

澁谷週作東京

野田謙三佐賀

黒岡忠雄鹿兒島

十二月二十一日 第一、第二、第三學年生徒ニ(本日ヨリ四十二年一月九日マテ)冬季休業外出ヲ許ス

十二月二十二日 第三十八期生徒柏原靜登大阪府下濱寺ニ轉地療養中死亡ス

十二月二十五日 第三十六期生徒及川鉄五郎ニ卒業證書ヲ授與ス(疾病ノ爲メ卒業試験未了ニ付臨時

試験施行ス)

賀表奉呈ニ關スル件 (教本副官ヨリ申牒)

從來遙拜式ヲ施行セラル、學校ニ於テ新年、紀元節、天長節ニ賀表ヲ奉呈セラレサル所モ有之
ヤニ聞及候處海軍艦船ニ乗組ノ勤務ノ者ニアラサル限リ總テ奉呈スヘキ御規定ニ候條爾今各
學校區々ニ涉ル等ノ事無之様御取計相成度

十二月三十日 午後四時故生徒柏原靜登ノ海軍葬儀ヲ江田島教法寺ニ於テ執行(吳海軍墓地埋葬)

十二月三十一日 現在職員氏名

校長	少 將	吉松茂太郎	副官	少 佐	山内四郎
教頭兼	大 佐	花房祐四郎	同兼	少 佐	山口傳一
監事長					

明治四十一年

砲術教官兼監事

少佐	巖崎茂四郎	同	匣瑛胤次
大尉	平 眞雄	大尉	齋藤 清
同	黒田瀧二郎	同	松本 匠

水雷術教官兼監事

中佐	山下正武	少佐	今泉哲太郎
大尉	川合退藏	大尉	大寺量吉

航海術教官兼監事

中佐	伊東祐保	少佐	犬塚助次郎
少佐	迎 邦一	大尉	神田佐吉
大尉	福村篤男	同	前川直平
同	富岡金太郎		

運用術教官兼監事

中佐	岸 久太郎	少佐	和田博愛
少佐	小倉卯之助	兼副官	山口傳一

大尉 中牟田武正

兼教官 大尉 加村 康政

同 加賀山 幾

兼教官 造船大技士 廣瀬 瀧次

兼教官 造船大技士 河合 定二

機關術教官

機關中佐	江越孝太郎	同 大尉	豊田 稔
同 大尉	戸川 暉	同	曾山芳雄

普通學教官

教授	松井喜三郎	教授	服部正魁
同	保坂丑太郎	同	鹽冶應太郎
同	清水與三郎	同	内田雄太郎
同	田中西熊	同	山川弘毅
同	堀 英四郎	同	細川源三郎
同	酒卷貞一郎	同	酒井小太郎
同	山本他家松	同	内藤 信夫
同	原田竹三郎	同	川井田藤助

監事 大尉 加村康政
 軍醫長 軍醫大監 白井 宏 附 同少監 秋本孝之助
 大軍醫 栗田得三 附 中軍醫 新海金次郎
 主計長 主計少監 池田繁治 附 大主計 藤田直一
 教員
 砲術 兵曹長 田中盛綱 外下士官 十七名
 水雷術 上等兵曹 川合春四郎 外下士官 八名
 運用術 上等兵曹 金川菊松 同 田中近助
 航海術 下士官 二名
 機關術 機關兵曹長 川村熊太郎 上等機關兵曹 大條哲郎
 外下士官 五名
 本校附
 上等筆記 三村十彦
 書記 倉田龜三郎 同 田島幸太郎

同 森脇熊次郎 同 大久保友市
 技手 原田政吉 同 福中松太郎
 囑託教員

柔道 平田仲次郎 同 松田謙三
 同 森 松度
 劍術 猿田東之助 同
 齒科醫 矢田部藤吉 同 守口福三郎

生徒總數 四百八十七名
 內譯 第三學年生徒 (三十七期) 百八十三名
 第二學年生徒 (三十八期) 百五十二名
 第一學年生徒 (三十九期) 百五十二名

明治四十二年

一月六日 海軍省告示第一號ヲ以テ本校生徒百五十名召募セラル(試験場所、書式及規格等前年ニ同シ)

一月十日 始業式、生徒分列式終テ 勅諭奉讀後總員運動(棒倒二回)

一月十三日 明治四十年五月達第五十九號證書證狀書式中追加セラレ

一月十五日 學術卒業證書授與式施行手續中改正セラル

一月廿一日 左記ノ雜役船舟ヲ吳海軍港務部ヨリ受領ス

公稱 第八九號 汽艇 一隻

同 第二三二號 「カッター」 一隻

一月廿六日 第二學年生徒矢部茂吉酒井ト改姓ス

各學校間ニ於ケル通報規程中左ノ通り改正セラル

第三條 各學科教程、試験問題、作業問題其他教授程度ノ參考トナルヘキ教授時數又ハ日課表類ハ各

其一部ヲ教育本部及他ノ學校ヘ送致シ別ニ學業考課表及卒業成績表各二部ヲ教育本部、一部ヲ他

學校ヘ送致スヘシ

一月廿九日 學生生徒練習生ノ卒業證書授與式費ハ左ノ定額内ニテ處辨スヘシ (抜萃)

明治四十二年

三三三三

兵學校 金四百圓

二月一日 家屋名稱更正ノ件 (吳經理部長ヨリ)

貴廳所屬家屋ノ内同一名稱ノモノ二棟以上アルモノニ就テハ修理其他ノ場合ニ單ニ名稱ノミヲ以テ位置圖ニ對照シ其何レノ分ナルヤヲ知了スルコト能ハス取扱上差支多キヲ以テ此際是等建物ニ對シ別ニ名稱ヲ附シ更正方略位置圖ヲ添ヘ司令長官へ御照會相成候様致度別紙二三ノ例ヲ掲ケ且更正ノ意見附記ス

追テ從來家屋營造物ノ修理要求其他ノ場合ニ適宜ノ番號又ハ略名異稱ヲ用キラル、向有之調査上不便不尠候依テ自今ハ必ス財産簿ニ登記ノ名稱ヲ用ヒラル、様特ニ御注意ヲ得度

同一名稱ニシテ二棟以上アルモノ

名稱	名稱
倉 庫 病院其他ニモアリ	病 室 病院四棟アリ
物 置 同	便 所 所屬建物ノ定マラサルモノ(以下略ス)

(備考) 一 前記ノモノハ其一例ヲ表示シタルニ過キス之ニ類例ノモノハ總テ更正ヲ希望ス
 一 一號、三號アリテ二號ナキモノハ三號ヲ二號ニ改ムルヲ要ス
 一 更正名稱ハ成ルヘク番號ヲ冠セラル、ヲ便利ト認ム例ヘハ第一倉庫第二倉庫ノ如シ

二月十五日 第三十七期生徒石田直行第三十九期生徒伊藤喜市ノ兩名本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス (病氣)

三月十七日 所屬船艦營需品定額表改正セラル (四月一日ヨリ施行ス)

三月廿日 第一艦隊香取、筑波、生駒、敷島、日進(二十一日春日)入港二十二日出港ス二十一日艦隊ハ端舟競漕終テ練兵場ニ於テ閱兵式舉行

三月廿一日 學習院教授男爵神田乃武外二名來校

三月廿二日 生徒糧食給與ノ件上申 (教育本部長宛)

生徒ニ給スル糧食ハ明治四十年十一月五日付兵學第六〇四號ヲ以テ上申ノ結果同年官房第二三七五號ヲ適用セス海軍給與令施行細則第二十表備考第九ニ據リ給與スヘキ旨同年官房第四五八八號ノ二ヲ以テ訓令相成居候處本年官房第七七七號ニヨリ右訓令中ノ官房第二三七五號ハ廢止ト相成候ニ就テハ前上申ト同一趣旨ニ依リ給與令施行細則第二十表備考第九ニ據リ給與繼續ノ義御認許相成度

三月廿九日附 (大臣ヨリ)

兵學第二三八號上申海軍兵學校生徒糧食給與方ノ件認許ス

三月廿五日 建築物名稱變更ノ件 (吳鎮守府司令長官宛)

本年二月一日附吳建第九〇號吳海軍經理部長ヨリノ照會ニ基キ別紙ノ通本校建築物ノ名稱更正案提

出候間該案ノ通り更正相成度

更正名稱	財産簿現在名稱	構 造	建坪其他	記 事
第一庫	物品保管倉庫	煉瓦造二階家	六四、四〇〇	二十一年二月竣工
第二庫	同	木造二階家	二八、〇〇〇	二十一年四月同
第三庫	板庫	木造平家	二〇、〇〇〇	二十六年三月同
第一便所	生徒運動場八方園便所	同	〇、五〇〇	二十二年一月同
第二便所	同	同	二、〇〇〇	同
第三便所	同	同	〇、五〇〇	同
第一生徒館	生徒館	煉瓦造二階家	七二、五三〇	二十六年三月竣工
第一病室	病室	木造平家	八二、一一一	三十三年三月同
第二同	同	同	三〇、〇〇〇	三十四年三月同
第一水溜	水溜	石造	一所	二十一年四月同
第二、三同	同	同	二所	二十二年三月同
第四同	同	同	一所	二十七年三月同
第五同	同	人造石木製屋根付	一所	三十三年十月同

第六同	同	石造	一所	三十七年三月同
第七同	同	叩造	一所	同
第八同	同	石造	一所	同
第九同	同	煉瓦造屋根付	一所	三十九年二月竣工
第一貯水池	貯水場	石造	一所	二十七年三月同
同	貯水池	同	一所	三十一年七月同
第二同	貯水池	同	一所	三十三年三月同
第三同	同	同	一所	三十八年一月同
水雷術第一講堂	水雷講堂	煉瓦造平家	四〇、〇〇〇	二十一年四月同
第一物置	物置	木造平家	三、〇〇〇	二十三年一月同
第二物置	薪炭置場	同	一、〇〇〇	三十三年二月同
第一物干	物干	木造	一所	三十一年九月同
第二同	下士卒用物干	同	一所	同
第三同	物干	同	一所	三十二年一月竣工

建築物名稱更正ノ件 (七月十二日校長宛)

明治四十二年

本件ニ付兵學第八七號ノ二照會ニ依リ更正ヲ了ス

三月廿七日 本日ヨリ四日間賀茂郡原村ニ於テ野外演習舉行

三月廿九日 教務規程改正ノ件上申四月五日認許セラレ

三月卅日 本校規則改正セラレ

四月五日 本校教育綱領改正ノ件教育本部長ヨリ訓令セラレ

四月九日 軍艦寫真要求ニ關スル件上申

左記寫真ハ生徒教授上必要有之候條橫須賀鎮守府へ寄贈方御要求相成度

追テ艦裝未成ノモノハ完成ノ上尙將來新製軍艦アル毎ニ寄贈ヲ得度此旨副申ス

六月十五日 (教育本部副官ヨリ申牒)

兵學第二三七號ノ八貴校長上申ノ軍艦寫真ノ件別紙教本第五二三號ノ二寫本部長ノ請求ニ對シ別紙

艦本第一八九〇號ノ三艦政本部長ノ回答アリタリ

教本第五二三號ノ二 海軍兵學校へ軍艦寫真ヲ寄贈方ノ件

海軍兵學校生徒教育上必要有之候ニ付新造軍艦アル毎ニ其ノ艦裝完成シタルトキノ寫真一葉可成大形ノモノヲ同校へ寄贈スヘキ様可然御取計相成度

艦本第一八九〇號 海軍兵學校へ軍艦寫真寄贈方ノ件(六月十四日)

教本第五二三號ノ二御照會新造軍艦ノ寫真ヲ兵學校へ寄贈方御來意ノ通可取計候又追書中御申越軍艦ノ内鞍馬、伊吹ハ未竣工ニ付竣工ノ上送付可致他ノ八艦ノ内音羽、相模、壹岐、周防、韓崎、松江ノ六隻ハ橫須賀工廠ヨリ鈴谷ハ吳工廠ヨリ高千穂ハ佐世保工廠ヨリ寄贈可致候

四月十二日 第三學年生徒高橋爲樹ハ六村ト改姓ス

四月十九日 内令第八三號海軍兵學校定員表ヲ附表ノ通り改ム

海軍兵學校定員表

校長	中少將	一			
副官	中少佐	一	(兼務)大尉		
教頭	大佐	一			
航海術教官	中少佐	一	少佐大尉	六	
砲術教官	中少佐	一	少佐大尉	三	大尉 二
水雷術教官	中少佐	一	少佐大尉	二	大尉 一
運用術教官	中少佐	一	少佐大尉	五	
機關術教官	機關中少佐	一	機關少佐	二	
普通學教官	海軍教授	十七			

監事長	大中佐 一		
監事	中少佐(兼務)四	少佐大尉(兼務)十六	大尉三(内兼務二)
軍醫長	軍醫大中監 一	軍醫少監大軍醫 一	軍醫 二
主計長	主計中少監 一	主計 一	
	兵曹長 二	上等兵曹 二	機關兵曹長 一
	上等兵曹 二	上等筆記 一	上等機關兵曹 一
	一等兵曹 二十	二三等同 二十	一等信號兵曹 二
	二三等同 二	一等船匠手 一	二三等同 一
	一等機關兵曹七	二三等同 十一	一等看護手 一
	二三等同 二	一等筆記 一	二三等同 一
	一等尉幸 一	二三等同 一	
	書記 四	技手 二	
	一等水兵二十八	二三等水兵 四十	一等信號兵 二
	二三等同 二	一二等木工 六	一等機關兵 十二
	二三等同 十九	一二等看護 三	一二等主尉 四

計 將校 同 相當官 六十人(内兼務二十三)

兵曹長同相當官准士官 七人

判任文官 六人

高等文官 十七人
下士 七十一人
卒 百十六人

(備考)

一 副官(大尉)一人ハ教官ヲ以テ兼補ス

二 監事ハ専務一人ノ外總テ教官ヲ以テ兼補ス

三 兵曹長、上等兵曹、機關兵曹長、上等機關兵曹ハ教員ニ充ツ

四月廿三日 海軍出身志願者身體検査格例中改正セラル

五月七日 機關少尉候補生練習艦千歳入校八日出港

五月八日 建物名稱更正ノ件 (吳鎮長官宛)

本校建築物ノ名稱左記々事欄内記載ノ理由ニ依リ更正相成度

氣象學講堂附屬

倉庫

木造平家

三〇坪五〇〇

三十二年三月竣工

氣象講堂ハ四十二年度新營ノコトニ請求中ノ處該講堂新築ノ運トナリテ工事竣成ノ

上ハ從來ノ倉庫トシテ連屬トシテ本名稱ニ變更ヲ要ス

建物名稱更正ノ件

(校長宛八月十七日附)

本件ニ付兵學第六七號照會ニ依リ更正ノ手續ヲ了ス

明治四十二年

五月十三日 伊國軍艦「ビュグリア」艦長以下七名來校

五月十五日 本年告示第一號ニ基ク海軍兵學校生徒志願者ニ對スル身體検査開始日割ヲ定メラル

六月二日 今般探海要具ハ艦船兵器簿ヨリ削除サレ候ニ付從來ノ如キ探海法並其教練ヲ施行スルコト

ナキモ場合ニ依リ特殊ノ裝置ヲ用テ探海法ヲ行フコトアルヘキノミナラス追テ其製式ヲ改良シテ更

ニ一般ニ備付ラルヘキ内議モ有之候間貴校教科書ヨリ之ヲ全然削除スルコトナク當分ハ其要領ヲ教

授スルコトニ致度 右命ニ依リ申進ム (教育本部第一部長ヨリ)

六月四日 第三十八期生徒木下五郎本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

六月九日 建築物用方變更ノ件 (吳長官宛)

劍術道場並端舟 修理場野砲置場 端舟修理並野砲置場 木造平家 一五三、〇〇〇 二十年十二月竣工

(理由) 本建築物ハ明治二十年十二月竣工以來別紙圖面ノ通其ノ大部ヲ劍術道場ニ其ノ一部宛ヲ

端舟修理並ニ野砲置場ニ使用中ノ處本校財産簿ニ劍術道場ノ名稱無之修理其ノ他手續上

差支ヲ生シ不都合ニ付變更ヲ要ス

建築物名稱更正ノ件 (六月卅日校長宛)

本件ニ關シ兵學第八七號ノ七照會ニ依リ更正ヲ了ス

建物用方更正ノ件 (吳鎮長官宛)

本校建築物ノ用方ハ別紙記載ノ理由ニ依リ更正相成度

追テ本件更正ハ本年兵學第八七號ノ二建築物名稱更正照會ニ關係致候ニ付此旨副申ス

油類倉庫 鍛冶工業場 木造平家 六、〇〇〇 廿三年二月竣工

(理由) 本建物ヲ鍛冶工業場ニ使用セシハ往年軍艦カ本校附屬船タリシトキ兵員ノ鍛冶場ニ充テ

タルモノナレトモ其後現今ノ鍛冶工業場建設セラレ加フルニ軍艦ノ附屬ヲ解カレタル爲

メ自然不用トナリ今日ニテハ全ク機關部ノ油類倉庫ニ使用中但シ現在使用ノ鍛冶工業場

建設ノ當時前分用方更正ノ手續洩ト推セラル

兵舎 輕砲臺 木造平家 一〇五、八〇〇 二十六年三月竣工

(理由) 從前當校ニ軍艦ノ附屬セシ頃ハ兵員ハ軍艦ニ起臥シ本建物ハ單ニ砲臺ニ使用サレアリシ

モ軍艦ノ附屬ヲ解カレ兵員陸上ニ起臥スルノ時ニ到テ該建物ヲ兵舎ニ改造充用セラレタ

ルモ當時用方更正手續未済ノモノト推セラル

水雷術第二講堂 物置兼事業場 木造平家 五五、〇〇〇 三十一年二月竣工

(理由) 本建物ハ三十一年中物置兼事業場トシテ建設セラレシモ其後生徒ノ員數増加ニ從テ講堂

的ニ模様替ヲ施シ現ニ水雷術講堂トシテ同第一講堂ト併隣シテ使用シ居レリ蓋シ該模様

替工事ノ節用方更正手續未済ノモノト推セラル

家屋用方更正ノ件 (七月廿三日校長宛)

本件ニ付兵學校第八七號ノ三照會ニ依リ用方更正處分ヲ了ス

建築物名稱更正ノ件 (六月九日吳鎮長官宛)

本年二月一日附吳建第九〇號吳海軍經理部長ヨリ照會ニ基キ曩ニ更正案提出致置候處尙別紙追加案提出候間更正相成度

追テ本更正ハ本年兵學第八七號ノ三建築物名稱更正照會ニ關聯致候間此旨副申ス

厨業員室 賭夫部室 木造平家 五、〇〇〇 二十六年三月竣工

割烹及賭夫室 木造平家 九、〇〇〇 三十年九月竣工

(理由) 兩室共一棟ノ建物ニシテ且厨宰主厨等モ執務起臥ヲナシ名稱ヲニニスルハ適切ナラサル

ニ付一括シタル名稱ニ更正ヲ要ス

第二生徒館 温習所 木造二階家 二一六、九九六 三十三年十一月竣工

(理由) 其實温習所ニアラスシテ寢室ニ充テアルニ付名稱適切ナラス尙在來ノ生徒館ハ曩ニ第一

生徒館ト名稱ヲ更正セリ

機關術第一講堂 製圖講堂 木造平家 二〇六、〇〇〇 廿一年四月竣工

(理由) 名稱ヲ簡單ニスル必要アルニ依ル

運用術第一講堂 運用術講堂兼雛形室 木造平家 六〇、〇〇〇 廿一年四月竣工

(理由) 主トシテ講堂ニ使用セルニ依ル

運用術第二講堂 模型置場 木造平家 八〇、〇〇〇 三十二年三月竣工

(理由) 前同

理化學講堂 理化學教授所 煉瓦造二階家 一一九、一〇二 二十一年四月竣工

(理由) 名稱適切ナラサルニ依ル

建築物名稱更正ノ件 (六月十九日校長宛)

本件ニ付兵學第八七號ノ六照會ニ依リ更正ヲ了ス

六月十一日 教務規程附表第五改正ノ件上申 (八月二日認可)

今般生徒懲戒規則改定御承認相成度上申候處之ニ供ヒ教務規程附表第五品行點附與標準中所犯輕微ニ該ル者ノ所罰譴責ニ相當スルモノヲ設ケ品行點一點乃至九點ヲ減スル様規程追加致度候間御承認相成度 (品行點附與標準及略)

生徒懲戒規則改正ノ件上申 (八月二日認可)

本校生徒懲戒規則別冊ノ通り改正實施致度候間御承認相成度

(改正理由)

第一 從來實施シ來リタル生徒懲戒規則中宇句其他ノモノニシテ海軍懲罰令ニ準據シ得ヘキモノ

ハ可成同一法文ニ改削シタリ

第二 從來ノ懲戒規則中懲戒科目ハ同第二條ニ列記シアリテ六十七ヶ項目ノ夥多ナリシモ殆ント同一事件ニシテ其名目ヲ異ニセルモノアリ故ニ是等ヲ取捨綜合シテ簡單ニシテ三十八ヶ項目ニ改メ適用者ノ活用ニ俟ツコトトシ且又該科目中時運ノ推移ニ供ヒ法文トシテ記載面白カラサルカ如キモノ假令ハ舊規則ノ第二十二項寢床ヲ共ニシ又ハ醜行ヲナシタルモノ等ノ如キ項目ヲ除去シタリ

第三 從來ノ懲罰ハ禁足、誹責ノ二種ニ分タレ所犯ノ輕重ニ應シ適用セラル、如ク規程シアリテ其禁足ハ所罰ノ方法明ナレトモ其誹責ハ所罰ノ方法明瞭ヲ缺クノ嫌アリ該規則實施以來所罰ヲ受ケタルモノハ必ス禁足ニ止マリ殆一人モ誹責ニ處セラレタル者ナシ然レ共所犯輕微ニシテ誹責ニ止ムヘキモノ皆無ナリシトハ認ムル能ハス故ニ之ヲ改メテ新規則第八條ニ之ヲ明示シ所犯輕微ナルモノニ適用シ且本罰ト附加罰トノ區別ヲ明確ニシタリ而シテ生徒ヲシテ日常ノ瑣事ニ至ルマテ注意心ヲ喚起シ以テ軍紀風紀ノ慣熟ニ資セントス

第四 以上ノ外懲罰權ノ委任、懲罰手續等稍字句其他ヲ改メタルニ過キス

六月十六日 井上 精 平野長成 水泳教員囑託部内限判任待遇 (各三十七圓)

七月二日 生徒練習用トシテ 山階宮家ヨリ御寄贈ノ「ヨット」〔ひばり〕一隻ヲ受領ス

下水改築石造三百尺竣成ニ付受領ス

七月六日 第三十九期生徒村上勇大阪府ヨリ京都府ニ轉籍ス

七月十八日 第三十八期及第三十九期生徒及第申渡式ヲ施行ス

成績優等ニシテ學術優等章ヲ受ケタルモノ

第三十八期生徒 杉山六藏 三川軍一 越智孝平

池上高嶺 海谷 優

第三十九期生徒 多賀高秀

品行善良章ヲ受ケタルモノ

第三十八期生徒 三川軍一 澤田嘉瑞穂

第三十九期生徒 多賀高秀 遠藤喜一 尾崎主税

第三十八期生徒 酒井一雄、難波祐之、布施公平、第三十九期ニ編入(大試験成績中普通學ノ得點及第規格ニ達セサルニ付)

七月廿一日 生徒ニ夏季休業外出ヲ許ス

第三十七期生徒ハ七月三十日ヨリ九月十日迄

第三十八期生徒ハ七月廿一日ヨリ八月卅一日迄
第三十九期生徒ハ七月廿一日ヨリ八月卅一日迄
七月廿二日 内則改正御承認ヲ得度件上申 (九月一日認許)

本校内則別冊ノ通改定致度候ニ付御承認相成度 (別冊略)
(改正理由)

第一 教務規程ノ改正ニ供ヒ舊内則中ヨリ日課及授業試験並品行點ノ數節ヲ省略シ現教務規程ニ
適合セシメタルハ本内則改正ノ主眼トスル所ナリ

第二 第一節通則以下各節共多少ノ改竄ヲ行ヒ現ニ慣例其他ニヨリ實際施行シ來ルモノニ適合ス
ル様改正シタリ

第三 敬禮及服裝内規ノ二節ヲ追加シ本校校員生徒及下士卒ノ敬禮服裝ニ就キ準據スル所ヲ規定
シタリ

九月十一日 午後一時新募生徒倉永小三以下百五十人ノ入校式ヲ舉行ス

入校者氏名
倉永 小三 佐賀 賀川 右橋 廣島 岸 福治 群馬
藤城 錦之助 東京 ○ 松田 平重 朗 三重 藤田 利三 郎 大阪
樋口 曠 山梨 堀内 馨 愛媛 宇垣 繼 岡山

村上 健三 山口	寶來 邦太郎 岡山	龍崎 留吉 千葉
山口 儀三 朗 廣島	平野 重吉 長野	宮崎 德三 郎 福岡
殿村 千三 郎 東京	福留 繁 鳥取	若尾 梯次 郎 高知
木岡 蟻志 松 德島	大竹 玄 吾 山形	松良 考 行 愛媛
山口 多 聞 東京	今村 修 大分	阿部 孝 壯 山形
阿部 勝 雄 巖手	西岡 茂 泰 高知	中村 直 照 福岡
近藤 憲 治 静岡	少路 虎三 郎 滋賀	木村 進 愛知
内田市 太郎 群馬	金樹 義 夫 廣島	井上 左馬 太 鳥取
柴田 彌一 郎 富山	丹羽 正 躬 福岡	梅崎 卯之助 福岡
有光 米 吉 高知	岡 新 東京	可兒 滿 壽 夫 岐阜
宮里 秀 德 鹿兒島	水野 知 彦 山形	石川 茂 廣島
大和田 肇 宮崎	永井 英 茨城	山本 正 彦 東京
山村 豊 雄 石川	長谷部 喜 藏 岐阜	三坂 直 廉 大阪
水井 靜 治 兵庫	小野 寺 丑 藏 宮崎	始 關 寛 千葉
丸山 茂 富 長野	宗野 長 藏 山口	千田 貞 敏 鹿兒島

江戸兵太郎 福井	西尾不二彦 大阪	山内三郎 鳥取
佐々木喜代治 秋田	鈴木義雄 山形	岸人三郎 兵庫
寺垣敬三 東京	宮本八十三 東京	舛岡誠太郎 和歌山
小牧猛夫 宮崎	早川成治 東京	近藤爲次郎 東京
濱田邦雄 長崎	江口松郎 佐賀	門脇文吾 鳥取
徳富太多雄 熊本	新美和貴 熊本	中原三郎 佐賀
松本象二郎 鳥取	石橋清次 佐賀	秋山勝三 滋賀
代谷清志 大阪	島津鹿藏 和歌山	井原美岐雄 福岡
緑川憲之助 佐賀	黒川彦吉 愛知	來島茂雄 東京
荒木保 佐賀	久重一郎 岡山	濱口鶴雄 三重
丸茂邦則 長野	延谷保司 大分	清岡八郎 東京華
大西瀧治郎 兵庫	佐藤源藏 神奈川	岡野慶三郎 茨城
猪瀬正盛 福島	大橋龍男 福井	佐藤勉 京都
岡安喬捷 熊本	桑島新 群馬	山崎英太郎 東京
小島正 静岡	伊藤辨之助 山形	山本六郎 東京

八代祐吉 鹿兒島	高橋一松 新潟	寺岡謹平 山形
今澤綱雄 愛知	湯澤光三郎 群馬	谷口謙一 埼玉
森徳治 福島	小川脩 岐阜	只木信行 東京
松山光治 奈良	城島高次 佐賀	勝野實 東京
中野勝次 石川	稻垣義穂 廣島	吉田毅雄 千葉
岸本雅夫 香川	中尾八郎 愛知	手束五郎 静岡
影山五郎 静岡	森國造 静岡	三木森彦 東京
森本信一 高知	白木原高次 福岡	平塚四郎 茨城
清水環 廣島	福田貞三郎 青森	吉永孟 東京
田中馬次郎 兵庫	荒木左右 熊本	候爵醍醐忠重 東京華
門脇盛吾 宮城	森野草六郎 岐阜	兵頭光周 愛媛
東郷實 鹿兒島華	妹尾知之 廣島	石黒廣助 愛知
左近充尙正 鹿兒島	多田武雄 東京	池田正方 長野
土山健一 佐賀	伯爵上野正雄 東京華	坂元廣 鹿兒島
河西健 熊本	坂本晋一 佐賀	本田榮三 栃木

柳沼七郎 福島 坂元宗隆 鹿兒島 山本茂太郎 鳥取
岩高賢治 大阪 加藤成禧 東京 吉良俊一 大分

九月十二日 第三十七期生徒小出桂愛知縣丹羽郡犬山町ニ轉地療養中死亡ス

九月十五日 元水雷艇福龍ノ罐生徒教授用トシテ保管轉換相成度旨上申十一月十二日附官房第三一八

二號ノ二ヲ以テ認許セラル

九月十六日 第三十七期生徒原清疾病缺課多キニ依リ第三十八期ニ編入ス

十一月二日 第三十七期生徒石川定雄第三十八期ニ編入

十一月八日 第三十七期生徒武田哲郎島田ト改姓ス

十一月十日 生徒被服物品請取手帳ヲ生徒被服物品取扱手帳トシテ交付品定數ヲ改正ス

十一月十八日 北白川宮大妃殿下日本本校ニ成セラル

十一月十九日 第三十七期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ 恒久王殿下御臨場又特ニ侍從武官西紳六郎ヲ差遣ハサレ成績優等者三名ニ望遠鏡ヲ

下賜ハル

皇太子殿下ヨリ東宮武官田村不顯ヲ差遣ハサレ

御物拜受者 小林萬一郎 井上成美 岩下保太郎

卒業生籍氏名

小林萬一郎 三重	井上成美 宮城	岩下保太郎 大分
柿田孝二 鳥取	戸蒔隆始 愛知	小池四郎 茨城
關根郡平 埼玉	岩村清一 東京	河村文平 静岡
宍戸好信 山口	本田忠雄 熊本	中山道源 廣島
井奥 兵庫	鈴木新治 新潟	久我安市 佐賀
中田 操 東京	柳川教茂 三重	鈴木繁彌 山形
太田泰治 岡山	大熊政吉 愛知	草鹿任一 石川
矢部 勇 愛媛	岸本鹿子治 岡山	小橋義亮 鳥取
藤森清一朗 長野	勳一等輝久王	北川茂春 高知
清源 清 大分	飯倉貞造 千葉	三並貞三 大阪
浮田秀彦 熊本	桑折英三郎 愛媛	田鎖恭一郎 巖手
元泉 威 神奈川	園田 滋 鹿兒島華	雉本了介 愛知
後藤英次 秋田	菊地省吾 北海道	岩崎大助 茨城
片原常次郎 東京	大川内傳七 佐賀	灘波 正 神奈川

小松壽雄 高知	本間 清新 新潟	小澤治三郎 宮崎
福田均三 栃木	伊藤公男 東京	山田 滿 熊本
有本 明 大阪	生方乙彦 神奈川	岩倉具重 東京華
渡邊鏡一 愛知	中村重一 愛媛	中村一夫 千葉
千藤茂美 岐阜	勝部 得 島根	清水長吉 茨城
高崎武雄 鹿兒島	武部鷹雄 鳥取	井上幸吉 滋賀
佐倉武夫 靜岡	矢野隼士 大分	小熊文雄 新潟
難波暉雄 岡山	田中正英 愛知	鋤柄玉造 愛知
高須三二郎 東京	利根川忠三 埼玉	熊澤舛藏 高知
土本峻一 愛知	八田耕造 熊本	松木益吉 高知
山田省三 廣島	吉田福藏 靜岡	野村經德 兵庫
宇佐美治作 長野	千知波長次 熊本	辻 音治郎 奈良
青柳宗重 長野	工藤泉介 愛媛	松本康生 愛知
山田梅藏 京都	島田哲郎 東京	國生行孝 鹿兒島
人見駿一 兵庫	山口利隆 鳥取	岩上維精 栃木

尾崎篤郎 鳥取	萩野伸一郎 佐賀	加藤 正 和歌山
春日 篤 長野	村田茂雄 茨城	日臺虎治 長野
山村 實 大分	大野三良 東京	石黒虎雄 高知
松本青二 兵庫	養妻準二 山口	米田重治 鳥取
富田賢四郎 福岡	境 澄信 山口	宮島良澄 佐賀
實吉敏郎 東京華	野元光康 鹿兒島	帖佐敬吉 東京
桃島節雄 福岡	早川定三 新潟	五日市規矩司 巖手
竹崎武雄 福島	茂泉慎一 宮城	最上修兒 兵庫
寺田祐次 長野	木幡 行 福島	渡邊德四郎 山形
前澤弼治 新潟	中村 進 長野	久保傳治 兵庫
岡本 絢 和歌山	堀江亥之吉 山形	伊藤儀三郎 千葉
葉若秀雄 京都	馬越喜七 愛媛	佐藤立一 群馬
三村親比 長野	桑原虎雄 靜岡	大橋五郎 茨城
諸岡修一 三重	長谷川貞平 群馬	遠藤 昌 大阪
阪本 敏 埼玉	樋口修一郎 長野	稻川與三郎 岐阜

窪 德治郎 福井	加藤仁太郎 山形	尾崎 剛 千葉
鈴木 貫 静岡	龜井主計 香川	中野郡次 兵庫
大堀庫次 福井	一法師喜雄 大分	春日末章 熊本
大槻季雄 熊本	坂部省三 茨城	寺澤市太郎 愛知
山本友一 山口	原 顯三郎 東京	松川彦太郎 三重
大島信哉 栃木	阿部新治 宮城	小槻貞三 京都
伊藤 長 福井	前田藤三郎 香川	加藤泰平 愛媛
横山 茂 廣島	福原一郎 栃木	村上象次郎 愛媛
谷山國彦 東京	水野孝吉 東京	田中幸造 青森
宮崎 平 新潟	堀江吉正 長野	宮崎忠一 山口
山中孝次郎 熊本	水野準一 石川	黒崎林藏 新潟
淺田準一 大阪	塹江乙矢 高知	喜多山省三 大阪
六村爲樹 鹿兒島	赤穴敏一 山口	川上壯雄 山形
佐藤正四郎 新潟	大久保一櫻 高知	田尻旭一 佐賀
上村貞太 熊本	山本重雄 福岡	上村眞琴 東京

久保田利平 兵庫 佐藤繼人 山形

即日少尉候補生ヲ命セラレ左ノ通り配乘

小林萬一郎 以下九十名 阿蘇
井上成美 以下八十九名 宗谷

十一月二十二日 赤松運城師講話 (皇國ノ爲ニ盡セ)

十一月二十九日 午後西風烈シク波浪ノ爲石垣破壊

十二月十三日 教育本部第一部長ヨリ校長ニ

別紙一號申出ニ對シ海軍大臣ヨリ二號ノ通承認相成候

(一號) 學藝技術獎勵金寄附申出書
一金壹千圓也

右亡父高木三郎遺言ニ依リ海軍兵學校生徒卒業試験ノ際優等者へ賞與基金トシテ寄附シ其利子ヲ當該官ニ於テ適當ト認ムル方法ニ依リ右賞與ニ充用セラレ候様致度候條御承認相成度候也

本籍 神奈川縣横濱市青木町三七七番地
住所 東京市京橋區銀座四丁目一番地
神奈川縣士族 高木 正義

海軍大臣男爵 齋藤 實殿

(二號)

明治四十二年十二月

大臣

高木 正義 宛

學藝技術獎勵金寄附承認狀

一金壹千圓也

右ハ海軍兵學校ニ於ケル學術獎勵ノ主意ヲ以テ寄附申出ノ趣承認候條現金ハ海軍省經理局技
術獎勵金出納官吏海軍主計少監新關善吉へ送付可有之候也

十二月廿日 ヨリ二十七日迄第三學年生徒二河川丸ニテ巡航練習セシム

十二月廿一日 生徒ニ冬季休業外出ヲ許ス

第三學年生徒 十二月廿七日ヨリ翌年一月九日迄

第一、二學年生徒 十二月廿一日ヨリ翌年一月九日迄

十二月卅一日 現在職員氏名及生徒數

校長	中 將	吉松茂太郎	副官	少 佐	犬塚助次郎
教頭兼	大 佐	花房祐四郎	副官兼	大 尉	河北一男
監事長					

砲術教官兼監事

中 佐	堀田第四郎	少 佐	匝 璜胤次
大 尉	齋藤 清	大 尉	松本 匠
同	駒林次郎	同	福田武男

水雷術教官兼監事

中 佐	山下正武	少 佐	大寺量吉
大 尉	河北一男	大 尉	堀江平彌

航海術教官兼監事

中 佐	伊東祐保	少 佐	迎 邦一
少 佐	福村篤男	同	十川長吉
同	前川直平	大 尉	江副九郎
大 尉	加藤勁次郎		

運用術教官兼監事

少 佐	和田博愛	少 佐	小倉卯之助
少 佐	中牟田武正	大 尉	加賀山 幾

明治四十二年

監事兼教官 大尉 藏原惟皓

同 松原彦介

大尉 佐々木革次

機關術 教官

同 大尉 曾山芳雄

機關中佐 栗田富太郎

同 大尉 石津乙彌

普通學 教官

教授 松井喜三郎

同 服部正魁

同 保坂丑太郎

同 鹽治應太郎

同 早川金之助

同 内田雄太郎

同 田中西熊

同 堀英四郎

同 細川源三郎

同 酒卷貞一郎

同 酒井小太郎

同 山本他家松

同 内藤信夫

同 原田竹二郎

同 川井田藤助

同 松宮馨

軍醫長 軍醫大監 武田正守

附 同 少監 藤沼械四郎

大軍醫 壁島爲造

主計長 主計中監 山崎彦之進

附 大主計 後藤次男

教員

砲術 兵曹長 後藤勝太郎

下士官 十六名

水雷術 上等兵曹 川合春四郎

同 七名

運用術 上等兵曹 田中近次

同 木村歌太郎

下士官 十二名

航海術 下士官 一名

上等機關 兵曹 大條哲郎

機關術 機關兵曹長 川村熊太郎

下士官 六名

本校 附

上等筆記 大谷蕃

書記 倉田龜三郎

同 田島幸太郎

同 森脇熊次郎

同 大久保友市

技手 原田政吉

同 福中松太郎

明治四十二年

囑託教員

劍術 猿田東之助

同

守口福三郎

同 忠木鍋三郎

柔道 平田仲次郎

同

松田謙三

同 森松 度

囑託齒科醫 矢田部藤吉

生徒總數 四百五十二名

第三學年生徒 (第三十八期) 一四九

第二學年生徒 (第三十九期) 一五參

第一學年生徒 (第四十期) 一五〇

明治四十三年

一月四日 海軍省告示第二號ヲ以テ生徒百二十名召募セラル「試験場所十二ヶ所(弘前市ヲ除去ス)規
格等ハ總テ前年ニ同シ蓋シ入校ノ際再ヒ身體検査ヲ行フヘキコトヲ追加明記セリ」

一月十日 始業式生徒閱兵並分列式終テ校長 勅諭奉讀後總員運動棒倒三回

一月十三日 清國海軍學生見學ニ關スル件 (官房第八八號ノ三次官ヨリ教育本部長ニ申牒)

清國海軍學生ヲ帝國海軍ニ於テ教育セシメラレ候ニ就テハ自然我海軍諸學校工廠ヲ見學セシムヘキ
必要モ生スヘクト被存候此場合ニ於テハ該學生ノ教育ニ任スル學校長又ハ練習艦長ヨリ海軍大臣ノ
認許ヲ仰キ教官又ハ指導官ヲシテ之ヲ引率派出セシムルコト、シ又見學先ニ於テハ普通外人ノ觀覽
ト趣ヲ異ニスル點ヲ諒シ相當便宜ヲ與フル様御取計相成度

二月一日 機關講堂、氣象講堂竣成ニ付吳海軍經理部ヨリ受領ス

二月四日 塊艦「バンテル」艦長以下士官數名參觀

二月八日 雇員傭人使役內規、守衛服務內規、活版所服務內規、被服及學用品細則、糧食委員服務細則ヲ
改正施行ス

三月七日 第三十八期生徒池上高嶺第三十九期生徒布施公平第四十期生徒松本壽一郎ノ三名本校條例
第二十二條第四項ニヨリ生徒ヲ免ス

三月十一日 其校學生生徒練習用消耗品年額別紙ノ通り定メラル
右傳達ス (教育本部長ヨリ)

官房第七三三號 (大臣ヨリ教育本部長ニ)

兵學校、機關學校、工機學校、軍醫學校、經理學校學生々生徒練習用消耗兵器年額別表ノ通定ム
右訓令ス

別表 (抜萃)

兵器種別	員數
小銃彈藥包	一人ニ付 九〇
同空包	同 八〇
小銃口徑内筒砲及外膛砲彈藥包	在學中一人ニ付 一五
縮射彈	一人ニ付 一〇〇
拳銃一番形	在學中一回一人ニ付 一二
同「モーゼル」式	同 一〇
二听半砲空包	二、三學年生徒一人ニ付 二
安式四七吋砲擊發火管	二學年生徒一人ニ付 一

焚砲用電氣火管	同
號火 長	同十五人ニ付 一
號火 短	同 一
號火用雷管	同 二
信號火箭 尾杆付	二學年生徒四分ノ二、二人ニ付 一
同 尾索付	同四分ノ三、一人ニ付 一
同用火管	尾杆アル火箭ニ二割ヲ増ス
緩火索	二學年全員ニ付 一五米
「ウイドピース」式救難浮標用料藥罐	同 一五
同用煙火莢	同 一二
同用火管	同 四〇
筒蓋用「コルク」	同 一二
引金護針	同 二〇
大形爆發藥付探海錨	同 四
同用藥罐 裝填ノモノ	同 四

明治四十三年

三五六

小形爆發藥付探海鐘	同	八
同用藥罐 裝填ノモノ	同	八
導火藥罐	同	一〇
大形釣付弐力罐	同	四〇
同用釣	同	四
海中爆發信管	〇、三三「オーム」	二〇
同	一、六五「オーム」	九〇
斷電路信管	同	二〇
十五號爆發信管	同	一〇
安全導火線	同	二〇尋
乾綿火藥	同	五K
濕綿火藥	同	四〇K
下瀨火藥	同	五K
大粒火藥	同	二八〇K
小粒火藥	同	三K

魚形水雷發射藥	各種	同	一〇
同用擊發火管	同	同	二〇
同用電氣火管	同	同	二〇
稽古用小弐力罐	同	同	一〇
發光器	同	同	一〇

三月二十五日 午前七時半第七驅逐隊伊吹(御召艦)清國軍艦海容、海折入港(淺間ハ前日入港)午後〇時半出港ス

清國載濤殿下御來校々内御巡覽ノ上御退校

三月二十八日 本日ヨリ四日間佐伯郡廿日市町附近ニ於テ生徒野外演習ヲ施行ス

三月二十九日 伊國軍艦「カラブクア」號(吳碇泊)艦長以下將校六名參觀

三月三十日 内令第六二號本校定員表中「十七」ヲ「十六」ニ「十七人」ヲ「十六人」ニ改メラル

四月九日 本日附致頭轉任

舊 花房祐四郎 新 山縣文藏

四月十五日 上村第一艦隊司令長官來校

四月二十一日 第四十期生徒河西健本校條例第二十二條第一項ニ依リ生徒ヲ免ス

四月二十五日 第三十九期生徒鈴木三雄「萬膳」ト改姓ス
五月十一日 生徒吳海軍工廠内見學ノ件上申 (大臣宛)

毎年數度本校教官引卒ノ上各學年生徒ヲシテ造砲教授上吳海軍工廠造兵砲煩部ヲ見學セシムルノ必要アリ其都度吳工廠内取締規則第七章第三十條ノ手續ヲ履行候得ハ時機ヲ失シ教授時間ノ配當等不都合不少候條右教官並生徒同工廠造兵砲煩部見學ノ義豫メ御認許相成度
右上申ス

五月二十五日 官房第一七三六號ノ二

五月十四日兵學第四〇二號進達海軍兵學校教官及生徒吳海軍工廠造兵部見學ノ件特ニ之ヲ認許ス
但其都度吳鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クル義ト心得ヘシ

五月十七日 告示第九號本年告示第二號ニ基ク海軍兵學校生徒志願者ニ對スル身體検査日割ヲ定メラ
ル

五月三十日 内令第一〇八號教員配置表改正セラル 兵曹三六 機關兵曹六

達第六四號海軍學生生徒練習生及特修兵ニ授與スル證書及證狀書式ヲ改正セラル

六月一日 英國人「ゼー、エツチ、ナルリングハム、ダン」英語學教師トシテ雇入

内令第一〇九號特科兵配置表ヲ廢シ特修兵配置表ヲ定メラ

海軍兵學校	掌砲兵	掌水雷兵	掌帆兵	掌信號兵	掌電信兵	掌角兵	掌機兵	掌電機兵	掌工兵
高	普	高	普	高	普	高	普	高	普
二六	四一〇	五	一一二	二二〇	一〇	四五	八	一一	〇

六月四日 雇外國人官舎附屬建家共竣成ニ付吳海軍經理部ヨリ受領ス

六月十六日 卒業式當日服裝ノ件 (教本第六四〇號訓令)

爾今其校ニ於ケル卒業式當日禮服用ノ場合ニハ晴雨ニ拘ラス夏服用ノ儀ト心得ヘシ

六月二十日 井上精松井末五郎水泳教員囑託月額三十七圓 (十五日付)

六月三十日 告示第十四號海軍兵學校生徒志願者身體検査及學術試驗施行地名中「高知市」ヲ「高知縣土佐郡小高坂村」ニ變更セラル

(按) 高知市傳染病發生ノ爲

七月十四日 午前八時葡艦「エスガブリエル」入港艦長以下數名參觀午後一時出港

七月十七日 第三十九期及第四十期生徒ニ對シ及第申渡式ヲ施行ス

成績優等ニシテ學術優等章ヲ受ケタルモノ左ノ如シ

- 第三十九期生徒 霜上正太郎 山縣 武 多賀高秀
- 田結 穰 和田 操
- 第四十期生徒 岡 新 多田武雄 大和田 肇

品行善良章ヲ受ケタルモノ

第三十九期生徒 霜上正太郎

遠藤喜一

村上勇

第四十期生徒 岡新

龍崎留吉

七月十八日 第三十八期生徒ノ卒業證書授與式ヲ舉行ス (重砲臺)

御沙汰ニ依リ博恭王殿下御臨場在ラセラル (御召艦阿蘇) 供奉艦ナシ

皇太子殿下ヨリ東宮武官千坂智次郎ヲ差遣ハサル

侍從武官關野謙吉ヲ差遣ハサル

成績優等者二名へ御物ヲ賜ハル (短剣一口ツ)

拜授者 原清 杉山六藏

卒業者氏名

原清	佐賀	杉山六藏	鳥取	三川軍一	廣島
小林仁	山形	海谷優	北海道	越智孝平	愛媛
富田貴一	兵庫	梅田芳男	熊本	宮坂義平	長野
副島大助	佐賀	松浦永次郎	静岡	増田實	愛媛

澤田嘉瑞穂	新潟	松岡龍雄	佐賀	藍原有孝	大分
佐藤唯一	徳島	池田七郎	愛媛	熊野鐵雄	山口
龜井勝二	埼玉	小林徹理	新潟	和才齊	大分
河瀬四郎	鳥取	倉員仁一郎	福岡	園二郎	滋賀
平岡貞	東京	井上保雄	京都	藤原利兵衛	廣島
栗田健男	茨城	後藤鐵五郎	宮城	五藤存知	茨城
牧田覺三郎	静岡	森口重市	三重	戸塚道太郎	東京
三神仲次郎	愛媛	大野一郎	愛知	高橋爲親	鹿兒島
奥信一	大阪	酒井茂吉	愛知	井澤徹	山口
毛利良	島根	高塚省吾	岡山	井上達六	東京
中島慎一	愛知	後藤權造	廣島	内田幾雄	東京
原小隼人	長野	伊藤禎二	和歌山	武村盛	長崎
岡田顯郎	山形	福田良三	熊本	松永次郎	佐賀
田村直文	高知	稻垣生起	和歌山	須賀彦次郎	三重
武田盛治	山形	穂積龍雄	福島	仲田賢	千葉

伍賀啓次郎 岡山	梅津忠良 秋田	鈴木春松 秋田
中村季雄 滋賀	居谷吉春 和歌山	金子豐吉 長野
脇坂乘平 富山	村瀬頼治 岐阜	辻田正一 愛知
上野治作 北海道	關本織之助 和歌山	中村貫一 山口
樋口通達 德島	鶴池六藏 佐賀	湯本延藏 鳥取
宮崎清 鹿兒島	濱田義一 東京	白瀬知 秋田
岡村政夫 廣島	中村珍次 山口	井上繁里 高知
野村英策 岐阜	横山彌太郎 北海道	柴田善治郎 愛媛
原田龜山口	板垣行一 新潟	山本順平 石川
中山敦 東京	片岡太司郎 石川	藤田頼太郎 愛媛
岩越寒季 熊本	山上誠一 石川	岡野俊吉 兵庫
山本正夫 高知	千葉慶藏 宮城	渡部清重 福島
澤田實 岡山	杉本宇市 廣島	末宗重雄 大分
坂野民部 山形	本間正恭 巖手	厚東芳介 山口
日野昇一 廣島	菱輪中五 鹿兒島	大井吉郎 山形

草川淳 三重	石隈武房 佐賀	相馬清春 青森
佐藤邦彦 茨城	青野寛治 愛媛	神山徳平 熊本
池田久雄 神奈川	友成佐市郎 徳島	市原近作 佐賀
青木節二 香川	奥本武夫 兵庫	佐藤慶藏 秋田
三浦友三郎 山形	武田喜代吾 福島	關野明 東京
津田源助 岡山	古瀬倉藏 山形	加治木智種 宮崎
古橋龜一 埼玉	別府明朋 山口	田中重正 鳥取
池田晉長崎	大島良之助 大阪	中原達平 岡山
兒島昇 愛媛	岩本喜一 島根	大石五郎 京都
太田謙次郎 京都	竹内武直 新潟	水崎正次郎 和歌山
香宗我部讓 高知	武石秀登 大分	武知彦榮 愛媛
三塚俊男 宮城	兵頭隆良 愛媛	大塚敏雄 香川
内藤淳 熊本	中川順吉 滋賀	久保九次 佐賀
大道寺邁 愛媛	後藤傳治郎 山形	野末信次郎 三重
中庭祐諦 茨城	直塚八郎 佐賀	小林利三郎 茨城

田中廣吉 和歌山 石川定雄 茨城

原 清 以下八十九名 練習艦淺間乗組

杉山六藏 以下六十名 同 笠置乗組

七月二十一日 第三十九期生徒中村正雄第四十期ニ編入

七月二十六日 第四十期生徒大竹玄吾本校條例第二十二條第一項第二項第三項ニ依リ生徒ヲ免ス

七月二十九日 海軍大佐山縣文藏吉松海軍兵學校長上京不在中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

八月十一日 舊第十五號水雷艇ヲ雜役船舶トシテ本校ニ附屬セラレ本日受領ス

八月二十六日 第四十期生徒篠崎真正本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

八月三十日 生徒心得ヲ改正實施ス

八月三十一日 海軍大佐山縣文藏吉松海軍兵學校長賜暇旅行中同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

九月十二日 岡山縣平民小西千比古以下百二十名ノ入校式ヲ行フ之ヲ第四十一期生徒ト稱ス

入校生徒氏名

小西千比古	岡山	草鹿龍之介	香川	菊次亮	治	福岡
山口次平	神奈川	草苺英治	福島	澤田虎夫	岡山	
中原義正	山口	秋山輝男	熊本	福山直治	鳥取	

園田昇	岡山	榑原正木	愛知	杉本道雄	三重	
芝崎葆祿	東京	本間頼三	山口	橋本信太郎	和歌山	
山崎重暉	高知	市九利之助	佐賀	岡本亨平	廣島	
留岡勵	岡山	前田稔	鹿兒島	松村龍雄	大阪	
納富貞市	佐賀	山口榮三郎	山形	一瀬信一	福井	
藤井清輔	山口	小澤真樹	静岡	酒卷宗孝	廣島	
坪郷悅馬	山口	溪口豪介	廣島	黒瀬浩	埼玉	
上野敬三	巖手	中山友藏	高知	中島省三郎	巖手	
神田芳夫	石川	荒木照	島根	大杉守一	静岡	
岩下覬	長野	中川不二彦	愛知	鈴木豊次郎	神奈川	
保科善四郎	宮城	藤森作衛	長野	阿部文太郎	山形	
重田巽郎	長野	藤井音四郎	群馬	加藤尙雄	愛知	
小倉外吉	石川	宮坂市郎	東京	栗屋真	山口	
平尾誠一	廣島	大森仙太郎	熊本	吉利貞	鹿兒島	
中島武	千葉	垂水八五郎	大分	大田實	千葉	

伊藤賢三	和歌山	古宇田武郎	大分	平野六三	石川
島村太	大分	江口彌作	佐賀	大松澤俊實	宮城
西尾秀彦	三重	新貝恒雄	大分	柿本權一郎	和歌山
田口威雄	東京	小野源吉	山形	下山二郎	愛知
三宅二郎	東京	青木泰二郎	東京	久宗米次郎	和歌山
田村劉吉	群馬	鹿間政治	兵庫	原田覺	福島
星野慶幸	福島	石井靖彦	愛知	峰松寧夫	奈良
岩瀬正巳	長崎	吉田榮之助	東京	國分正三	福島
鈴木虎男	巖手	莊司芳吉	山形	岡恒夫	千葉
驛元三郎	山口	古木百藏	熊本	木村昌福	鳥取
松野象三	東京	星野應詔	京都	米澤市太郎	徳島
石原隆三郎	長崎	高橋美雄	山形	今村幸彦	高知
長野巖	愛媛	白井孝次	埼玉	原鼎三	和歌山
高柳儀八	佐賀	佐藤貫造	廣島	堀勇五郎	鹿児島
緒方直記	福岡	石橋善吾	佐賀	福澤常吉	石川

伊藤三郎	新潟	小早川準三	廣島	市村茂松	石川
道野清	大分	柴田瀧三郎	愛媛	徳永榮	熊本
菊地鶴治	宮城	中比良儀太郎	滋賀	二村嘉八	愛知
末宗音藏	大分	高間完	廣島	三上武	東京
山下宗次	鳥取	佐藤俊美	巖手	東郷二郎	東京華
志村喜代作	山梨	木暮軍治	群馬	圓山英勳	廣島
竹内平七	愛知	田代蘇平	東京	汐崎進	愛媛

第四十期生徒本田榮三第四十一期ニ編入ス

九月十三日 教本第二二九號ノ九教本部長ヨリ訓令

教務規定ニ關スル件

其校規則ニ依リ本職ノ認可ヲ經ヘキ教務規程ハ別紙記載例ニ準據シテ調製スヘシ

教務規程記載例

第一章 教育實施ニ關スル要旨

教育綱領ノ範圍内ニ於テ教育實施ニ關スル要旨

特ニ教育實施ノ方法ヲ概定シ又教授上特ニ留意スヘキ點ヲ示ス必要アルトキハ其ノ事項

明治四十三年

第二章 職員ノ擔任

教務ニ關シ主ナル職員ノ擔任事項(職名及職務ニ對スル擔任ヲ謂フ例ハ首席教官ハ何々ノ事項何科ノ首席教官ハ何々ノ事項ヲ擔任スルト云フカ如シ)

第三章 教授班ノ編制及教官教員ノ配置

學生生徒練習生ノ教授班編制標準

教官教員ヲ教授班ニ配スル標準(例ハ砲術ニ在リテハ二教授班ニ教官一名宛一教授班ニ教員一名ヲ配スルト言フカ如シ)

第四章 教 程

教育綱領ニ基ケル教授節目(節目ヲ示ス能ハサル場合ニハ其實施事項摘要)

教授項目ニ對スル教授日(時)數 (教程中ニ併記ス)

生徒學年ノ小區分(必要アルトキ) (同 右)

(備考) 教程作業様式ニ就テハ附表參照ヲ要ス(略)

第五章 試 驗

試験ノ種別及其ノ概定實施期(期日ヲ示シ能ハサルモノハ其ノ場合ヲ示ス例ハ何科ハ何々ヲ教授シタルトキ小試験ヲ行フト言フカ如シ)

試験ノ方法(試験問題ノ起案者、査閱者、試験施行者等ヲモ含ム)

試験ヲ實施セシテ平素ノ實績ニ依リ評點ヲ附與スルモノハ其ノ種類及評點法等ヲ掲ク

各試目ニ對スル試験若ハ評點點數及試験回数(表ニ調製シ一目瞭然タラシムルコト)

第六章 成績 決定

各種試験ノ成績ノ卒業(修業)成績ニ及ホス關係、及第落第ノ決定法、成績席次ノ決定法、證狀等級決定法、優等成績者決定法

試験缺席者及落第者ニ對スル處置法並次期編入等ノ事項

兵學校機關學校ニ在リテハ學術優等章品行善良章ニ關スル事項

第七章 考 課 表

學生生徒練習生ノ考課表調製ニ關スル事項

第八章 日 課 週 課

日 課 (起床、就寢、止業、食事、點檢、就業等ノ時間ノ規定ニシテ課業ノ内容ヲ示スヲ要ス)

週 課 (日曜日ニ分隊點檢、土曜日ニ大掃除ヲ爲ス等曜ニ依ル施行事項ヲ掲クルモノトス)

九月二十六日 第三十九期生徒百濟正夫(金澤)ト改姓ス

十月三十日 午後一時千代田、水雷艇二隻入港同一時伊吹(御召艦)龍田、驅逐艦四隻入港五時各艦艇出

發 清國載洵殿下御來校々内御巡覽ノ上御出發

十一月九日 海軍大佐山縣文藏吉松海軍兵學校長陸軍大演習見學出張不在中同職代理兼務ヲ命ス

(教育本部)

十一月十一日 公稱第二五五號汽艇ヲ受領ス(運用術練習用)

十二月一日 海軍兵學校長海軍中將吉松茂太郎免本職補海軍大學校長 (内閣)

海軍々令部參謀海軍少將山下源太郎免本職補海軍兵學校長 (内閣)

十二月九日 海軍大佐山縣文藏山下海軍兵學校長著任迄同職代理兼務ヲ命ス (教育本部)

十二月三十一日 現在職員氏名

校長	少 將	山下源太郎	副官	少 佐	三浦英晃
教頭兼	大 佐	山縣文藏	兼 同	同	河北一男
監事長	砲術教官兼	監事			

中 佐	堀田弟四郎	少 佐	齋藤 清
少 佐	吉富新八	大 尉	山名寛一郎
大 尉	駒林次郎	同	福田武男
水雷術教官兼	監事		

中 佐	山下正武	少 佐	大寺量吉	
兼副官	少 佐	河北一男	大 尉	堀江平彌

航海術教官兼	監事		
中 佐	田口久盛	少 佐	宮村曆造
少 佐	福村篤男	同	十川長吉
同	江副九郎	同	加藤勤次郎
大 尉	湯淺萬次郎		

運用術教官兼	監事			
少 佐	和田博愛	少 佐	加賀山 幾	
大 尉	中山友次郎	兼	大 尉	藏原惟皓
同	松原彦介	同	同	佐々木革次
同	橋本才輔			

機關術 教官			
機關中佐	栗田富太郎	機關大尉	石津乙彌
機關大尉	小西省三		

普通學教官

教授	服部正魁	同	保坂丑太郎
同	鹽谷應太郎	同	早川金之助
同	内田雄太郎	同	田中西熊
同	堀英四郎	同	細川源三郎
同	酒卷貞一郎	同	酒井小太郎
同	山本他家松	同	内藤信夫
同	原田竹二郎	同	川井田藤助
同	松宮馨	同	野滿隆治
監事	大尉 藏原惟皓		
軍醫長	軍醫中監 宮川兵市	附	軍醫少監 服部清一
	大軍醫 加茂貫一郎		中軍醫 向坂賢
主計長	主計少監 太田雄	附	大主計 後藤次男
砲術教員			
兵曹長	後藤勝太郎	外下士官	十六名

水雷術教員

航海術教員

運用術教員

機關術教員

本校附

囑託教員

明治四十三年

外下士官 八名

同 中野治太郎

上等機關兵曹 大條哲郎

書記 倉田龜三郎

同 大久保友市

同 原田政吉

技手

道	平田仲次郎	同	松田謙三
同	鈴木利作	同	猿田東之助
劍術	守口福三郎	同	忠木鍋三郎
理科助手	中村壽市		
齒科	安江浦次郎		

十二月三十一日 現在生徒總數

四百二十八人 內譯

第三學年(三十九期) 百五十九人
 第二學年(四十期) 百四十八人
 第一學年(四十一期) 百二十一人

明治四十四年

一月六日 海軍省告示第一號ニテ生徒百二十名招募セラル

試驗場所十二箇所(前年ニ同シ)

學術科目ノ内地文、地理、歴史、物理、化學、圖書等ノ程度中學校教授要目ニ準據スノ代リニ具體的ニ其程度區域ヲ示セリ其他前年ニ同シ

一月七日 第三十九期生徒福岡縣士族鬼憲治本校條例第二十二條第二項ニ依リ生徒ヲ免ス(不品行)

一月二十日 生徒心得中改正ス

本校内則第二百八十八條本文ノ敬禮ハ本職ニ對シテハ行フニ及ハス (山下校長)

二月二日 第三學年生徒橋本清一ハ原田ト改姓ス

二月九日 教本第一〇三號教育本部長ヨリ校長宛

學校記錄ニ關スル件

自今其校ニ學校記錄ヲ備ヘ置キ別紙教令ニ依リ記載スヘシ

右訓令ス

學校記錄記載教令

一 學校記錄ハ當該學校ノ名ヲ冠シ某校記錄ト稱ス

明治四十四年

二 學校記錄ハ左ノ部門ニ分テ記載スヘシ

第一部 當該學校ニ關スル條例規則其ノ他諸規定ノ沿革

第二部 敷地、建築物、艦船、舟艇其ノ他ノ設備並ニ教育材料ノ沿革（敷地及主ナル建築物等ハ成ルヘク圖面ヲ添ヘ置クヲ要ス）

第三部 定員ノ増減並主ナル職員ノ就退職沿革

第四部 修業ヲ經タル學生、生徒、練習生其他將校同相當官以下ノ種類員數統計

第五部 當該學校（兵學校、機關學校ヲ除ク）ニ關係アル海軍諸術科ノ進歩ヲ判定スルニ必要ナル事項ノ摘要

三 學校記錄ハ當該學校ニ於テ適宜調製シ鮮明ニ記載スヘシ

四 學校記錄ハ先ツ明治三十九年以降ノ分ヲ記載シ其ノ以前ニ係ル分ハ漸次整備ヲ圖ルヲ要ス

三月一日 朝食前ニ於テ呼吸運動ヲ施行シ生徒日課表中右ノ如ク變更ス

呼吸運動 三月 自七時至七時一〇分 四月 自六時三〇分至六時四〇分

朝食 七時一五分 六時四五分

午後ノ呼吸運動ヲ廢ス

三月四日 生徒外出内規第四條中「江田島」ノ次ニ「及東西能美島」ヲ追加ス

三月十五日 第三學年生徒山本勝美ハ下村ト改姓ス

海軍大佐山縣文藏山下海軍兵學校長旅行不在中同職代理兼務ヲ命ス

三月十六日 「カール、フォン、フアロット」 海軍兵學校雇教師トシテ拮据精勵以テ其ノ事ニ從ヒ功勞特ニ顯著ナリ依テ茲ニ金二百圓ヲ贈與ス（海軍省）

三月廿五日 本日ヨリ四日間山口縣玖珂郡岩國町附近ニ於テ生徒野外演習ヲ施行ス

三月卅一日 第三學年生徒靜永德堯ハ伊藤ト改姓ス

四月一日 英國人「マーク、マン」及米國人「ハーベ、デー、ソラント」ノ兩名英語學教師トシテ本日ヨリ四十五年三月卅一日マテ雇入

四月八日 公稱第三六一號「カッター」一隻吳海軍工廠ヨリ受領ス（新調）

四月十五日 本校教務規程改正認許セラレ（三月四日上申ノモノ）

四月廿日 官房第一三四八號大臣ヨリ吳鎮守府司令長官及教育本部長宛

生徒消耗兵器年額表中改正ノ件

明治四十三年三月官房第九一三號海軍兵學校生徒用消耗兵器年額表中英砲用電氣火管ノ部ヲ別紙ノ通改ム

兵學校用消耗兵器年額表（彈藥火工品ノ部）

兵器種別

兵學校生徒

英砲用電氣火管

二學年生徒二人ニ付 一

囊砲用電氣火管

二學年生徒二人ニ付 一

五月三日 ヨリ四日間第三學年生徒端舟巡航ヲナサシム

五月廿三日 生徒志願者身體検査日割ヲ告示第五號ニテ發布セラル

五月卅一日 本校用トシテ本年度新造セラルヘキ汽艇一隻ハ豫テ造船材料トシテ保管中ノ艦載水雷艇ヲ充用スルコトニ其筋ノ認許ヲ得タル旨吳海軍工廠ヨリ通知ニ接セリ

六月八日 公稱第二一八號、第三一一號「ギク」二隻ヲ還納ス

六月十四日 英語學教師米國人「ハーベト、デー、リランド」及英國人「ヂエー、グラハム、ジー、マーター」ノ二名自今奏任ニ准シ取扱ノ件大臣ヨリ訓令アリ

六月廿日 上命ニ依リ侍從武官男爵西紳六郎ヲ差遣サル同武官ハ午前八時來校々内視察ノ上午後三時三十分生徒點檢ノ後退校セラル

七月一日 第四十期生徒二河川丸ニ乘組近海ヲ巡航セシム

七月十七日 第四十期生徒、第四十一期生徒及第申渡式ヲ施行ス

成績優等ニシテ學術優等章ヲ授與シタル者左ノ如シ

第二學年生徒

岡

新

倉永小三

山口多聞

多田武雄

濱田邦雄

字垣經

佐藤源藏

第一學年生徒

小西干比古

中島省三郎

酒卷宗孝

品行善良章ヲ授與シタルモノ

第二學年生徒

岡

新

倉永小三

多田武雄

醍醐忠重

吉永孟

第一學年生徒

小西干比古

中島省三郎

草薙英治

高木獎學賞品ヲ受ケタルモノ

第三學年生徒

(第三十九期)

多賀高秀

第三十九期生徒梅田長十第四十期ニ編入ス

第四十期生徒門脇文吾、綠川憲之助ノ兩名第四十一期ニ編入ス

七月十八日 第三十九期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ 成久王殿下御臨場在ラセラル

侍從武官島内桓太東宮武官山岡豊一ヲ差遣サル

成績優等者四名へ短剣一口宛下賜ハル其拜受者左ノ如シ

卒業者族籍氏名
多賀高秀 田結 穰 霜上正太郎 和田 操

多賀高秀	東京	田結	穰	岐阜	霜上正太郎	富山
和田操	三重	山縣	武	山口	渡瀬甚二	鳥取
遠藤喜一	東京	竹内	收	人	愛媛	阿部嘉輔
堀内茂禮	山梨	小林	秀雄	福岡	中島寅彦	佐賀
大島乾四郎	長野	中島寅三郎	岡山	伊藤整一	福岡	
村上勇	京都	高木武雄	福島	相馬六郎	栃木	
橋本愛次	和歌山	島山耕一郎	巖手	西村祥治	秋田	
平岡糸一	廣島	神谷健一	愛知	酒井武雄	長崎	
今井田菊男	三重	阿部弘毅	愛媛	野中善雄	佐賀	
大塚幹	東京	加賀屋要吉	秋田	神保勉一	廣島	
金澤正夫	山口	村上房三	香川	清宮弘	千葉	
川島義之	高知	後藤直太	山形	尾崎主税	東京	

中村久之助	神奈川	野明松	治	長野	揃田秀雄	熊本
佐藤浩造	山形	若林清作	石川	山田義一	静岡	
塚原胤一	大阪	犬塚帷重	佐賀	角田覺治	新潟	
原田清一	巖手	大野善隆	東京	下坊定吉	福井	
日下部銀治郎	愛知	八島俊一	愛媛	新井清	東京	
岡敬純	東京	中村慶次郎	鳥取	原龍湖	石川	
竹中龍造	和歌山	下村勝美	山口	太原進	兵庫	
齋藤彌綠	岡山	三輪茂義	愛知	田村榮作	大阪	
小林嘉憲	鹿兒島	辻榮作	石川	林蓉齋	福島	
佐藤波藏	岐阜	宮原陽一	佐賀	宇垣完爾	岡山	
梶岡定道	愛媛	河原金之助	神奈川	志摩清英	宮崎	
吉富說三	山口	柴田力	静岡	徳永貨市	長野	
森田一男	福井	高木伴治郎	高知	赤荻仁	青森	
村尾二郎	長崎	山田敏世	長崎	田内眞隆	愛媛	
河口嘉勝	熊本	塚越彦太郎	山梨	山口常太郎	佐賀	

明治四十四年

山口三郎	神奈川	入船直三郎	香川	河野靜雄	大分	
原忠一	島根	大崎安兒	和歌山	藤井寛三	山口	
石井龍夫	千葉	檜橋憲基	福岡	宮武重敏	香川	
石井藝江	東京	五十嵐	惠新湯	齋藤昌二	山形	
室井留雄	新潟	鎌田道章	愛媛	市來政章	鹿児島	
平田三吾	廣島	石橋正三	東京	清水他喜雄	石川	
伊藤德堯	愛知	工藤久八	巖手	森良三	和歌山	
加茂亭佐	佐賀	勳八等戸	上虎次	福岡	菊地邦二郎	栃木
根本正清	鹿児島	安田啓二	山口	廣瀬末人	大分	
淺田滿	嵯留	茨城	濱屋七平	山口	佐伯孝二	東京
板垣盛	巖手	安住義一	佐賀	小山竹治郎	長野	
草深幸太郎	三重	山崎助一	佐賀	新葉亭造	大阪	
上條深志	長野	宮本定知	岐阜	大森良三	東京	
伊藤	岐阜	村山俊藏	愛媛	仲村保造	千葉	
津田耕作	東京	安藤龜治郎	大分	丹生秀	鹿児島	

福田拓	宮崎	小林淑人	兵庫	中里隆治	埼玉
酒井一雄	山形	奥山	麓岡山	清水	巖茨城
千代倉五郎	茨城	難波祐之	岡山	中邑元司	廣島
萬膳三雄	鹿児島	松本健	香川	野村亮吉	京都
八島元德	宮城	大藤正直	山口	田尻種彦	佐賀
小島常次郎	長崎	床井春吉	福島	倉持孫一	茨城
西本鈴次郎	東京	吉田孝	東京	高橋政一	石川
木村一郎	東京				

少尉候補生多賀高秀以下七十四名ハ阿蘇ニ田結種以下七十四名ハ宗谷ニ乗組ヲ命セラル

七月二十七日 第四十期生徒村上健三第四十一期生徒菊次亮治、藤森作衛ノ三名ハ本校條例第二十二

條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

八月十二日 賀陽若宮殿下御視察トシテ御來校即日吳ニ向テ御出發アラセラル

八月卅一日 第四十期生徒門脇盛吾臨時試驗受験ノ豫定ナリシニ疾病全治ニ至ラサルニ付第四十一期ニ編入ス

九月十一日 第四十一期生徒藤井音四郎疾病ニ付試驗未了ノ處本日臨時試驗施行及第ス

第四十一期生徒島村太疾病缺課日數多キ爲第四十二期ニ編入ス
 新生徒大西留吉以下百二十名入校ス其族籍氏名左ノ如シ

大西留吉	東京	小林謙吾	滋賀	松岡知行	東京
安場保雄	東京華	福元篤藏	鹿兒島	世良田潔	長野
三木繁二	兵庫	河野千萬城	山口	成田喜代治	青森
小柳富次	新潟	友貞操	一佐賀	大橋	破福井
小澤三良	福島	森友一	石川	森川	章廣島
辻正保	山梨	渡邊	馨宮崎	松野俊郎	山口
坂匡身	愛知	前田芳雄	熊本	福吉保夫	廣島
土井元夫	富山	佐藤敬三	熊本	長尾素夫	廣島
石崎昇	東京	岡田次作	石川	林	勝東京
市岡壽岐	阜	木山辰雄	岡山	石川	信巖手
秋吉利雄	福岡	石川又五郎	茨城	山崎	利島根
赤石久吉	北海道	村山清六	鹿兒島	阿部信夫	愛知
山田定義	福岡	奥田喜久司	兵庫	辻村武久	静岡

白石萬隆	愛媛	古瀬貴季	島根	大谷雄介	山口
万膳幸吉	鹿兒島	有賀武夫	長野	植田弘之介	茨城
佐々木東吾	宮城	齋藤榮章	新潟	水野恭介	東京
渡邊清七	福岡	伊崎俊二	福岡	升田仁助	山口
山崎貞直	東京	牛尾藤雅	山口	本多	讓石川華
小豆澤成	島根	門前	鼎福井	白根	強介山口
近藤泰一郎	愛知	土井	高山形	清田孝彦	鹿兒島
爲田茂穂	兵庫	田島英夫	埼玉	魚住治策	福岡
赤柴干城	新潟	清水昌彦	東京	初瀬清一	長崎
柳悟	佐賀	池田	人東京	中島新太郎	鳥取
隈部勇	東京	山田道行	佐賀	濱中匡甫	東京
板倉得止	千葉	伊藤尉太郎	廣島	藤田俊造	廣島
名取虎三	長野	藤永紫朗	山口	大隅正一	福岡
八木秀綱	愛媛	佐藤	壽宮城	秋山門造	香川
北澤真吾	長野	中川辰藏	新潟	相馬信四郎	秋田